

平成 26 年度

成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業

クリエイティブ分野の中核的専門人材養成におけるモデルカリキュラム開発と評価

資料編

資料1. アンケート調査用紙

(1) 色彩導入編テキスト使用の実証講座

①デザイン専門学校検定受講希望者による実証講座

アンケート用紙

2014.8.7

今回は「色彩テキスト」を使って、色彩の基礎について学習してもらいました。
学習した感想を聞かせて下さい。

文科省委託事業推進委員会
第一平田学園中国デザイン専門学校
一般財団法人日本色彩研究所

問1 今回学習したテーマに○を付けて下さい。

テーマ		学習したテーマに○
1.色の役割	1-1.誘う植物	
	1-2.動物の体色	
	1-3.人の活動と色彩	
2.光と色		
3.混色の基礎		
4.配色の考え方		

問2 デザイン学習の一環として、それぞれのテーマを学ぶ意味はわかりましたか？学習したテーマの当てはまるところに○を付けて下さい。

テーマ		よくわかる かる つ いた 意味 が	何学 習 な く る わ 意 味 か つ が た	ど ち ら で も な い	か 少 学 習 す る 意 味 が く	分 学 習 す る 意 味 が く
1.色の役割	1-1.誘う植物					
	1-2.動物の体色					
	1-3.人の活動と色彩					
2.光と色						
3.混色の基礎						
4.配色の考え方						

問3 学習する意味が「少し分かりにくかった」「分からなかった」と感じた人は、特にどのあたりを分からないと感じましたか。具体的に書ける人は、書いて下さい。

テーマ	難しかった内容

問 4 学習したテーマの中で、特におもしろいと感じたり、興味が持てたりした内容があつたら教えてください。

テーマ	おもしろかった内容・興味の持てた内容

問 5 テキストのなかには学習した範囲から、いくつかの問題が出されています。これについて下の問について該当するものに○を付けて下さい。

(1)問題をやってみましたか？

- () 問題をやった。
() 問題をやっていない。

(2)このような問題はテキストの内容を理解する上で役立つと思いますか？

- () 問題は内容を理解するうえで役に立つ。
() 問題は内容の理解には役立たない。
() どちらともいえない。

(3)問題にチャレンジした人にお聞きします。問題は難しかったですかやさしかったですか？該当する欄に○を付けて下さい。また、問題について感じたことがあつたら自由に書いて下さい。

問題	やさしい	どちらでもない	難しい
2.光と色（2問出題）			
3.混色の基礎（4問出題）			
4.配色の考え方（4問出題）			

問題についての自由意見 :

どうもありがとうございました。

②デザイン専門学校教員研修形式によるヒアリング

アンケート用紙

2014.8.22

今回は教員研修「色彩検定対策講座」に関連して、学習項目のうち4項目について冒頭で「色彩導入編」を用いた解説をいたしました。初学者に対して色彩を学ぶ必要性について説いたもので、キャリア教育としての意味合いも含めて色彩に対する取り組みの基礎を学習してもらう狙いもあります。
導入編をお聞きいただいた感想についてお聞かせて下さい。

文科省委託事業推進委員会
第一平田学園中国デザイン専門学校
一般財団法人日本色彩研究所

問1 デザイン学習の一環として、それぞれのテーマを学ぶ意味が導入編によって伝わったでしょうか？学習したテーマの当てはまるところに○を付けて下さい。

テーマ		よく習わすかる意味が	何学習するくる意味が	どちらでもない	か少し学習するかる意味がく	分学習するからなるか意味がたが
1.色の役割	1-1.誘う植物					
	1-2.動物の体色					
	1-3.人の活動と色彩					
2.光と色						
3.混色の基礎						
4.配色の考え方						

問2 各テーマの導入編の内容について、よく分かった箇所、補足した方がよいと思われる内容について、より具体的なご意見をお聞かせ下さい。スペースが足りない場合は次頁空きスペースにお書き下さい。

テーマ	御意見
1.色の役割	
2.光と色	
3.混色の基礎	
4.配色の考え方	

問 3 テキストの中には学習した範囲から、いくつかの問題が出されています。出題することの効果や問題の内容に御意見がありましたらお書き下さい。

テーマ	御意見
2.光と色	
3.混色の基礎	
4.配色の考え方	

問 4 「色のなりたち—色覚—」や「色の知覚効果」「色の心理効果」などは導入編がありませんが、必要でしょうか。また、導入編についてなんでも結構です。感じたことを書いて下さい。

どうもありがとうございました。

(2) 中小企業学び直しカリキュラム検討に関する効果測定

①塗装会社の塗装工員を対象とした実証講座

□第1回

アンケート用紙

今回は「色彩テキスト」を使って、色彩の基礎について学習してもらいました。
学習した感想を聞かせて下さい。

文科省委託事業推進委員会
第一平田学園中国デザイン専門学校
一般財団法人日本色彩研究所

回答日 9月 4日

□今回学習したテーマ

テーマ	学習したテーマ
1.色の役割	1-1.誘う植物
	1-2.動物の体色
	1-3.人の活動と色彩
	1-4.景観事例
2.光と色	—
3.混色の基礎	—
4.配色の考え方	—

問1 デザイン学習の一環として、それぞれのテーマを学ぶ意味はわかりましたか？学習したテーマの当てはまるところに○を付けて下さい。

テーマ	よく習わかるかるついた意味が	何学と習なするくるわゆか味つがた	どちらでもない	か少し学習した分するかり意味にく	分学からなるか意味たが
1.色の役割	1-1.誘う植物				
	1-2.動物の体色				
	1-3.人の活動と色彩				
	1-4.景観事例				

問2 学習する意味が「少し分かりにくかった」「分からなかった」と感じた人は、特にどのあたりを分からないと感じましたか。具体的に書ける人は、書いて下さい。

テーマ	分からなかった内容

問 3 学習したテーマの中で、特におもしろいと感じたり、興味が持てたりした内容があつたら教えてください。

テーマ	おもしろかった内容・興味の持てた内容

問 4 色彩テキストで学習した感想について、なんでも結構です。感じたことを書いて下さい。

問 5 あなたの職業を教えて下さい。

どうもありがとうございました。

①塗装会社の塗装工具を対象とした実証講座

□第2回

アンケート用紙

今回は「色彩テキスト」を使って、色彩の基礎について学習してもらいました。
学習した感想を聞かせて下さい。

文科省委託事業推進委員会
第一平田学園中国デザイン専門学校
一般財団法人日本色彩研究所

回答日 9月 11日

□今回学習したテーマ

テーマ		学習したテーマ
1.色の役割	1・1.誘う植物	—
	1・2.動物の体色	—
	1・3.人の活動と色彩	—
	1・4.景観事例	—
2.光と色		○
3.混色の基礎		—
4.配色の考え方		—

問1 デザイン学習の一環として、「光と色」を学ぶ意味はわかりましたか？当てはまるところに○を付けて下さい。

テーマ	よく学習わかるついた意味が	何学習するか意味がた	どちらでもない	か少し学習する意味にがく	分学習からなるか意味たが
2.光と色					

問2 学習する意味が「少し分かりにくかった」「分からなかった」と感じた人は、特にどのあたりを分からないと感じましたか。具体的にお書き下さい。

問3 学習したテーマの中で、特におもしろいと感じたり、興味が持てたりした内容があつたら教えてください。

問 4 今回の「光と色」では、教材を用いた演習を入れてみました。その効果に関する感想として、当てはまるものに○を付けて下さい

- () テキストに書いてある内容で十分理解できるので演習は特に必要ない。
() 理解が深まるので、演習は必要である。
() どちらでもない。(理由 :)

問 5 「光と色」の導入編では学習した範囲から 2 題の問題を出しています。これについて下の問い合わせにお答え下さい。

- (1) このような問題はテキストの内容を理解する上で役立つと思いますか?
() 問題は内容を理解するうえで役に立つ。
() 問題は内容の理解には役立たない。
() どちらともいえない。(理由 :)
- (2) 問題のむずかしさについてお聞きします。これらの問題はむずかしかったですかやさしかったですか?該当する欄に○を付けて下さい。また、問題について感じたことがあつたら自由にお答えください。

問題	やさしい	どちらでもない	難しい
青の光を赤のボールに当てると?			
マグロの切り身の照明は?			

問題についての自由意見 :

どうもありがとうございました。

①塗装会社の塗装工具を対象とした実証講座

□第3回

アンケート用紙

今回は「色彩テキスト」を使って、色彩の基礎について学習してもらいました。
学習した感想を聞かせて下さい。

文科省委託事業推進委員会
第一平田学園中国デザイン専門学校
一般財団法人日本色彩研究所

回答日 9月 18日

□今回学習したテーマ

テーマ		学習したテーマ
1.色の役割	1-1.誘う植物	—
	1-2.動物の体色	—
	1-3.人の活動と色彩	—
	1-4.景観事例	—
2.光と色		—
3.混色の基礎		○
4.配色の考え方		—

問1 デザイン学習の一環として、「混色の基礎」を学ぶ意味はわかりましたか？当てはまるところに○を付けて下さい。

テーマ	よくわすかるついた意味が	何学習するくわゆか意味つがた	どちらでもない	か少し学習した分するから意味にがく	分学習するからなるか意味たが
3.混色の基礎					

問2 学習する意味が「少し分かりにくかった」「分からなかった」と感じた人は、特にどのあたりを分からないと感じましたか。具体的にお書き下さい。

問3 学習したテーマのなかで、特におもしろいと感じたり、興味が持てたりした内容があつたら教えてください。

問4 「混色の基礎」の導入編では学習した範囲から4題の問題を出しています。これらの問題はむずかしかったですかやさしかったですか？該当する欄に○を付けて下さい。

問題	やさしい	どちらでもない	難しい
①スポットライトの混色			
②RGBの混色			
③色フィルムの混色			
④印刷の3原色CMYの混色			

問5 塗装の実務者にとって、「混色の原理」はどのように実務に関係すると考えられますか。思いついたまで結構です。お答え下さい。

問6 「混色の基礎」の導入編を学習した感想について、なんでも結構です。感じたことを書いて下さい。

問7 今回は導入編にはないカラーシステム「マンセルシステム」について、その概要と活用法を簡単な演習を交えて学習して頂きました。学習した感想として当てはまるものに○を付けて下さい。いくつでも結構です。

- () カラーシステムの導入編があった方がよい。
- () カラーシステムの使い方の一端が理解できた。
- () 色相・明度・彩度の特徴を使った色彩識別能力トレーニングは引き続き学習したい。
- () 色は具体的に見本を見て判断すればよいので、特にカラーシステムを用いなくてもよいと思う。

カラーシステム「マンセルシステム」を学習した感想を自由にお書き下さい。

どうもありがとうございました。

①塗装会社の塗装工具を対象とした実証講座

□第4回

アンケート用紙

今回は「色彩テキスト」を使って、色彩の基礎について学習してもらいました。
学習した感想を聞かせて下さい。

文科省委託事業推進委員会
第一平田学園中国デザイン専門学校
一般財団法人日本色彩研究所

回答日 9月 25日

□今回学習したテーマ

テーマ		学習したテーマ
1.色の役割	1・1.誘う植物	—
	1・2.動物の体色	—
	1・3.人の活動と色彩	—
	1・4.景観事例	—
2.光と色		—
3.混色の基礎		—
4.配色の考え方		○

問1 デザイン学習の一環として、「配色の考え方」を学ぶ意味はわかりましたか？当てはまるところに○を付けて下さい。

テーマ	よく学習する わかる ついた 意味 が	何学習する なる わかる 意味 がた	どちらでもない	か少し学習する かる 意味 にがく	分学習する らなる か意味 たが
4.配色の考え方					

問2 学習する意味が「少し分かりにくかった」「分からなかった」と感じた人は、特にどのあたりを分からないと感じましたか。具体的にお書き下さい。

問3 学習したテーマの中で、特におもしろいと感じたり、興味が持てたりした内容があつたら教えてください。

問4 「配色の考え方」の導入編では学習した範囲から4題の問題を出しています。これらの問題はむずかしかったですかやさしかったですか？該当する欄に○を付けて下さい。

問題	やさしい	どちらでもない	難しい
①色相のグループに分ける			
②ファッションの同一類似配色			
③トーンのグループに分ける			
④ファッションの同一トーン配色			

問5 配色の話をファッションの事例を用いて説明しましたが、塗装の実務者にとっては難しかったですか。当てはまるものに○を付けて下さい。

- () 仕事の分野はちがうが、わかりやすかった。
() 仕事の分野がちがうので、理解するのが難しい。

問6 「配色の考え方」の導入編を学習した感想について、なんでも結構です。感じたことを書いて下さい。

どうもありがとうございました。

② カラーシート材開発会社社員を対象とした実証講座

平成 26 年 11 月 12 日

アンケート用紙

本年度は、昨年度実証講座後の評価アンケートを反映して「色彩導入編」のカリキュラム案を開発いたしました。今回はその「色彩導入編」のカリキュラムに基づいた講座を実施いたしました。
導入編をお聞きいただいた感想についてお聞かせ下さい。

文科省委託事業推進委員会
第一平田学園中国デザイン専門学校
一般財団法人日本色彩研究所
株式会社中川ケミカル

本カリキュラムは、デザインやものづくりの分野において色彩を学ぶ意味を解説した色彩導入編です。子の主旨をご理解いただき下記の問い合わせにお答え下さい。

問 1 デザイン学習の一環として、それぞれのテーマを学ぶ意味が導入編によって伝わったでしょうか？学習したテーマの当てはまるところに○を付けて下さい。

テーマ	よく習 わす かる意 味が た	何学 習する か意味 つが た	ど ちらで もな い	か少 し学 習す かる意 味に く	分 学習 から なる か意味 たが た
1.光と色					
2.混色の基礎					
3.配色の考え方					

問 2 各テーマの導入編の内容について、特に興味深かった箇所、補足した方がよいと思われる内容について、より具体的なご意見をお聞かせ下さい。

テーマ	御意見
1. 光と色	
2. 混色の基礎	
3. 配色の考え方	

問 3 テキストの中には学習した範囲から、いくつかの問題が出されています。出題することの効果や問題の内容にご意見がありましたらお書き下さい。

テーマと問題	御意見
1.光と色 ①青の光と赤のボール ②マグロの切り身と照明	
2.混色の基礎 ①スポットライトの混色 ②R G B の混色の混色比 ③色フィルムの混色 ④CMYの混色比	
3.配色の考え方 ①色相のグループ分け ②ファッショングの同一類似配色 ③トーンのグループ分け ④ファッショングの同一トーン配色	

問 4 導入編はステップアップのための導入を目的にしたものですが、現在のご自身の部署で活用できる部分があると感じられた方は、具体的にその内容をお書き下さい。

問 5 色彩導入編を受講いただいた感想についてなんでも結構です。お書き下さい。

どうもありがとうございました。

あなたの所属部署

(3) 地域版学び直しに関する実証講座

地域版学び直しニーズに関するアンケート調査

<デザイン基礎演習導入編>

文部科学省委託事業「クリエイティブ分野の中核的専門人材養成におけるモデルカリキュラムの開発と評価」実証講座<デザイン基礎演習—導入編—>

2014.10.31

アンケート用紙

文科省委託事業推進委員会
中国デザイン専門学校
(一財) 日本色彩研究所
(有)咲楽

本事業で進めるカリキュラム開発の目標は、製造業の中で専門性の高い職に就きながらも、製品製造の一連のステップ<調査・企画・デザイン・製造・管理・広報など>を理解して業務を遂行できる職業人の養成です。

開発も2年目を迎える、アンケート結果から各科目に導入編を制作することになり、幾つかの科目について導入編を作成しています。

その導入編については、製造業のみならず職業人の基礎知識やスキルを身につけるために必要なカリキュラムであるとの評価もあり、本実証講座は受講対象の範囲を広げ、地域の様々な業種の方（学生を含む）にこの導入編プログラムの一端を受講いただき、その活用法について検討していくデータを収集していく目的で開催するものです。

今回は「デザイン基礎演習導入編」のダイジェスト版を体験いただきました。

講座を体験していただいた感想をお聞かせください。

問1. あなたの職業を教えてください。

例) 洋食レストラン経営、学生

問2. あなたはこれまで「デザイン基礎演習」を学んだことはありますか。該当するものに○を付けてください。

- () 学校教育（大学・専門学校・高校など）の中で学んだことがある
- () 社会人になって単発のセミナーや講座を受講したことがある
- () 特に学んだことがない

問3. 受講した感想をお聞かせください。

講座の内容は理解できましたか。該当欄に○を付けて、その内容についてご記入ください。
テーマごとにご回答ください。

①テーマ1<デザインの役割>

- () 理解できた。

特にわかりやすいと感じたことはどこでしたか？

- () 理解できないところがあった

特にわかりにくいと感じたところはどこでしたか？

文部科学省委託事業「クリエイティブ分野の中核的専門人材養成におけるモデルカリキュラムの開発と評価」実証講座<デザイン基礎演習—導入編—>

②テーマ2. <マークをつくる>

() よく理解できた。

〔特にわかりやすいと感じたことはどこでしたか?〕

() 理解できないところがあった。

〔特にわかりにくいと感じたところはどこでしょうか?〕

③テーマ3. <マークを使って実用品をつくる>

() よく理解できた。

〔特にわかりやすいと感じたところはどこでしたか?〕

() 理解できないところがあった。

〔特にわかりにくいと感じたところはどこでしたか?〕

問4. ご自身の現在のお仕事（学生は学習）にとって役立つと感じられましたか？理由もお書き下さい。

() 役立つ

〔理由〕

() 役立たない

〔理由〕

問5. デザイン基礎演習を受講した感想を自由にお書きください。

＜色彩基礎演習導入編＞

文部科学省委託事業「クリエイティブ分野の中核的専門人材養成におけるモデルカリキュラムの開発と評価」実証講座＜色彩一導入編一＞

2014.10.31

アンケート用紙

文科省委託事業推進委員会
中国デザイン専門学校
(一財)日本色彩研究所
(有)咲楽

本事業で進めるカリキュラム開発の目標は、製造業の中で専門性の高い職に就きながらも、製品製造の一連のステップく調査・企画・デザイン・製造・管理・広報など>を理解して業務を遂行できる職業人の養成です。

開発も2年目を迎える、アンケート結果から各科目に導入編を制作することになり、幾つかの科目について導入編を作成しています。

その導入編については、製造業のみならず職業人の基礎知識やスキルを身につけるために必要なカリキュラムであるとの評価もあり、本実証講座は受講対象の間口を広げ、地域の様々な業種の方（学生を含む）にこの導入編プログラムの一端を受講いただき、その活用法について検討していくデータを収集していく目的で開催するものです。

今回は「色彩導入編」のダイジェスト版を体験いただきました。

講座を体験していただいた感想をお聞かせください。

問1．あなたの職業を教えてください。

例) 洋食レストラン経営、学生

問2．あなたはこれまで「色彩」を学んだことはありますか。該当するものに○を付けてください。

- () 学校教育（大学・専門学校・高校など）の中で学んだことがある
() 社会人になって単発のセミナーや講座を受講したことがある
() 特に学んだことがない

問3．受講した感想をお聞かせください。

講座の内容は理解できましたか。該当欄に○を付けて、その内容についてご記入ください。テーマごとにご回答ください。

①テーマ1＜色の役割＞

- () 理解できた。

〔特にわかりやすいと感じたことはどこでしたか？〕

- () 理解できないところがあった

〔特にわかりにくいと感じたところはどこでしたか？〕

文部科学省委託事業「クリエイティブ分野の中核的専門人材養成におけるモデルカリキュラムの開発と評価」実証講座<色彩一導入編一>

②テーマ2. <色を整理する（カラーシステム）>

() よく理解できた。

〔特にわかりやすいと感じたことはどこでしたか？〕

() 理解できないところがあった。

〔特にわかりにくいと感じたところはどこでしょうか？〕

③テーマ3. <配色演習>

() よく理解できた。

〔特にわかりやすいと感じたところはどこでしたか？〕

() 理解できないところがあった。

〔特にわかりにくいと感じたところはどこでしたか？〕

問4. ご自身の現在のお仕事（学生は学習）にとって役立つと感じられましたか。理由もお書き下さい。

() 役立つ

〔理由〕

() 役立たない

〔理由〕

問5. 色彩を受講した感想を自由にお書きください。

(4) 最新情報取得講座アンケート用紙

アンケート調査のお願い

2015.2.4

日本色彩研究所では、昨年秋（2014年11月）にインドネシアの消費者色彩嗜好共同調査を実施いたしました。共同調査は会員制として行われたものでその詳細な分析結果はオープンにできませんが、今回は消費者色彩嗜好調査の他に、ジャカルタにおける現在の色彩的特徴（景観や環境の構成色、市場における各種製品色など）を視察して参りました。本講座は、最新情報取得講座のモデルケースとして、その視察調査の概要を報告いたしました。今回お聞きいただいた内容も踏まえ、今後聞いてみたい最新情報などについてご要望をお聞かせください。

問 1. 今回の内容について、ご自身のお仕事への役立ち度はどの程度ですか。

該当する□欄にチェックをお願いします。また、どのような内容が該当したのか具体的にお答えください。（複数回答可）

直接仕事で使える内容があった。

該当する内容

}

仕事の参考になる 内容があった。

該当する内容

}

もう少し踏み込んだ内容がほしいと思うテーマがあった。

該当するテーマ

}

別のテーマの視察情報も欲しい。

聞きたいテーマ

}

また、今回の話の中で上記以外に、特に興味を惹かれた内容がありましたらお聞かせください。

問 2. インドネシア以外に消費者動向の傾向をお知りになりたい国や地域はどこですか。
いくつでも結構です。お答えください。

問 3. 製品製造やそれに関連したサービスなどの最新情報取得講座で聞いてみたい内容についてお伺いします。

①リサーチ系で知りたい内容をお答えください。(例:商品嗜好や食文化など)

②最新知見で知りたい内容をお答えください。(例:製品加工技術や新素材など)

ご協力ありがとうございました。
日本色彩研究所

(5) 地域版学び直しニーズに関するアンケート調査

文科省委託事業に関する意見聴取のお願い

第一平田学園中国デザイン専門学校
一般財団法人日本色彩研究所
島根デザイン専門学校
有限会社咲楽

現在、文科省委託事業として「デザイン視点によるプロダクトマネジメントのカリキュラム開発」を行っております。これに関して企業の方や有識者の方にご意見を頂いております。何卒ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

◆ 「デザイン視点によるプロダクトマネジメント」のカリキュラム開発について

製品製造のプロセスは、通常幾つかの部署により数段階のステップを踏みます。かつては各部署間をバトンタッチのリレー方式で各工程をつないでいますが、縦割り組織の弊害が指摘されるようになり、各部署から代表者を集めたプロジェクト方式がみられるようになりました。

プロジェクトに参加する代表者は、自分が所属する部署の専門的知識や技能を備えているだけではなく、参画する各部署の業務内容を周知している必要があります。本事業では、製品製造工程における主要ステップに必要な知識や技能を修得するカリキュラムを設定し、受講・認定によるプロダクトマネジャーの資格制度の確立について企画しました。特にデザイン部署の視点を重視しています。

なぜなら、各種製品は人々の生活環境を構成し、個々の製品の表情やあり様はその環境の質を決定するので、製品を選択する際にはデザイン的評価が大きなウエイトを占めるためです。



ここで設定したプログラムは、製品を製造する企業のみならず、ものやサービスを様々な形で提供する企業にも有効であり、さらに企業規模を問わず大企業から個人経営の企業までのニーズが予想される内容であると考えています。

本プロジェクトを推進していくために皆様のご意見を頂きたいと存じます。よろしくお願い申し上げます。

◆質問1 上記の考え方で人材養成カリキュラムの開発を進めていますが、現在下記のように18種類の科目を設定しています。科目概要をお読みいただき、あなたの現在のお仕事と各科目の関連についてお答え下さい。

①学習の必要性について、記入欄①にア～ウの記号でお答え下さい。

ア：現在の仕事を遂行する上で必要な内容である。

イ：直接必要とは言えないが、知っておいた方がよい

ウ：現在の仕事を遂行する上では必要としない。

②内容の理解について、記入欄②にア～ウの記号でお答え下さい。

ア：ある程度の知識や技能は持っている。仕事を通して後進にも指導できる。

イ：その知識や技能について概要是理解しているが、詳細は分からぬ部分が多い。

ウ：よく分からぬ

③学習の要望について、記入欄③にア～ウの記号でお答え下さい。

ア：基礎から学びたい。

イ：応用編から学びたい。

ウ：学ぶ必要は感じない。

□科目概要

科 目	科目概要	記入欄		
		①	②	③
デザイン基礎構成演習	デザインの基礎的な原理を演習によって学習する。グラフィックデザイン（チラシやポスター、またはホームページなど平面的なデザイン）の基礎でもあり、プロダクトデザイン（工業製品や工芸品など立体的なデザイン）の基礎でもある。			
色彩	生活環境における色彩の役割や効果、色彩デザインの考え方や具体的な進め方。			
テクスチャー論 (マテリアルデザイン)	テクスチャーとは材質感や素材感のこと。木で仕上げた製品と金属で仕上げた製品ではその印象は大きく異なり、消費者の購買動機に大きく関わる。ここでは、デザイン制作における材質感の重要性について、事例を通して解説とマテリアルデザイン（デザインの目的に沿って、適切な素材を選定していくデザインのこと）の進め方について解説。			
ドローイング	ものづくりの現場でのコミュニケーションにおいて、簡単な絵を描いて伝達することは非常に有効である。 ここでは、誰にでも描ける描写技術を習得する。			
CG演習	コンピュータで画像を制作する技術や知識を学習する。CG（コンピュータ・グラフィックス）制作技術演習。			
プロダクトデザイン概論	プロダクト分野とは、車や電化製品、インテリア家具、文具など工業製品を製作する分野で、プロダクトデザインとはこれらの製品の形や色を設計する行為である。本カリキュラムでは手づくりを含めた「ものづくり」のためのデザイン制作を視野に入れている。 本科目はプロダクトデザインの手順や壇どころについて学習する。			
プロダクトデザイン演習	プロダクトデザインの制作手順に沿った演習プログラムにより、実務の体験を行う。			

感性科学概論	デザインの成果である「ものやコト」を評価るのは、直観的な心の働きであり、その心の働きを科学的に解明しようとする学問が感性科学である。ものづくりにおける感性やものを感受する側の感性についての考察は、デザイン制作に関わるより高度な研究領域への入り口でもある。ここでは感性の意味と感性科学的アプローチの概要を学習する。			
調査分析手法	消費者の嗜好やニーズをとらえることは、ものづくりの基本プロセスである。ここでは社会的ニーズを調査する手法や分析の手法を学習する			
マーケティングリサーチ	消費者のニーズをとらえるための調査をマーケティングリサーチ（市場調査・分析）という。ここでは具体的な事例を取り上げ演習をとおして、実践的に理解する。			
人間工学概論	使いやすさなどの機能性や安全性の側面からの製品（および環境）設計について研究する分野を人間工学という。ここでは人間工学視点によるものづくりの考え方や設計手法の概要について学習する			
人間工学概論演習	物や環境の人間工学的なチェック方法や実験方法、さらに具体的な設計までを演習により学習。			
製造技術概論	製品をつくるための加工技術全般について。材料別加工法の特徴について学ぶ。			
品質管理	製品の品質管理について、その基本的な考え方と事例紹介による品質管理の実際について学ぶ。			
プレゼンテーション	製品などの企画提案について説明する際に、より伝わりやすい資料や画像の作り方と発表の方法について学ぶ。			
コミュニケーション概論	社内コミュニケーションや消費者とのコミュニケーションにおける原則と要点。			
ブランディング概論	ブランドとは商標や銘柄のことであり、ブランディングとは他社のブランドに対して自社のブランドの優位性を消費者の意識に定着させる活動である。ここでは経営戦略におけるブランディングの基礎知識とその事例。商標や銘柄の重要性と開発事例。			
パテント基礎	パテントに関する基礎知識。特許の取得方法。			

◆質問2 これらの科目のなかから特に重要なと思われる科目を選び、その理由について書き下さい。いくつ選択しても結構です。

重要科目（ ）

理由

重要科目（ ）

理由

◆質問3 現在のお仕事との関係で、18科目以外に学びたいテーマがありましたら挙げて下さい。また、その理由をお書き下さい。

学びたいテーマ（ 理由	）
学びたいテーマ（ 理由	）

◆質問4 女性に質問します。子育てが一段落した後、再び職につくことを望むケースで、それを阻害している要因は何だと思いますか。いくつでも結構です。お答え下さい。

◆質問5 復職するときは、新しい知識やスキルの学び直しを望みますか。望む場合、どのような分野の知識やスキルを学びたいとお考えでしょうか。詳細なビジョンをお持ちの方は、具体的にお答えください。

該当する選択肢に○を付けて下さい

- () 1.新しい知識やスキルを身に付けたい。
- () 2.新しい知識やスキルは必要ない。

1.に○を付けた方はどのような分野の知識やスキルを身に付けたいのか、お答え下さい。

どうもありがとうございました。

＜科目解説補足＞

文部科学省委託事業「クリエイティブ分野の中核的専門人材養成におけるモデルカリキュラムの開発と評価」実証講座＜色彩一導入編一＞

問6. 開発中のカリキュラムは下記の教科から構成されています。ご自身の現在の職業や今後希望する職業にとって、学習の必要性を感じる科目に○を付けて下さい。
また、特に興味のある科目とその理由について、さらにこの中にはない科目で学びたいと感じていらっしゃるものがありましたら自由記述の欄にお書き下さい。

科 目	科目概要	① 導入編も必要	② 本編のみ必要	③ 科目は必要ない
デザイン基礎演習	デザインの基礎的な原理を演習によって学習する。グラフィックデザイン（チラシやポスター、またはホームページなど平面的なデザイン）の基礎でもあり、プロダクトデザイン（工業製品や工芸品など立体的なデザイン）の基礎でもある。			
色 彩	生活環境における色彩の役割や効果、色彩デザインの考え方や具体的な進め方。			
テクスチャー論 (マテリアルデザイン)	テクスチャーとは材質感や素材感のこと。木で仕上げた製品と金属で仕上げた製品ではその印象は大きく異なり、消費者の購買動機に大きく関わる。ここでは、デザイン制作における材質感の重要性について、事例を通じた解説とマテリアルデザイン（デザインの目的に沿って、適切な素材を選定していくデザインのこと）の進め方について解説。			
ドローイング	ものづくりの現場でのコミュニケーションにおいて、簡単な絵を描いて伝達することは非常に有効である。 ここでは、誰にでも描ける描写技術を習得する。			
CG演習	コンピュータで画像を製作する技術や知識を学習する。CG（コンピュータ・グラフィックス）制作技術演習。			
プロダクトデザイン概論	プロダクト分野とは、車や電化製品、インテリア家具、文具など工業製品を製作する分野で、プロダクトデザインとはこれらの製品の形や色を設計する行為である。本カリキュラムでは手づくりを含めた「ものづくり」のためのデザイン制作を視野に入れている。 本科目はプロダクトデザインの手順や壇どころについて学習する。			
プロダクトデザイン演習	プロダクトデザインの制作手順に沿った演習プログラムにより、実務の体験を行う。			
感性科学概論	デザインの成果である「ものやコト」を評価するのは、直観的な心の働きであり、その心の働きを科学的に解明しようとする学問が感性科学である。ものづくりにおける感性やものを感受する側の感性についての考察は、デザイン制作に関わるより高度な研究領域への入り口でもある。ここでは感性の意味と感性科学的アプローチの概要を学習する。			

文部科学省委託事業「クリエイティブ分野の中核的専門人材養成におけるモデルカリキュラムの開発と評価」実証講座<色彩—導入編—>

科 目	科目概要	① 導入編も必要	② 本編のみ必要	③ 科目は必要ない
調査分析手法	消費者の嗜好やニーズをとらえることは、ものづくりの基本プロセスである。ここでは社会的ニーズを調査する手法や分析の手法を学習する			
マーケティングリサーチ	消費者のニーズをとらえるための調査をマーケティングリサーチ（市場調査・分析）という。ここでは具体的な事例を取り上げ演習をとおして、実践的に理解する。			
人間工学概論	使いやすさなどの機能性や安全性の側面からの製品（および環境）設計について研究する分野を人間工学という。ここでは人間工学視点によるものづくりの考え方や設計手法の概要について学習する			
人間工学概演習	物や環境の人間工学的なチェック方法や実験方法、さらに具体的設計までを演習により学習。			
製造技術概論	製品をつくるための加工技術全般について。材料別加工法の特徴について学ぶ。			
品質管理	製品の品質管理について、その基本的な考え方と事例紹介による品質管理の実際について学ぶ。			
プレゼンテーション	製品などの企画提案について説明する際に、より伝わりやすい資料や画像の作り方と発表の方法について学ぶ。			
コミュニケーション概論	社内コミュニケーションや消費者とのコミュニケーションにおける原則と要点。			
ブランディング概論	ブランドとは商標や銘柄のことであり、ブランディングとは他社のブランドに対して自社のブランドの優位性を消費者の意識に定着させる活動である。ここでは経営戦略におけるブランディングの基礎知識とその事例。商標や銘柄の重要性と開発事例。			
パテント基礎	パテントに関する基礎知識。特許の取得方法。			

(6) 動画評価のアンケート調査

2014.12

アンケート用紙

今回、「動画」を使って色彩の導入編を学習してもらい、そのあとで講義や演習によって色彩の基礎について学習してもらいました。
学習した感想を聞かせて下さい。

第一平田学園中国デザイン専門学校
龍馬学園国際デザイン・ビューティカレッジ
一般財団法人日本色彩研究所

問 1 動画による学習は下の 4 つのテーマについておこないました。それぞれのテーマを学ぶ意味は動画によってわかりましたか？学習したテーマの当てはまるところに○を付けて下さい。

テーマ	よく学習する かるつ意味 たが	何学習する くなる わ意味 つが た	どちら でもない	か少学習 た分する かる意味 にくが く	分学習す らする なか意味 たが
1.色の役割					
2.光と色					
3.混色の基礎					
4.配色の考え方					

問 2 動画で学習したテーマのうち、内容に改良点があると感じる箇所があれば書いて下さい。

テーマ	改良が必要な箇所	理 由

問 3 学習したテーマの中で、特におもしろいと感じたり、興味が持てたりした内容があつたら教えてください。動画でも対面授業でもどちらでも構いません。

テーマ	おもしろかった内容・興味の持てた内容

問 4 動画のなかには学習した範囲から、いくつかの問題が出されています。これについて下の問について該当するものに○を付けて下さい。

(1) このような問題はテキストの内容を理解する上で役立つと思いますか？

- () 問題は内容を理解するうえで役に立つ。
() 問題は内容の理解には役立たない。
() どちらともいえない。

(2) 問題は難しかったですかやさしかったですか？全体的に感じた印象について該当する欄に○を付けて下さい。また、個々の問題でよく分からなかった問題があったと思った人は、その問題をあげて下さい。

問 題	やさしい	どちらでもない	難しい
1.色の役割 (2問出題)			
2.光と色 (2問出題)			
3.混色の基礎 (4問出題)			
4.配色の考え方 (4問出題)			

特に難しいと感じた問題をあげて下さい：

問 5 対面講座では、動画の次のレベルを学習しました。対面講座と動画の学習を体験して、その違いについて感じたことを何でも結構ですのでお書き下さい。(時間があれば意見交換)

問 6 色彩を受講した感想を何でも結構でお書き下さい。

どうもありがとうございました。

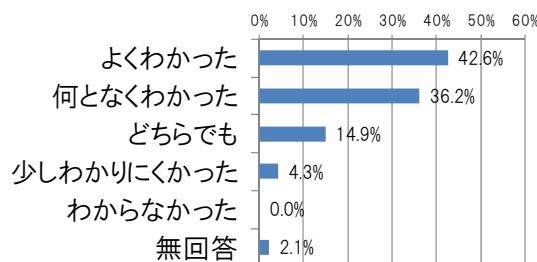
資料2. 講座評価アンケート結果

(1) 色彩導入編テキスト使用の実証講座

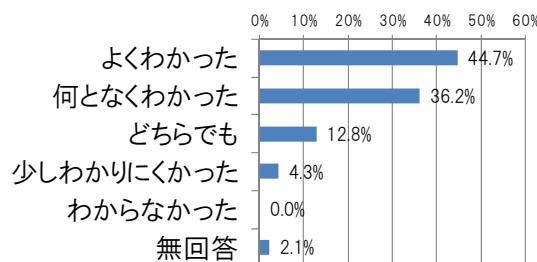
①デザイン専門学校検定受講希望者による実証講座

問2 学ぶ意味が理解できたか

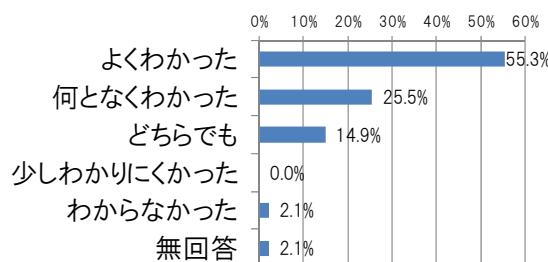
色の役割＜誘う植物＞ N:47



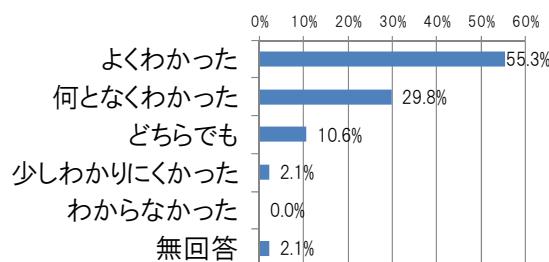
色の役割＜動物の体色＞ N:47



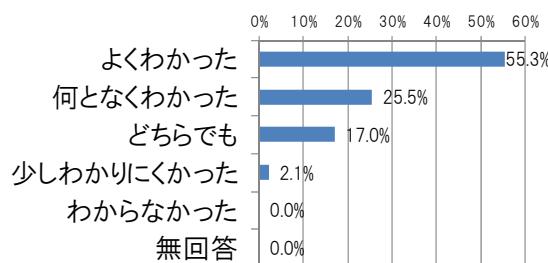
色の役割＜人の活動と色彩 N:47



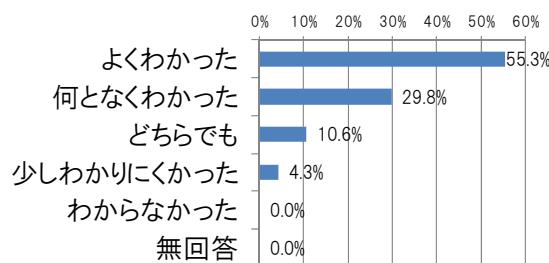
光と色 N:47



混色の基礎 N:47



配色の考え方 N:47



問3 わかりにくかった事項

<人の活動と色彩>

- ・これまで学習していなかった気がする。

<光と色>

- ・分光の辺りが難しい。

<混色の基礎>

- ・色の数値で色を当てるのが難しかった。
- ・何となくはわかるが、問題を解く時に難しいと思った。

<配色の考え方>

- ・絵の具を使わない人には想像しにくい。
- ・難しかった。聞きなれない言葉も多かった。
- ・色を覚えられていない。
- ・面白かったが、マスターするのには練習が必要だと思った。

問3 学習する意味が「少しわかりにくかった」「わからなかった」理由

- ・頭が1日ぐらいしか記憶が持たない。学習した事自体は良かったと思う (sub.2)。
- ・色と光：分光の辺り (sub.3)。
- ・配色の考え方：絵の具をあまり使わない人には想像しにくい (sub.6)。
- ・配色の考え方：色彩調和が難しかった。聞きなれない言葉も多かった。 (sub.12)。
- ・配色の考え方：色を覚えられていない (sub.18)。
- ・混色の基礎：色の数値で色を当てるのが難しかった (sub.23)。
- ・混色の基礎：何となくはわかるが、問題を解く時に難しいと思った (sub.34)。
- ・人の活動：コレは学習していなかった気がする (sub.38)。
- ・光と色：反射と吸収がごちゃごちゃになつたりしていたが、もう大丈夫 (sub.23)。
- ・配色の考え方：面白かったが、マスターするのには練習が必要だと思った (sub.23)。

問4 特に面白いと感じたり、興味が持てた内容について

<色の役割>

- ・誘う植物：植物にも色々なのがあると思った (sub.1)。
- ・誘う植物：獲物を引き寄せるために自ら色を変えるところ (sub.5)。
- ・誘う植物：色に興味を持った (sub.6)。
- ・誘う植物と動物の体色：植物、動物の色を使った性質を改めて教えてもらったり、初めて知ることもあり面白かった (sub.12)。
- ・動植物が生きる上で進化して色を利用していることに驚いた (sub.13)。
- ・誘う植物と動物の体色：自然界に馴染むために色を使っている話が面白かった (sub.23)。
- ・動物の体色：毒を持っているカエルが禍々しい色をしていてこと (sub.4)。

- ・動物の体色：生きるための色 (sub.18)。
- ・動物の体色：保護色はなるほどなと思った (sub.34)。
- ・人の活動と色彩：普段生活している中で、沢山の色が使われていると思った (sub.8)。
- ・人の活動と色彩：身近にある色の使われ方にそんな意味が込められていたのかと興味がわいた (sub.23)。

<光と色>

- ・すごく興味が持てた。また機会があれば習いたいと思った (sub.1)。
- ・光によって食べ物が美味しく見えるかどうかが変わること (sub.11)。
- ・実際、色というものがどういうものか考えたこともなく、電磁場であるということを改めて知り、ためになった (sub.12)。
- ・とても分かりやすく感じたので、意欲的に勉学に前向きに取り組みことが出来た (sub.25)。

<混色の基礎>

- ・加法混色と減法混色の原理 (sub.21)。
- ・混色が面白かった (sub.33)。
- ・加法混色、減法混色は面白く感じた (sub.38)。

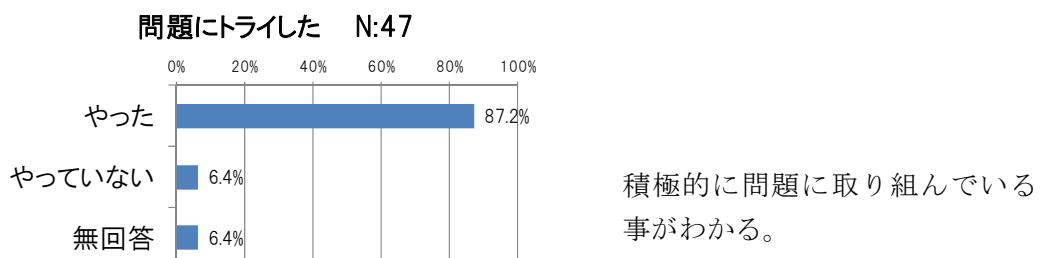
<配色の考え方>

- ・難しいイメージが強まった (sub.1)。
- ・ファッションの色の配色やアクセントカラーの使い方、トーンイントーンや色の引き出し方など (sub.3)。
- ・ファッションを使っての説明が、まとまりがある、ないなどが分かりやすく、実際に組合せてみようとか考えることが出来、面白かった (sub.10)。
- ・同じ服装でも色が違うと印象がガラッと変わって面白かった (sub.23)。
- ・配色の考え方：ちょっとした色の変化で印象がだいぶ変わったのだと思った (sub.35)。
- ・配色は面白く感じた (sub.38)。
- ・見せたい色をどうすればより見せられるかなど興味深かった (sub.42)。

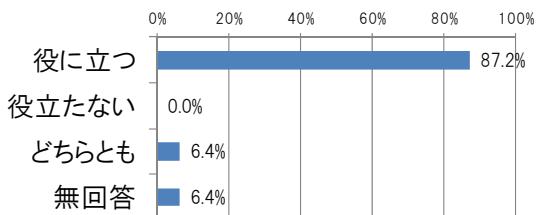
PCCSについて

- ・様々な色が見れた (sub.38)。
- ・同じ色を違う色調と比べたら面白そう (sub.38)。

問5 設定した問題について



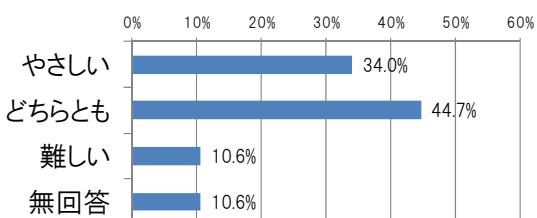
問題は理解に役立つか N:47



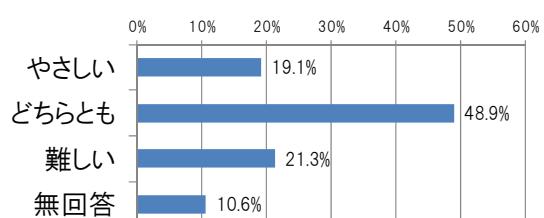
問題にトライした受講生は、役に立つと回答。

<問題の難易度について>

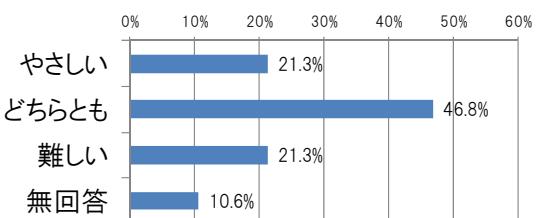
光と色 N:47



混色の基礎 N:47



配色の考え方 N:47



<問題についての自由意見>

- ・PCCS を覚えるのが難しかった (sub.8)。
- ・用紙自体に色が付いていないと、専門用語の多さで少し難しかった (sub.48)。
- ・まとめのようで、習ったことを振り返れてよかったです (sub.16)
- ・専門用語がたくさん出てくるとややこしくなる (sub.25)。
- ・混色が何度も学習しても苦手です (sub.34)。

問 7 学びたいテーマ

- ・色の相性 (sub.3)。
- ・混色をもう少し教えて欲しい (sub.4)。
- ・思いつかない (sub.5)。

- ・世界の様々な文化に使われている配色など (sub.11)。
- ・植物、動物の色を使った性質 (sub.12)。
- ・色盲等、人と見えてる色が違ったりするとき、どのように見えてるのかなと思っているので、少し学んでみたいと思った (sub.37)。
- ・人の活動と色彩 (sub.41)。

問 8 色彩テキストで学習した感想

- ・もっと色々習いたいと思った (sub.1)。
- ・全て難しかったと思う (sub.2)。
- ・色にも細かい色があって、改めて色の大切さと深さを知りました (sub.3)。
- ・わかりやすかった (sub.4)。
- ・色彩という漠然とした者は、一見普通考えれば、ただの色というふうに思うが、細かく調べれば調べるほど、まだ知らなかつたことがたくさん出てくるものである (sub.5)。
- ・色を好きになれた。興味をもつようになった (sub.6)。
- ・最初は色が全くわからなくて心配だったが、だんだんわかるようになった。家でも教えていただいたところを予習復習していく (sub.8)。
- ・混色は難しく感じた (sub.10)。
- ・分からぬ問題を練習できたり、より理解を深めることができ、役に立つ (sub.11)。
- ・色って面白い。デザインする上でも色の保つ力を上手く使えるようになりたいと思った。これから絵を描く際に、色を考えて配色したいと思った (sub.12)。
- ・名称を覚えるのが難しかった (sub.13)。
- ・わかりやすかった (sub.48)。
- ・導入編からテキストに沿った授業は興味深くて面白かった。ためになったし、色彩の奥深さを知ることが出来た (sub.16)
- ・先ずは色を覚えないといけないということを強く感じた (sub.18)。
- ・色彩は苦手だったので、今回の学習のおかげで何となくわかってきた (sub.21)。
- ・色がついた絵を描きたくなりました。絵を描く上でとても参考になった (sub.23)。
- ・色の知識がちょっとでもついて嬉しい。知識がつくと自信につながるので頑張ろうと思った (sub.25)。
- ・専門用語をよく理解していない段階で、専門用語が出てくると混乱してしまう。説明が早く、よく理解できないまま次の段階に行き困る人もいたのではないか (sub.26)。
- ・デザインの授業だけでなく、日常のファッションや室内レイアウト等にも役に立つ配色を理解できたので、参加してよかったです (sub.28)。
- ・わかりやすかった (sub.29)。
- ・難しかったけれど面白かった (sub.31)。
- ・色彩について色々わかり、興味が持てた。検定に対しての意欲と自信が持ててよかったです (sub.32)。
- ・すごく分かりやすいテキストだなと思ったが、回答が見難いとも思った (sub.33)。
- ・説明はわかりやすかった。スクリーンで色付きだったので、見やすく覚えやすかった (sub.34)。

- ・記号だけだと色がわからないので、覚えた上で受験しようと思った (sub.35)。
- ・検定でどの辺が出るのか、傾向がわかってよかったです (sub.37)
- ・スクリーンに映した図などをプリントしてくれるといいと思った (sub.39)。
- ・分かりやすくまとめたプリントがあるともっとわかりやすかったです (sub.40)。
- ・人に色がもたらす効果が面白い (sub.41)。
- ・できればパソコンで映したプリントが欲しかった (sub.42)。

②デザイン専門学校教員研修形式によるヒアリング

各テーマの導入編の内容について、良くわかった箇所と、補充が必要な箇所

1. 色の役割

＜良くわかった箇所＞

- ・色の役割ごとに、具体例が写真で示されているため、学生の興味を引き出し、理解を深める手がかりになる。 (sub.A)
- ・色彩を学ぶ理由を明確にすることはモチベーションを高めるために不可欠。 (sub.A)
- ・生活や動植物など、身近にあることから色に関する導入方法はわかりやすかった。色彩のテキストに反映させて欲しい。 (sub.B)
- ・写真が付いていて、とても見やすかった。 (sub.D)
- ・人の活動と色彩、動物の体色のところが少し説明に色のイメージやなぜその色が使われているかを説明していたら分かりやすいかと思う。 (sub.D)
- ・植物や動物の役割が、人の活動にどう関連性があるかの重複を少なくし、植物や動物の事例をひとつ上げ、こんな例がある。その展開として、「それを活用した人の活動具体例」である 8 ページのような構成が分かりやすい気がする。 (sub.E)

＜補充が必要な箇所＞

参考の写真（図版）にそれぞれ「色で隠れる」「色で目立ち警告する」等の説明をつけた方が分かりやすい。 (sub.C)

2.光と色

＜良くわかった箇所＞

＜補充が必要な箇所＞

- ・光と色の関係は、感覚的にわかるようでわかりにくい。文系の学生は苦手。 (sub.A)
- ・色覚についても導入編での扱いが必要。 (sub.A)
- ・「回折格子レプリカ」は馴染みのない用語だった。 (sub.A)
- ・全体的にわかりやすかったが、回折格子を知っている学生がいるのか？という点が疑問。 (sub.B)
- ・回折格子レプリカでの分光の原理がよくわからないので解説がほしい。 (sub.C)
- ・「初めて色彩を学ぶ人向け」という割には、少し難しいところがあると思う。 (sub.D)
- ・色の成分のところが伝わり辛いかなと思う。写真のみのページにもどの色がどうなっているかの図があれば説明しやすいと思う。 (sub.D)
- ・10 ページと 11 ページの分光結果は、8・9 ページのように統一したカラーのグラフを併用し、比較対照させるほうが分かりやすい気がする。 (sub.E)

3.混色の基礎

＜良くわかった箇所＞

- ・混色についてはとてもわかり易かったと思う。 (sub.B)
- <補充が必要な箇所>
- ・実験すれば現象として目に見えることではあるが、机上では絵の具の混色と異なる混色結果になることは理解しづらく、「覚えること」になりがち。色ごとの透過・吸収される光（色）をまず抑えないとわからないと感じた。 (sub.A)
 - ・問 2、問 4 の混色比については、わかりにくいと思う。 (sub.B)
 - ・19 ページの図はとても分かりやすい。 (sub.C)
 - ・18 ページの混色は、減法混色と加法混色を RGB のグラフにして図示し、減法と加法の違いを書いた方が直感的に理解されやすい気がする。 (sub.E)
 - ・混色・同化の距離関係の図示もあって良いような気がする。 (sub.E)
 - ・0 から 255 の RGB 値の表現が難解。 (sub.F)

4.配色の考え方

<良くわかった箇所>

- ・トーンとはなにか。配色の種類にどのようなものがあるかが非常に分かりやすい。 (sub.A)
 - ・ケースごとに図（カラーチャート）で解説してある点が特に良いと感じた。 (sub.A)
- <補充が必要な箇所>
- ・色相差については、色相環の図解がないと、初めて見る人には理解できないと思う。 (sub.B)
 - ・パレットが小さすぎてわかりにくい。 (sub.C)
 - ・色相配色は縦列、トーン配色は横列の考え方はわかりやすいが、色相配色での「環」の位置関係とトーン配色の類似・対象の位置関係は混乱させる可能性もあるため、視機相関図とトーン図の併記があると良いと思う。 (sub.E)
 - ・洋服のコーディネーションはモデルに服を着用させた写真の方が良いと思う。 (sub.F)

問 3. 学習範囲から出された問題の効果や内容について

<2.光と色>

- ・理解の確認ができると良い。解説を読むことで改めて理屈を再確認できる。 (sub.A)
- ・問 2 の白熱灯と昼光色蛍光灯の差が微妙でわかりにくい気がする。 (sub.B)
- ・答えの解説が不十分であると感じる。 (sub.C)
- ・「科学的なところ」という別分野に捉える学生が多いので、触れるという意味であったほうが良い。 (sub.E)

<3.混色の基礎>

- ・原理が理解できているか確認するのに良い材料だと思う。 (sub.A)
- ・問 2、問 4 は混色比をもう少しありやすくしてほしい。 (sub.B)
- ・このような出題は根本的な混色の理解を要するので良いと思う。 (sub.C)
- ・つまづきやすいところだが、必要なので効果があると思う。 (sub.E)

<4.配色の考え方>

- ・理解を深めるのに適した設問だと感じた。 (sub.A)

- ・とてもわかりやすかった。 (sub.B)
- ・選択肢が類似トーンの場合、印刷ではわかりにくい。 (sub.C)
- ・実技に必須のため、効果があると思う。 (sub.E)

問 4. 「色の成り立ち－色覚－」や「色の知覚効果」「色の心理効果」なども導入編は必要か。また、導入編に対する意見。

- ・学ぶ対象者の設定にもよるが、導入編でも用語がわかっている前提で話が始まる場面が散見される。指導者による用語解説がかなり必要になる。そのため、用語解説ページがほしい。 (sub.A)
- ・試作品のためか、全体的に写真が粗いのが惜しい。 (sub.A)
- ・20から21ページのフルカラー印刷の解説用写真はわかりやすい。導入としてはこのレベルまでかみ碎いた説明がほしい。 (sub.A)
- ・カラーマスターべーシックに今回の導入テキストのような解説を加えてほしい。1章から難しく、3章になると心が折れそうな学生もちらほらいるのが現状。指導方法も工夫している。色の知覚効果はデザイン・イラストなどに特にかかるところなので、教科書の図解では理解しにくく、Tシャツの柄など、こちらで工夫してわかりやすく噛み砕いて理解させている。 (sub.B)
- ・カラーマスターべーシックと導入テキストの中間ぐらいが3級でも良い気がする。
(sub.B)
- ・バランスよく学ぶために必要だと思う。 (sub.C)
- ・「色の成り立ち」は、色彩学の授業で一番最初の「つかみ」に相当するところで、「なぜ？どうして？」という説明をするのに最も大事なところだと感じている。学生が興味を持ってくれるような導入編があればありがたい。 (sub.E)
- ・「知覚的効果」「心理的効果」は重複箇所が多く、混乱することもあり、極力シンプルにまとめているが、「実例」という意味ではあると良いように思う。 (sub.E)
- ・カラーマスターべーシックと3級の検定はこのままで良いと思う。導入編テキストも全般的にはわかりやすいと思う。特に色の役割の1-1.「誘う植物」の項目は追加して欲しかった内容ありがたい。 (sub.F)
- ・学生の時に講師から言わされた「デザイナーである前に人間であり、人間である前に生物であることを忘れるな！」という言葉を思い出した。 (sub.F)
- ・カラーマスター（スタンダード）では、2級検定対策では「色彩におけるユニバーサルデザイン」、第4章「色の表示方法」、第5章「色の知覚的効果」、第6章「色の心理効果」が学生に教えにくい。学生の顔つきが暗くなる。 (sub.F)

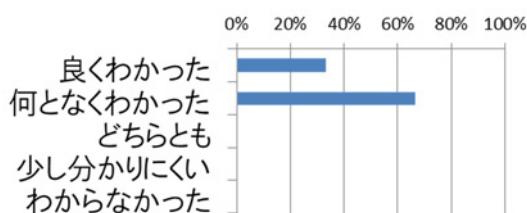
(2) 中小企業学び直しカリキュラム検討に関する効果測定

①塗装会社の塗装工員を対象とした実証講座

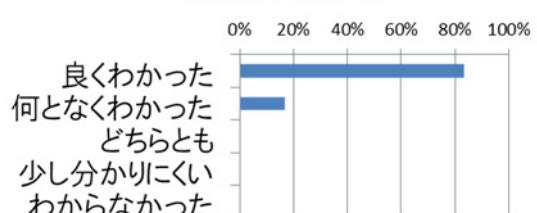
第1回「色の役割」

問1 学習する意味については理解できたか。

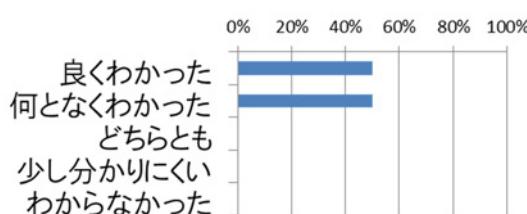
「誘う植物」



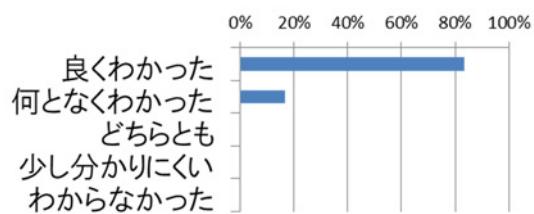
「動物の体色」



「人の活動と色彩」



「環境事例」



問2 学習する意味が「少しあわかりにくかった」「わからなかった」と感じた点

該当テーマ：人の活動と色彩

- ・どのような角度で見ていいのか色と色の交わりが分かりにくかった。
- ・もう少し詳しく知りたい部分がありましたが、どこかといわれると分かりません。

問3 面白いと感じたり、興味が持てた内容

<人の活動と色彩>

- ・機能や効果とインテリアのカラーコーディネートなどによる心地よさやイメージの演出にとても興味を持ちました。
- ・色でイメージが変わっておもしろいと思った。

<誘う植物>

- ・臭いなどを出して虫をとらえること。

<動物の体色>

- ・目の模様とか付けて驚かせたり、目立つたりするのが面白かった。
- ・見事に体色を同化させるものだとおもう。これも生きていくすべなのかと。動物は面白い。
- ・自分の身を守ったり、風景に溶け込んでいること。

- ・もともと知っていた部分と合致した感じです。

<景観事例>

- ・仕事上、一番頭にピンと来ました。
- ・地域のイメージ、機能的効果、情緒的効果。

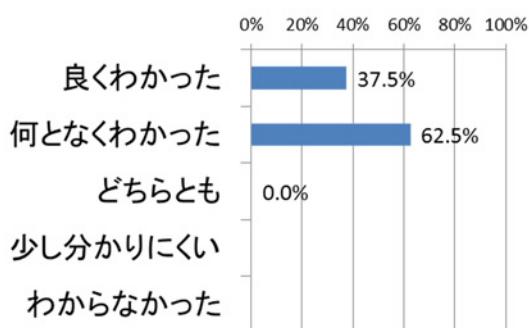
問4 受講後の感想

- ・色の役割(導入編)から基礎を改めて勉強し、次の講義が楽しみです。
- ・色は大事だと思った。
- ・建物の街並みが、違和感がないような作り方がこれからの課題だと思います。
- ・生活していく上で色がすごく関係しているのだと、話を聞いて思いました。
- ・色は人間だけじゃなく、すべての生物に共通することであり、いちばん身近なものと再認識しました。仕事上色を使う仕事なので色々と調べて仕事に生かしていきたいと思います。

第2回「光と色」

問1 学習する意味については理解できたか。

「光と色」学ぶ意味



問2 学習する意味が「少しあかりにくかった」「わからなかった」と感じた点

特になし。

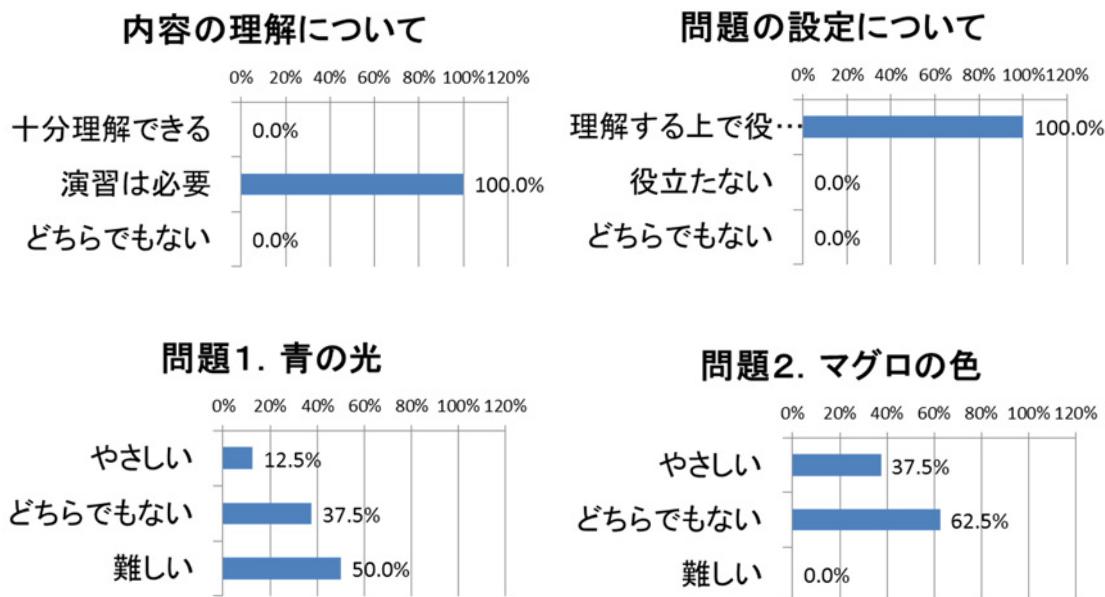
問3 面白いと感じたり、興味が持てた内容

- ・光の違いで色の見え方がまるで異なる。
- ・照明を使って実際に目にしたときは最高でした。
- ・色の変化に驚きました。我々も色を使う仕事なので、頭に入れときたい知識です。
- ・色というのは、光によって色々に見えるところが興味を持ちました。
- ・レプリカフィルムを通して電球を見て光の原色が変化しているところが勉強になりました。
- ・オフィスとレストランで人に与える光の効果が興味をもったのでこれから勉強したい

と思いました。

- ・光にはいろんな色が入っていておもしろかった。
- ・光の白色。光によって変わる色の見え方。分光。

問4 内容の理解と、設定した問題の難易度について



<自由意見>

- ・実際に、物を照らすことで色々に見えてきました。
- ・携帯アプリでも食べ物の写りをよくするアプリがあるので、こういう内容もよいと思った。

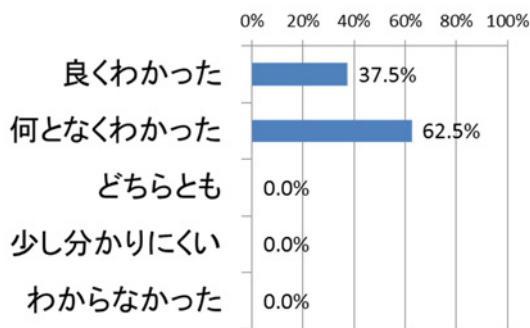
問5 受講した感想

- ・光と色の関係では、現場でもとともに役に立つと思います。もしこのようなことに直面した時にはこの問題を思い出します。今後に役立てたいと思います。
- ・興味、関心が深まり、わくわくする内容でした。
- ・見た物全てが色だと感じていましたが、光あっての物だと知りました。
- ・光というのは、人間の目で見ると色々に見えると思いました。
- ・演色見本板の色がまるっきり違って見えたのがびっくりしましたし、勉強になりました。
- ・光の色によって人間はさらされてていると思い、店舗等で色を扱う際は利用したいと思いました。
- ・光で物の色が変わっておもしろかったです。
- ・色を見本帳と合わせるときの環境や状況の場面を今後より気にかけていこうと思いました。

第3回「混色の基礎」

問1 学習する意味については理解できたか。

「混色の基礎」を学ぶ意味



問2 学習する意味が「少しあかりにくかった」「わからなかった」と感じた点

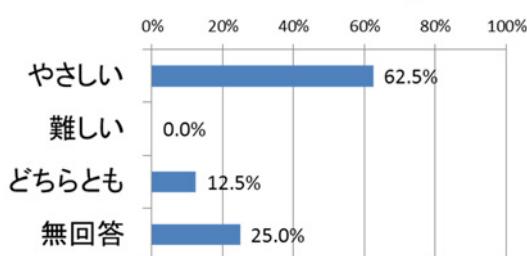
特になし。

問3 「混色の基礎」について、特に面白いと感じたり、興味が持てた内容について。

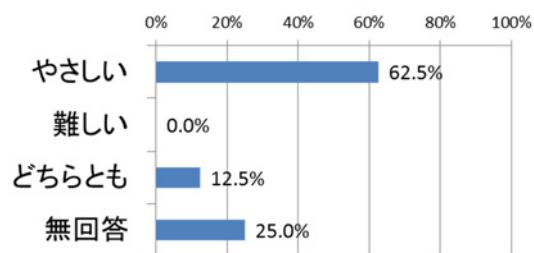
- ・デジタルディスプレイなどが赤緑青の混色でできていると分かってよかったです。
- ・マンセル表に興味が持てた。塗装の色見本にもマンセル記号がつかわれていることを知って驚いた。
- ・絵の具とか光とか混ぜた色が違うのが面白かったです。
- ・フルカラーの印刷 CMYK の重ねでできていると知り面白いと思いました。黄、赤、青でフルカラーに見えるのが面白いと思います。
- ・減法混色に興味を持ちました。混色は全体的に面白かったです。
- ・フルカラーのときは、おーとなつた。
- ・写真の4色から成り立つやつが面白かったです。
- ・加法混色と減法混色がよく分りました。

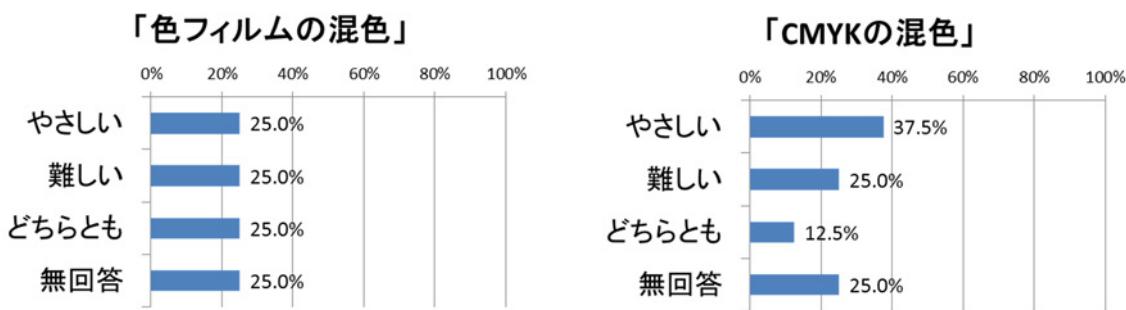
問4 設定した問題の難易度について

「スポットライトの混色」



「RGBの混色」





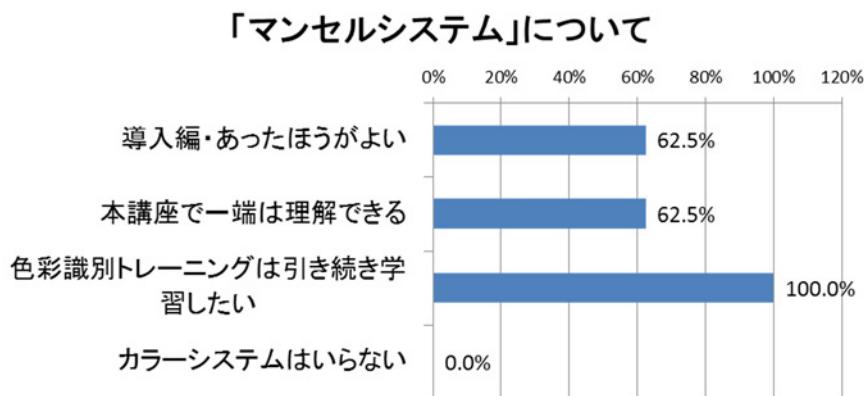
問5 塗装実務者にとって、「混色の原理」はどのように役立つと思うか？

- ・ネタ作り、必要な塗料などが欲しいときに混色の原理をしっていれば役に立つと思います。
- ・色合わせのもととなる。調色に直結すると思いました。
- ・似た色を調色する際近い色から合わせるのに役立つと思いました。
- ・これから現場で調色するのにかなり役に立ちました。

問6 「混色の基礎」を学習した感想

- ・緑赤青のスポットで焦点が白になるなど勉強になりました。
- ・色光の混色が私の思っているイメージと全然違うことに驚きました。
- ・トレーニングが難しかったけど楽しかったです。
- ・考えている以上に難しいと感じました。勉強になりました。
- ・とても勉強になりました。もっとトレーニングを積みたいと思いました。
- ・実務を取り入れると分かりやすかったです。

問7 マンセルシステムの概要と活用法の説明について



<カラーシステム「マンセルシステム」受講後の感想>

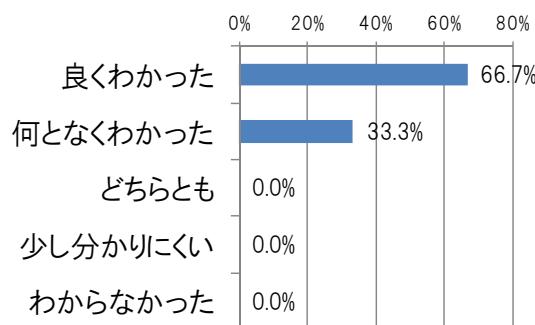
- ・勉強になりました。忘れていたことを少し思い出しました。
- ・勉強しないと覚えられない知識なので、すごくためになりました。マンセルシステムで色の見方を覚えることができました。

- ・トレーニングが楽しかった。
- ・色のデータ化でより分かりやすくなると思います。
- ・原則を理解した上でシステムを利用したほうがずっと仕事で価値のあるものと思っています。
- ・もう少し勉強したいです。

第4回「配色の考え方」

問1 学習する意味については理解できたか。

配色の考え方 N:6



問2 学習する意味が「少しあかりにくかった」「わからなかった」と感じた点

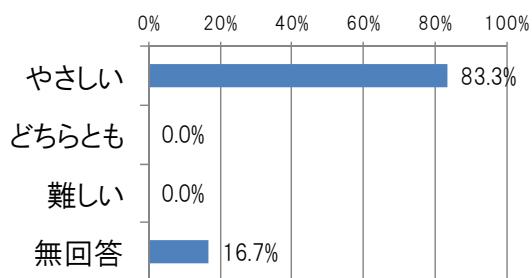
特になし。

問3 「配色の考え方」について、特に面白いと感じたり、興味が持てた内容について。

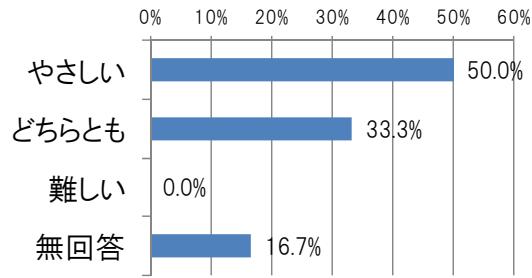
- ・色相別、トーン別の配色にとても興味がある。
- ・配色の組合せについて、お客様に話す際の勉強になった。
- ・配色で印象がとても変わるので面白いと思った。
- ・同一色相配色、類似色相配色のファッションが自分で服を合わせるときなどの参考になった。
- ・類似色相配色と同一色相配色とのコントラストが大変いいと思った。

問4 設定した問題の難しさについて

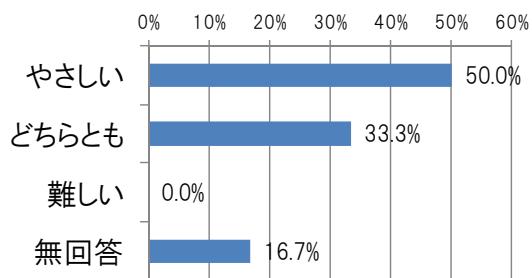
色相のグループに分ける N:6



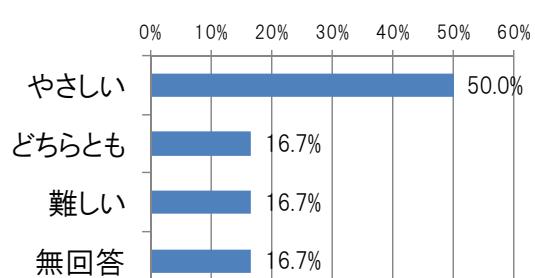
同一類似配色 N:6



トーンのグループに分ける N:6

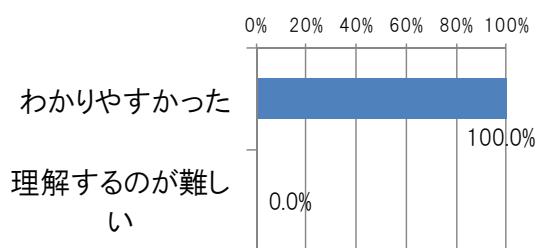


同一トーン配色 N:6



問 5 講義内容の難しさについて

内容の難易度 N:6



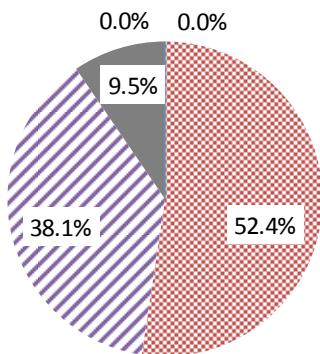
問 6 「配色の考え方】導入編を学習した感想

- ・仕事柄、YR の配色についてもう少し知りたいと思った。戸建の事例はとても参考になった。実用的な観点を照らしあわせてしまう傾向が皆で見ていて感じた。
- ・わかりやすかった。住宅の塗替えのイラストも仕事で関わっているので、興味がわくし、参考になった。
- ・問題が面白かった。服を着るときに配色を期にしてみようと思った。
- ・同一色相配色、類似色相配色、対照色相配色などを知り、勉強になった。
- ・これから配色について勉強していきたいと思う。

② カラーシート材開発会社社員を対象とした実証講座

問1 それぞれのテーマを学ぶ意味が導入編を受講することによって伝わったか。

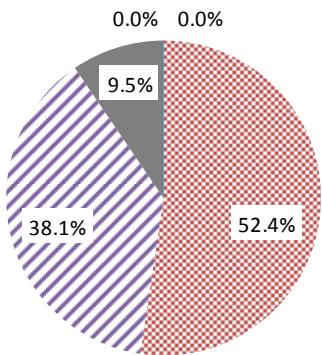
光と色



- ❖ 学習する意味が良くわかった
- ✓ 何となく学習する意味がわかった
- どちらでもない

- 学習する意味が少しわかりにくかった
- 学習する意味がわからなかった

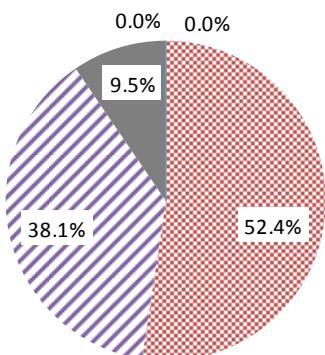
混色の基礎



- ❖ 学習する意味が良くわかった
- ✓ 何となく学習する意味がわかった
- どちらでもない

- 学習する意味が少しわかりにくかった
- 学習する意味がわからなかった

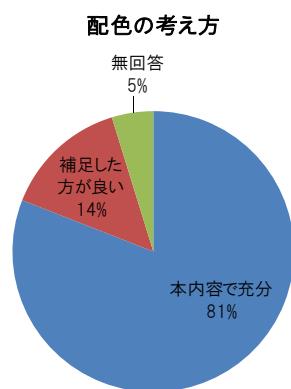
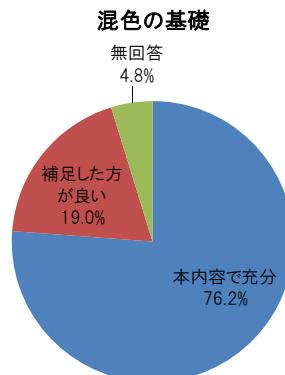
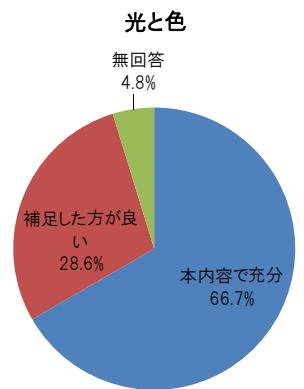
配色の考え方



- ❖ 学習する意味が良くわかった
- ✓ 何となく学習する意味がわかった
- どちらでもない

- 学習する意味が少しわかりにくかった
- 学習する意味がわからなかった

問2 導入編の内容について、補足したほうが良いと思われる内容。



<光と色>

- ・どのテーマも基本的な知識として必要なことなので、どれも興味深くどれも分かりやすく、とても勉強になった (sub.1)
- ・目で確認できてわかりやすかった。ただし、画面が小さく、もっと大きく分かりやすく見ることができれば理解がより深まると思う (sub.3)
- ・光によって赤が黒に見えたりと驚いた。マジックなどでも使われていそうだなあと思った (sub.4)
- ・光源によってこんなに色（見え方）が違うのかと感じた。プレゼン（光の差を見るとき）が見やすいともっと良かった (sub.5)
- ・光があって初めて色が見えるという点が当たり前なのだが、はっきりと理解でき興味深かった (sub.6)
- ・次回はLEDの見え方も例示して欲しい (sub.7)
- ・照明効果の重要性が理解できてよかったです (sub.8)
- ・光によって色の見える（物体の色）がかなり違いがあることがわかった (sub.9)
- ・光源で野菜の色が違って見えること。ここまででは事実確認で分かった。次にレプリカフィルムを使った分光結果を見ること。この関係がややわかりにくかった (sub.10)
- ・回折格子レプリカを使用することにより、光に色があることがはっきりとわかった。面白かった (sub.11)。
- ・回折格子レプリカフィルムでの光成分の違いが明確だった。初体験 (sub.12)

- ・回折格子レプリカを使用した光源の説明はわかりやすかった。波長についての話を入ると良いかも (sub.13)。
- ・回折格子レプリカを使い、光源がどの色を強く出しているかよく理解できた (sub.14)。
- ・光のグラフ（プリズムを通して）を知らなかつたので、すごくいい勉強になった (sub.15)。
- ・白色光がプリズムを通過させると個々の色に別れるのが面白かった (sub.16)。
- ・光源の種類や強さにより、色に影響をあたえることが興味深かった (sub.17)。
- ・具体的各光源を使っての説明はわかりやすかった。違いがよく分かる。メタメリズムなど (sub.18)。
- ・実際に青色の光と赤い玉を用意したものを見たかった (sub.19)。
- ・とても興味深く聞かせていただいた。光に色があることを改めて認識した。光の種類で見え方が変わることも勉強になった (sub.20)。
- ・同じものが光源によって全く違うイメージになること、驚きました。女性のルージュや野菜の色など (sub.21)。

<混色の基礎>

- ・どのテーマも基本的な知識として必要なことなので、どれも興味深くどれも分かりやすく、とても勉強になった (sub.1)
- ・CMYK、RGBの意味がよく理解できた。実用品などで説明してもらうと、より生活に近い理解ができると思う。 (sub.3)
- ・殆どの色が混色だということは初めて知った (sub.4)
- ・意外と知らないことが会って勉強になった (sub.5)
- ・CMYKで全て表現できることを体感できて興味深かった (sub.6)
- ・IROMIZUを事例にして欲しい (sub.7)
- ・減法混色は絵の具に慣れているので理解していたが、加法混色の実演は新鮮で楽しくてよかったです (sub.8)
- ・加法混色、減法混色、混色の原理があり、それぞれが色の素材によって見え方の違いがあることがわかった (sub.9)。
- ・加法混色は分かった。減法混色がわかりにくかった (sub.10)。
- ・加法混色と減法混色を知らなかつたので、実際に目の前で行っていただきわかりやすかったです (sub.11)。
- ・色彩検定時の学習を思い出した (sub.12)。
- ・図ではなく、実際にスクリーンに映し出して体験できてよく理解できた。クイズ形式で色を学ぶのも面白かったと思う (sub.14)。
- ・混色の種類を体験できたことが良かった (sub.15)。
- ・混色の2つの原理を初めて聞いたので、色が出来る仕組みがわかってよかったです (sub.16)。
- ・光の三原色、色の三原色の原理はわかりやすかった (sub.17)。

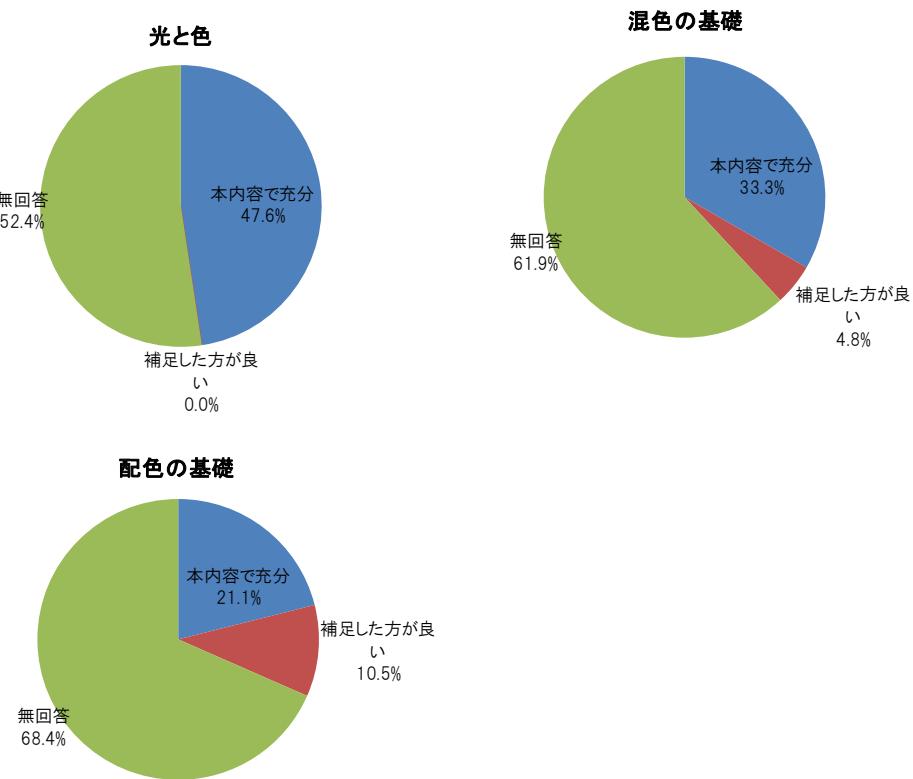
- ・もっと他の混色について、顔料をミックスして色を作っている会社としてもう少し詳しく聞きたかった (sub.18)。
- ・これにより LED が黄色と青で白色が出せるんだと理解した。最近の青色ダイオードが出来たことにより、どのようなことが可能になるかも知りたかった (sub.19)。
- ・重ねて使用する粘着フィルムもあるので、参考にしたいと思う。少しでも日常業務に活かすことができればと思う (sub.20)。
- ・光には含まれる色と含まれない色があり、それが重なると別の色ができることも感心した (sub.21)。

<配色の考え方>

- ・どのテーマも基本的な知識として必要なことなので、どれも興味深くどれも分かりやすく、とても勉強になった (sub.1)
- ・配色の考え方をファッションでのコーディネートを例にあげていたのが身近で分かりやすく導入編としては良かったと思う (sub.2)
- ・非常に理解できた (sub.3)
- ・服を着る上でカラートーンは大事だなと実感した (sub.4)
- ・NOCS のテーマ、強みを理解するには重要だと改めて感じた (sub.5)
- ・色相を使い、コーディネートすると随分印象が違うところが興味深かった (sub.6)
- ・次回はモデルを男性にして下さい。(私は男性です)。スーツ、Yシャツ、ネクタイ、ポケットチーフのファッションの配色事例を見たい (sub.7)
- ・NOCS システムをもう少しうまく導入できないか (sub.8)
- ・普通に生活している中で、当たり前のように配色をしてきたことが人間の感覚の中で自然なことだと感じた (sub.9)
- ・NOCS に触れてきたせいか、これらはよく理解できた (sub.10)
- ・色の分類については、普段複を選択するときに行っていたような気がする。なので類似色などわかりやすかった。ただ、色差が 8 から 12 あると対照色になると知りました (sub.11)。
- ・服装をコーディネートするとき、自然に配色を考えているが、改めて理解した (sub.12)。
- ・同一色相配色、類似色相配色をカラーチャートとファッションの例と比較されていてよく理解できた (sub.14)。
- ・配色の導入編を再認識することで忘れかけていたことが再度わかったのでとても良かった (sub.15)
- ・普段気にせずに複などを選ぶけれど無意識にこういったことを考えているのかもしれないと思った (sub.16)
- ・配色の説明を看板屋装飾に置き換えてもらえば、ディスプレイ業界として伝わりやすい (sub.17)。
- ・統一と変化のキーワードがわかりやすかった (sub.18)。
- ・服装のことなど、身近で勉強になった (sub.19)。
- ・アパレル関係の方には特に参考になるのではないか (sub.20)。

- ・統一感のある配色、服装や空間などのムード作りに一定の公式があることは教養として大切なことと感じた (sub.21)。
- ・画面が小さい。もっと大きく分かりやすくみることができればよい。
- ・LED の見え方についても例示がほしい。
- ・波長についての話を入れるとよかったです。
- ・用意されている問題の回答を実演でやってもらいたかった

問3 テキスト内の問題について、出題することの効果や内容に関する意見



<光と色>

- ・普段見かける魚屋さんやお肉屋さんの照明には、白熱灯を使う理由があったというのが色と光を学ぶ上で身近な例として良かった (sub.2)。
- ・大きな実物を用意すれば分かりやすいと思う (sub.3)。
- ・電球の色味によって、目に見えるものの色が変化しているように見られるのは、興味深く驚いた。今度飲食店などで確認してみたい (sub.4)。
- ・分かりやすいと思う (sub.5)。
- ・問題を通して理解が深められてよかったです (sub.6)。
- ・導入編としては良かった (sub.8)

- ・①の回答は紫かと思っていた。②の問題はよく聞くことなので、なるほどという感じがした (sub.11)。
- ・よく理解できた (sub.13)。
- ・問題を通してより理解が深まった (sub.18)。
- ・光に要素があることは実際の生活の中でとても大事な知識として感じた (sub.21)。

<混色の基礎>

- ・②の混色比と③の色フィルムの混色が難しかった (sub.3)。
- ・混色が殆どで、いろいろな色を混ぜたら色ができるのはいつ見ても不思議だなど実感した (sub.4)。
- ・CMYK 印刷の根本が見えた気がする (sub.5)。
- ・問題を通して理解が深められてよかったです (sub.6)。
- ・導入編としてはよかったです (sub.8)。
- ・よく理解できた (sub.13)。
- ・より理解が深まる問題設定だった (sub.18)。
- ・光に要素があることは実際の生活の中でとても大事な知識として感じた (sub.21)。

<配色の考え方>

- ・カラーカードで並べて考えたい (sub.5)。
- ・問題を通して理解が深められてよかったです (sub.6)。
- ・導入編としては良かった (sub.8)。
- ・よく理解できた (sub.13)。
- ・時間があれば、もう少し突っ込んだ問題もあればより良いと思った (sub.18)。
- ・感性、センスは勉強で強化できる。これは素晴らしいことだと感じた (sub.21)。
- ・大きな実物を用意すればもっと分かりやすい。

問 4 導入編の内容で仕事に活用できる点はどのようなことか

- ・インクジェットプリンタを使用して色の調色などをしているので、どのテーマも活用できる部分 (sub.1)。
- ・光によって色の見え方が変わるというのがディスプレイ等に応用できると感じた (sub.2)
- ・混色について理解できた。仕事でも説明できると思う (sub.3)。
- ・配色は理論立てで説明できると営業に使えそう (sub.5)。
- ・照明については色々と活用できそう (sub.8)。
- ・CMYK や RGB をよく聞かれること (sub.11)。
- ・光源によって色の見え方が違ってくるので、電話で色の質問があった場合は同じ光源で見るようにならう (sub.14)。
- ・色を扱っている会社として最低限、全社員が理解し、説明できる内容だと考える (sub.18)。

問5 導入編受講後の感想

- ・実際に実験もしていたらしくことで、よりわかりやすかった（sub.1）。
- ・内容は理解できたが、もう少し好奇心をくすぐられるような部分があると良いと思う。もっと微直な事例を見せると面白くなると思う（sub.2）。
- ・また受講したい（sub.3）。
- ・クイズ形式やファッションの図などがあり、受講していて面白かった。生活していく中で、色はたくさん見ているけれど、色相やトーンなど深く考えたことはほぼなかつたので、気になった色は自分で混色など考えてみようと思った（sub.4）。
- ・実際に自分で実験ができるともっと理解できると思う（sub.5）。
- ・去年の講座はとても難しく理解できなかったが、今回はとてもわかり易かった（sub.6）。
- ・減法混色、加法混色が特に勉強になった。次回はもう少しこの部分に時間を費やして欲しい（sub.7）。
- ・楽しく勉強できた。もっと色々なネタを覚えたい（sub.8）。
- ・面白かった（sub.11）。
- ・色の出来方、見え方の原理がよくわかり、勉強になった（sub.13）。
- ・基本的な色のことが大変よく理解できた。白・黒・グレイの色についての講義もあつたら受講してみたい（sub.14）。
- ・実演は分かりやすい。大変理解しやすい講座の構成になっていた（sub.18）。

<部署>

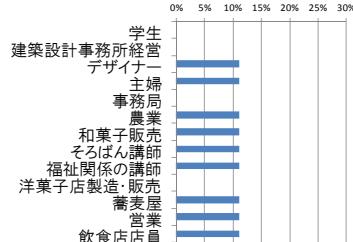
- sub.1 : クリエイティブ企画部テクニカルセンター
- sub.2 : クリエイティブ企画部
- sub.3 : 営業部
- sub.4 : 内務府
- sub.5 : 役員
- sub.6 : 内務府
- sub.7 : 営業部
- sub.8 : クリエイティブ企画部
- sub.11 : 営業部
- sub.14 : イーノックス(株)
- sub.18 : 役員
- sub.21 : 取締役

(3) 地域版学び直しに関する実証講座

地域版学び直しニーズに関するアンケート調査

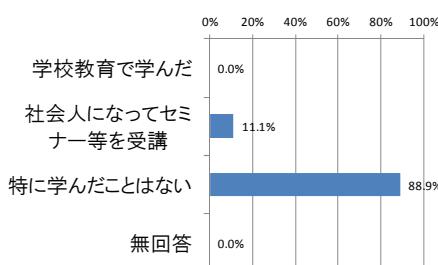
<デザイン基礎演習導入編>

①職業



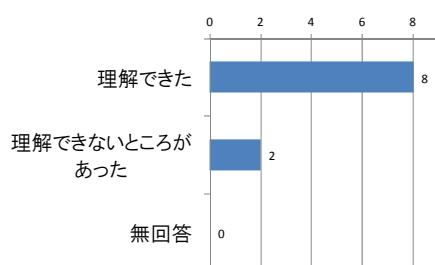
②デザイン基礎演習の学習経験

デザイン基礎演習・学習経験 N:9

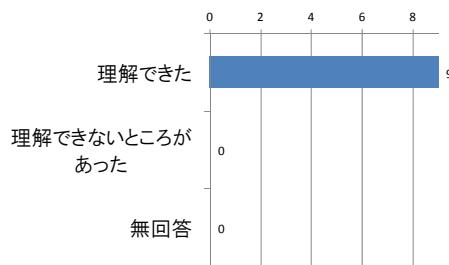


③テーマ別の理解度

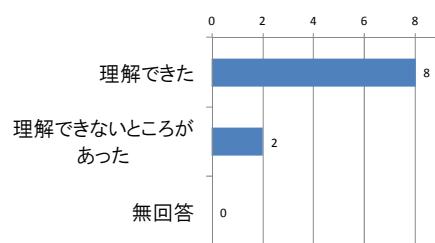
デザインの役割 N:9(重複回答あり)



マークを作る N:9(重複回答あり)



マークを使って実用品を作る N:9 (重複回答あり)



<分かりやすいと感じたこと>

①デザインの役割

- ・現代のデザインの役割について (sub.4)。
- ・歴史「デザイン」とは何かということ (sub.5)。
- ・印刷物があって、それに沿った話であったから (sub.10)。
- ・時代とともにデザインの保つ意味が多様性を持ち、変化していった点。デザインがものだけのものではないこと (sub.12)。
- ・デザインについての時代背景 (sub.13)。
- ・実際に色々とサンプルを見せながらやってくれたこと (sub.15)。
- ・歴史の流れがわかり、現代のデザインの役割が良くわかった (sub.16)。

②マークを作る

- ・ロゴのデフォルメの仕方とバランス (sub.2)。
- ・マークを作る工程 (sub.5)。
- ・絵を直線で表現したり、黒く塗ることで、より目立ち、ロゴっぽくなること (sub.11)。
- ・いろいろなサンプルや名刺がありわかりやすかった。色々なところに配置してみて楽しく出来た (sub.15)。
- ・具体例や、先生のアドバイスのお陰で不安もあったが無事に作ることが出来たと思う (sub.12)。
- ・スケッチから作っていく過程が、とても分かりやすく、いつの間にかできたという感覚だった (sub.13)。
- ・見本があったので、わかりやすかった (sub.16)。

③マークを使って実用品を作る

- ・三角形のスピード感 (sub.1)。
- ・マークの位置 (sub.5)。
- ・どこにマークを位置するかでイメージが大きく変わるものだなあと思った (sub.12)。
- ・紙袋や封筒を分割してレイアウトを考えるところ (sub.13)。
- ・アイディアが頭のなかにないので、周りの人と話しながらできたら、もっとスムースに出来たと思う (sub.16)。

<分かりにくいくらい感じたこと>

①デザインの役割

- ・専門用語がたくさん出てきて、わかりにくかった (sub.11)。
- ・業界用語が多くて、あまり理解できない言葉もあった (sub.15)。

②マークを作る

特になし

③マークを使って実用品を作る

- ・ロゴマークの向きとバランスの取り方などをもう少し詰めて考えたかった (sub.4)。

- ・ロゴとマークのバランス (sub.11)。
- ・結果的にどこに置くべきか（名刺）一番ベストな場所を教えてもらえるとよかったです (sub.15)。

問 4 現在の仕事に役立つか？

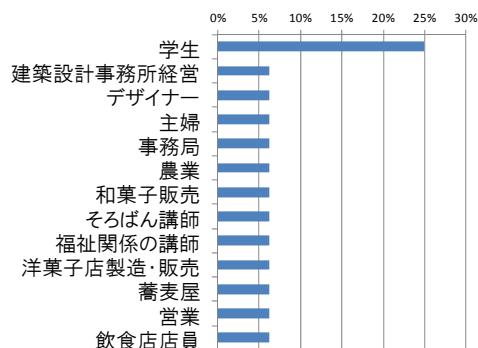
- ・食べ物のレイアウト等にとても役立つと感じた (sub.1)。
- ・特にマークの作り方は大変参考になった。レイアウトのバランスなどももっとじっくり考えたいと思った (sub.4)。
- ・名刺を作ったり、自分の HP を持つにあたって、自分でマークなどを作ることができる (sub.5)。
- ・名刺、商品などのデザインについて考えが深くなった (sub.10)。
- ・ロゴとマークの位置など、バランスで全然変わってくるところなど参考になった (sub.11)。
- ・今後自分の名刺やロゴマークを考えるときの参考にしたい (sub.12)。
- ・デザインの歴史や考え方が、経営にも通じるところや、名刺などの作成に役立つと思った (sub.13)。
- ・実際にロゴを作つてみたかった (sub.15)。
- ・営業の仕事で先方に資料を持って行つたり、チラシを作りスーパーに掲示しないといけないので、ロゴの配置の仕方など教えていただきとても参考になった (sub.16)。

問 5 受講した感想

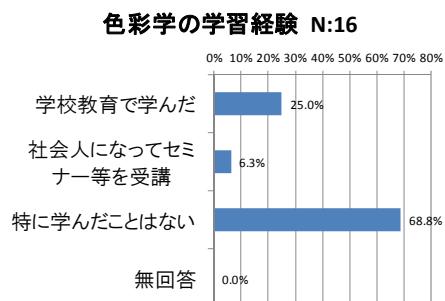
- ・全体的にとてもわかり易い解説でしたので、今後の仕事に活かしたいと思う (sub.4)。
- ・普段の仕事では学ぶことがないデザインの基礎演習を学ぶことが出来、とても良かった。デザインへの意識が右翼なったため、周りのデザインについても今後よく見て行きたいと思う (sub.10)。
- ・短時間でロゴとマークが作れて楽しかった。今後の仕事に役立ちそう (sub.11)。
- ・実際にやってみて、第三者の意見があつてよかったです (sub.15)。
- ・いざ、チラシや名刺をつくろうとしても、中々まとまらず、デザインは苦手だと思っていたが、デザインの方法を学び、実際にやってみることで身について勉強になった (sub.16)。

＜色彩基礎演習導入編＞

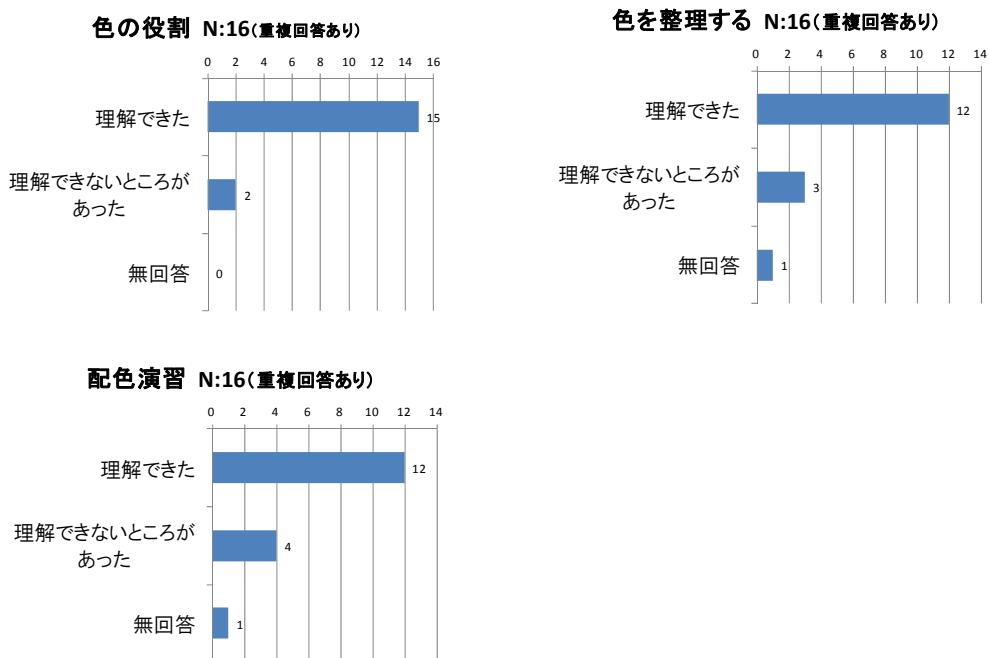
問 1 職業



問 2 色彩基礎演習の学習経験



問 3 テーマ別の理解度



問3 分かりやすかったところと分かり難かったところ

<分かりやすいと感じた点>

①色の役割

- ・動物や植物の体の色の意味 (sub.3)。
- ・自然界における色の役割 (sub.4)。
- ・パンの焼き色 (sub.6)。
- ・植物や動物に例えて、その意味合いを深く教えてくれ、わかりやすかった (sub.7)。
- ・色の原則について (sub.12)。
- ・色に意味があることを感じさせられました。色の捉え方が代わり、違った角度から色を見れたことが良かった (sub.14)。
- ・動植物を参考にしていたところが大変興味深かった (sub.15)。
- ・スライドで事例を多く見られた (sub.16)。

②色を整理する

- ・自分たちで並べたところ (sub.2)。
- ・色相の仕組み (sub.4)。
- ・カードを使用したこと (sub.6)。
- ・並べてみて違いがわかった (sub.9)。
- ・図がわかりやすかった (sub.7)。
- ・色の心理的な感じ方 (sub.8)。
- ・似ている色でもよく見ると違っていた (sub.9)。
- ・色の対比などによる見え方や感じ方 (sub.8)
- ・色カードを使用して説明があったので (sub.10)。
- ・実際に色相、トーン別にカラーカードを並べてみたところ (sub.13)。
- ・色を整理することで、普段自分が好きな色ばかり使っていることに気付かされました。いろいろな色の組み合わせがあること (sub.14)。
- ・色の表現力で見え方が違うということ (sub.11)。

③配色演習

- ・スライドで具体的な組合せを見ることが出来たところ (sub.2)。
- ・実際に手を動かして色の組合せを発見していくことを理論と平行して知ることが出来た (sub.3)。
- ・カードを使用したこと (sub.6)。
- ・デザインへの活かし方など (sub.7)。
- ・色の使い方 (sub.8)。
- ・理論的だったので。感覚<理論だった (sub.13)。
- ・実際に表を見ながら切り貼りすることで、色の組み合わせを色々と試すことができ、分かりやすいと感じた (sub.2)。
- ・色のトーンによって同じ色でも違うんだと思った。例を出してくれてよかったです (sub.9)。

<分かりにくいく感じた点>

①色の役割

- ・色相、明度、トーンの意味をきちんと理解していなかった (sub.3)。
- ・どのような理由で色を見たイメージを人が持つのかということを聞いてみたかった (sub.5)。

②色を整理する

- ・まだ感覚的にしか理解できていない (sub.3)。
- ・色の組み合わせがわからなかった (sub.16)。
- ・色相、明度、トーンの意味をきちんと理解していなかった (sub.3)。

③配色演習

- ・自分がやっていることを理論的に説明できないまま作り始めた (sub.3)。
- ・いろいろな色があり混乱した (sub.11)。
- ・何を目的としているのかわからなくなってしまった (sub.16)。

問4 講座は現在の仕事に役立つか。

<役立つ理由>

- ・食べ物には色もとても大事なので役立つと思った (sub.1)。
- ・器と食べ物の組み合せに活かせると思った (sub.2)。
- ・対比的なもの、類似的なもの、色と形の関係を改めて考えるキッカケをもらった (sub.3)。
- ・広告物からイラストレーションへの配色など、様々な場面で活かせると思う (sub.4)。
- ・何かを発信する時に使えると思う (sub.5)。
- ・POPやチラシ作成に役立つ (sub.6)。
- ・季節等の配色を考えなおす、いいきっかけになった (sub.7)。
- ・デザインの勉強をしているので (sub.8)。
- ・デザイン関係の仕事につくとしたら、色のことはわかってないといけないと思ったから (sub.9)。
- ・商品のシールの色使いに役立つと思う (sub.10)。
- ・類似色や対照色など、勉強になった (sub.11)。
- ・ディスプレイや寄せ植え、色の組み合わせがとても難しく、すぐに役立つの無理かもしれないが、教学んだことを思い出し、色々なことに活かしていきたい (sub.14)。
- ・デザインのことを何も知らずに、仕事でPOPを作ったりしてたので、今後参考にできると思った (sub.15)。

<役立たない>

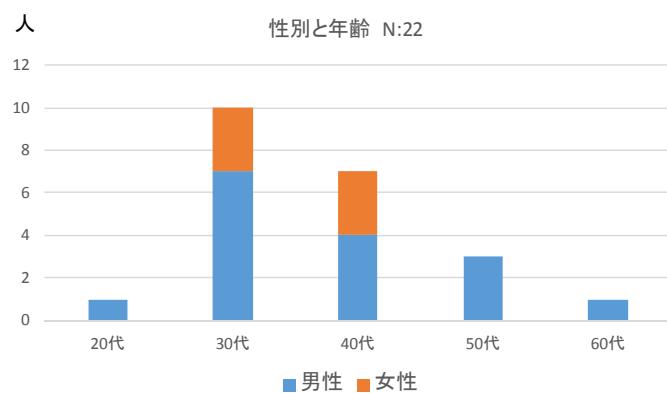
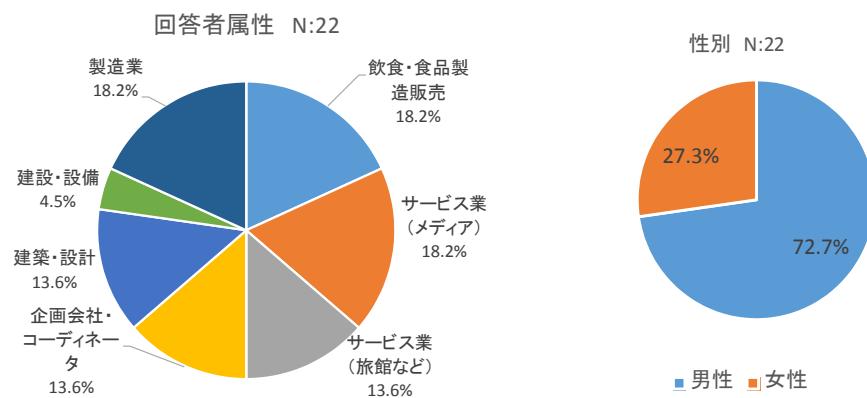
- ・色覚異常などの専門分野に関わることがあれば役に立ったかも (sub.13)。
- ・グラデーションの役割?、色の組み合わせ?、何が身についたのかわからない (sub.16)。

問5 色彩を受講した感想

- ・普段感覚的にしか捉えていなかった色について、特に同一色相、中差色相、対照色相など、考えるキッカケをいただけたことが良かった（sub.3）。
- ・色のトーンや配色パターンなどいろいろな場面で役に立つと思う（sub.4）。
- ・今後の作品に大きく・・・・
- ・話を聞くだけだと思ったら、実技もあって、詳しく学ぶことが出来てよかったです（sub.9）。
- ・とても勉強になり、面白かった（sub.10）。
- ・難しかった（sub.11）。
- ・色遊び的な要素があり楽しかった。日常生活の中にどう取り入れたらいいのか？（sub.13）
- ・色に対する捉え方が変わってきた。一つ一つの色に意味があることなど（sub.14）。
- ・楽しかった。色使いの難しさがわかった。組合せの良さの参考になった（sub.15）。
- ・どのような理由で色を見たイメージを人が持つのかということを聞いてみたかった（sub.5）。
- ・色を整理することで、普段自分が好きな色ばかり使っていることに気付かされました。いろいろな色の組み合わせがあること。

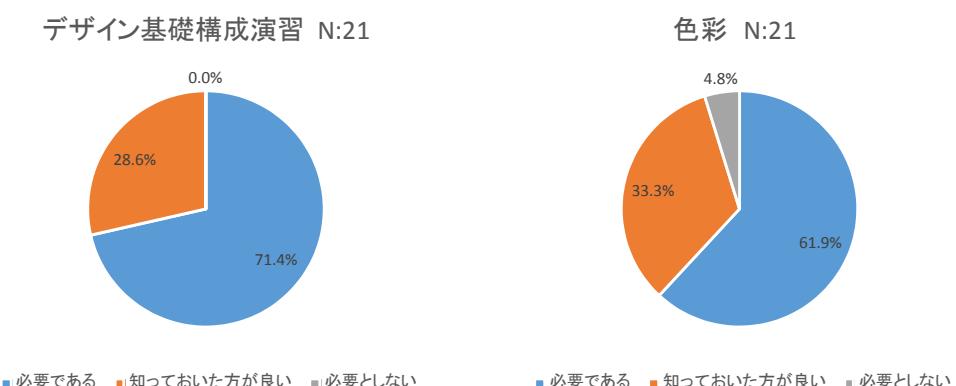
(4) 地域版学び直しニーズに関するアンケート調査

<回答者属性>

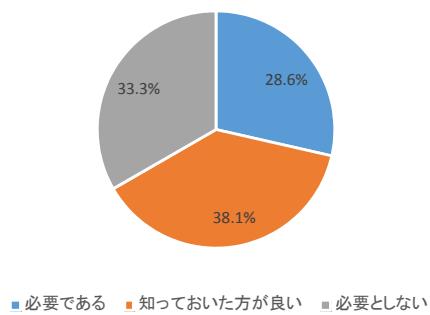


問1 本プロジェクトで設定した科目について学習する必要性を感じるか？

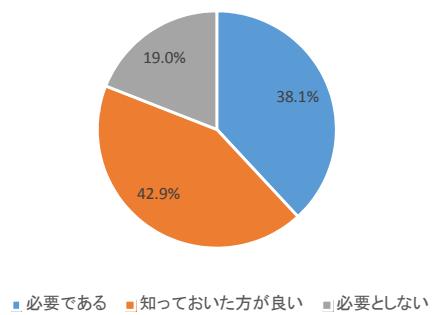
①現在の仕事に必要な科目か？



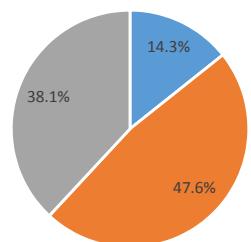
テクスチャー論 N:21



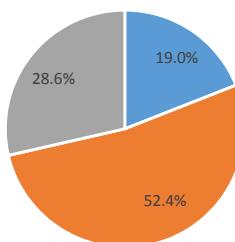
ドローイング N:21



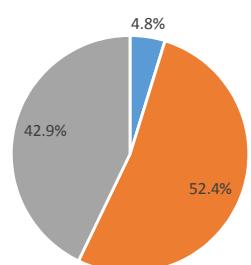
CG演習 N:21



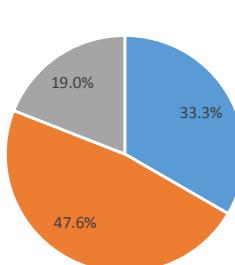
プロダクトデザイン概論 N:21



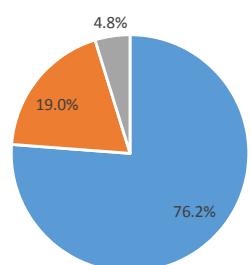
プロダクトデザイン演習 N:21



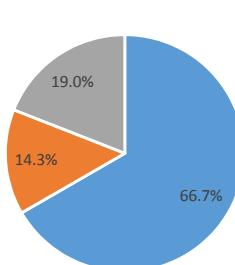
感性科学概論 N:21



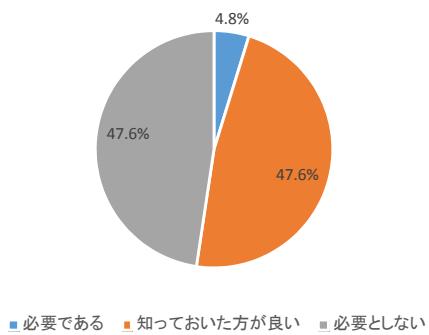
調査分析手法 N:21



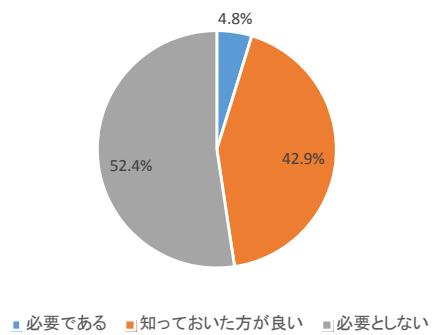
マーケティングリサーチ N:21



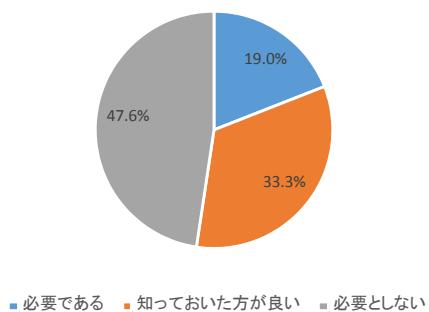
人間工学概論 N:21



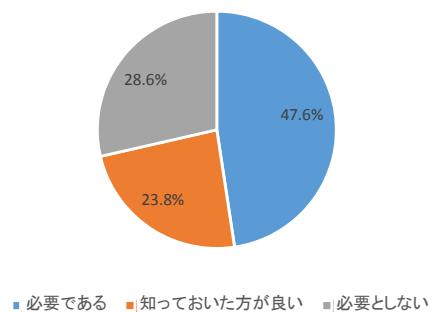
人間工学演習 N:21



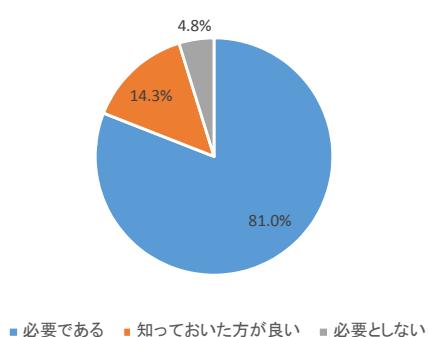
製造技術概論 N:21



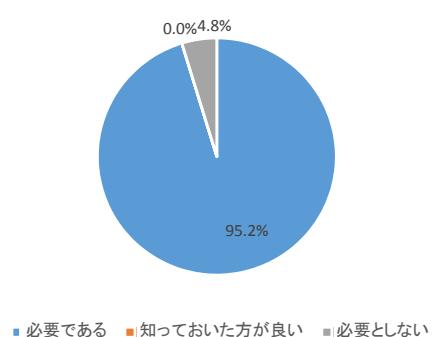
品質管理 N:21



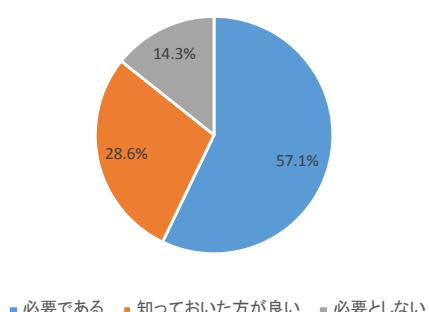
プレゼンテーション N:21



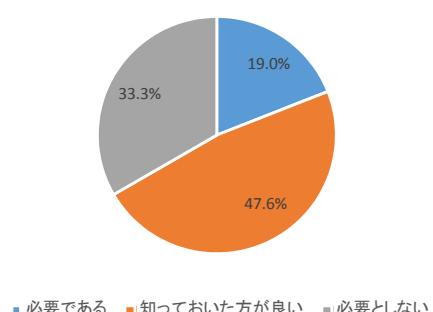
コミュニケーション概論 N:21



ブランディング概論 N:21

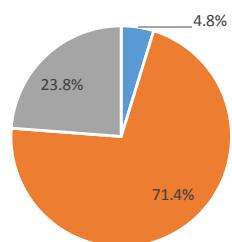


パテント基礎 N:21

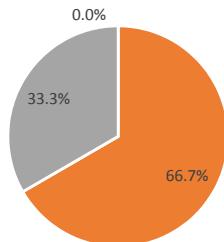


②各科目の内容の理解度について

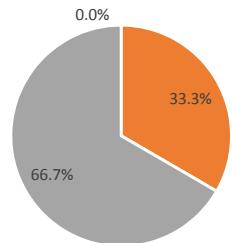
デザイン基礎構成演習 N:21



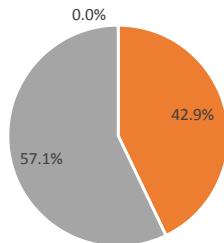
色彩 N:21



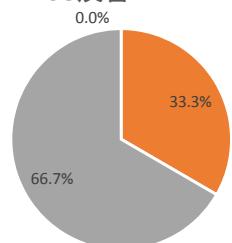
テクスチャー論 N:21



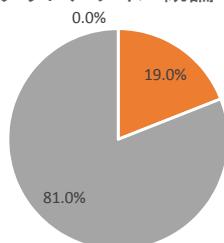
ドローイング N:21



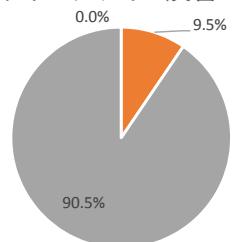
CG演習 N:21



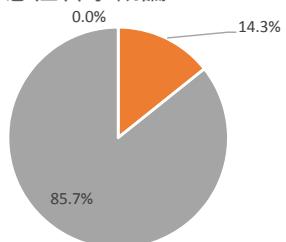
プロダクトデザイン概論 N:21



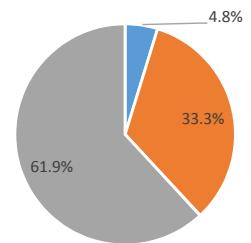
プロダクトデザイン演習 N:21



感性科学概論 N:21

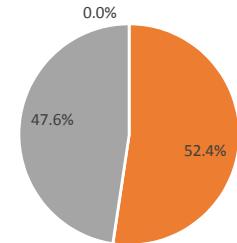


調査分析手法 N:21



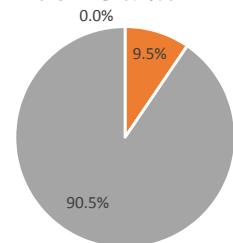
- 仕事を通じて後進にも指導できる
- 詳細は分からぬ部分が多い
- よく分からない

マーケティングリサーチ N:21



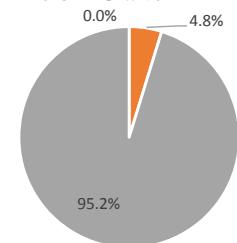
- 仕事を通じて後進にも指導できる
- 詳細は分からぬ部分が多い
- よく分からない

人間工学概論 N:21



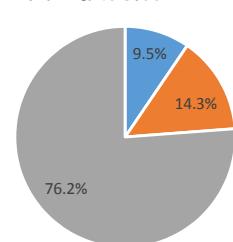
- 仕事を通じて後進にも指導できる
- 詳細は分からぬ部分が多い
- よく分からない

人間工学演習 N:21



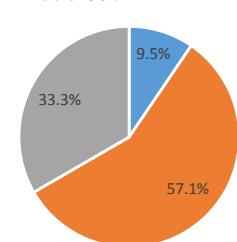
- 仕事を通じて後進にも指導できる
- 詳細は分からぬ部分が多い
- よく分からない

製造技術論 N:21



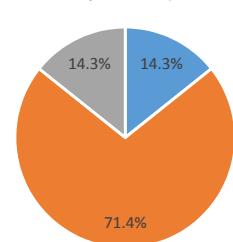
- 仕事を通じて後進にも指導できる
- 詳細は分からぬ部分が多い
- よく分からない

品質管理 N:21



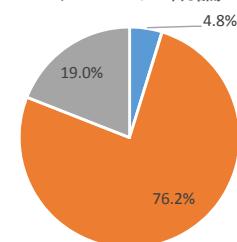
- 仕事を通じて後進にも指導できる
- 詳細は分からぬ部分が多い
- よく分からない

プレゼンテーション N:21



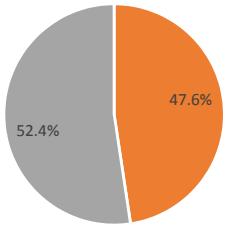
- 仕事を通じて後進にも指導できる
- 詳細は分からぬ部分が多い
- よく分からない

コミュニケーション概論 N:21



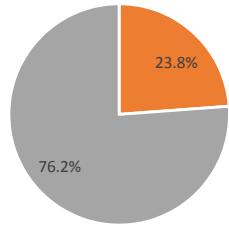
- 仕事を通じて後進にも指導できる
- 詳細は分からぬ部分が多い
- よく分からない

ブランディング概論 N:21
0.0%



- 仕事を通じて後進にも指導できる
- 詳細は分からない部分が多い
- よく分からぬ

パテント基礎 N:21
0.0%



- 仕事を通じて後進にも指導できる
- 詳細は分からない部分が多い
- よく分からぬ

問2 特に重要なとと思う科目とその理由。

科目：色彩（女性）

理由：色の使い方で雰囲気を作ったり、伝えたいことをうまく伝えたりできると思うので、その理論と具体的な進め方を知りたい

科目：感性科学論（女性）

理由：お客様がもつ、「美味しそう！」「楽しそう！」「落ち着くわ～」などなど第一印象や直感の影響はとても大きいと思う。ただ直感だけに拘りどころがなくアプローチの仕方がわからない。科学的な解明を学びアプローチの仕方を学びたい

科目：ブランディング概論（女性）

理由：他社と比べ自社のブランドの優位性を定着させる手法を知らないので、常に遅れいる感じがしている。

科目：マーケティングリサーチ（女性）

理由：消費者ニーズを知ることが今後もっと重要になってくると思うので。

科目：プレゼンテーション（女性）

理由：特に田舎の人はこれが下手だと思うので。良い物をPRできないから。

科目：マーケティングリサーチ（女性）

理由：東京に向けてものを売るためには必要不可欠な情報であり、地方においてはマーケティングリサーチをしっかりと行った上で販売戦略を立てられている企業は少ない。

科目：プレゼンテーション（女性）

理由：マーケティングリサーチと同様に、モノを売る、人を呼ぶには「伝える技術」が大切だと考える。ただ、それを高校や大学で学ぶ機会が少ないよう感じた。

科目：プレゼンテーション（女性）

理由：事業の成果や概要を外部や地域の人に伝える機会がある。高校生にも身につけさせたいスキルの一つ。

科目：デザイン基礎構成（女性）

理由：情報発信の取組でHPやチラシを作成する機会があるのでより学んでいきたい。

科目：ドローイング（男性）

理由：現地打ち合わせの時、絵をかけると施工イメージを共有できるため

科目：コミュニケーション概論（男性）

理由：現代は技術進歩は格段に向上しているように感じるが、同時に作業工程がパソコン等を利用するため社内や核家族の増加でコミュニケーション不足が発生しているようと思われるから

科目：プレゼンテーション（男性）

理由：我が社の商品の魅力の発信をどのツボとコツで先方へ伝えることができるかという内容は必須だと思われるから。

科目：デザイン基礎構成演習（男性）

理由：放送の職場では、番組タイトルや告知テロップ・ロゴなどを制作するのでグラフィックデザインの基礎の学習が必要だと思う。

科目：プレゼンテーション（男性）

理由：どの業界でも必要なことなので、学習するべきだと思う。売り込む能力がないと、良い物ができても伝わらない。

科目：デザイン基礎構成演習（男性）

理由：短い時間で多くの言いたいことを伝えるためには、キャッチコピーや写真・映像などを使い、よりわかりやすくイメージしやすくすることが大事だと思っている。そのためにはデザインの基礎は必須。

科目：感性科学概論（男性）

理由：興味深いので。

科目：マーケティングリサーチ（男性）

理由：消費者のニーズを知らないと効果のある広告を作れないことを実感しているため

科目：調査分析手法（男性）

理由：上記との関連として、具体的なニーズを知る方法が大事だと考えるため

科目：CG 演習（男性）

理由：業種的にメニュー・広告など独自に製作できることが業務に直接的にプラスなのでは。

科目：デザイン基礎構成演習（男性）

理由：メニュー・広告などを製作する上で必要となるため。

科目：プランディング概論（男性）

理由：当社の事業がかかる、電気・電子応用の分野の商品はコモディティ化の速度が早く、
ブランド化しないと利益が十分に得られない。

科目：プレゼンテーション（男性）

理由：大手エージェント等への企画提案、説明の際、最も伝わりやすい方法についての知識
の習得

科目：マーケティングリサーチ（男性）

理由：現在の消費者（温泉、宿泊等利用者）のニーズを調査分析する知識の習得

科目：デザイン基礎構成演習（男性）

理由：実務でチラシ作成が必要なため

科目：デザイン基礎構成（男性）

理由：生産者と消費者の関係の中でデザイン的要素は全てにおいて重要だと感じる。

科目：マーケティングリサーチ（男性）

理由：ニーズキャッチには欠かせないことであり、全てはここから戦略にもつながっている。

科目：ドローイング（男性）

理由：全ての場面で役立つ技能

科目：感性科学概論（男性）

理由：デザインにおいて、まずこれが基本となると考えます。

科目：色彩（男性）

理由：色彩によって受ける印象が全く変わる。ポイントを勉強することは重要だと考える。

科目：デザイン基礎構成演習（女性）

理由：自分が気持ち良い構図と他人が思う感覚がズれないようにしたいから

科目：デザイン基礎構成演習（男性）

理由：デザインはどの分野でも基礎が重要だと思うので。

問3 本プロジェクトの18科目以外の科目で必要だと思うものは？

科目：消費者の行動（女性）

理由：人はどんな時に対価を払ってもこれがほしいと思うのか？何に喜んで何を求めていいのか？時代によって違うだろうけれども今はどんな傾向があるのか？これからどんな風になっていくのか。それらを出来るだけ的確に早くつかむためには何が大事でどんなふうにすればよいのかを学びたい。

科目：マーチャンダイジングについて（女性）

理由：製造と販売をしているので。小売の基礎的なことを知りておきたい。

科目：工場管理について（女性）

理由：少人数で生産数を上げていくために、行員一人ひとりが改善意識を持つにはどうしたらよいかを知りたい。

科目：課題解決型学習のプログラム開発（女性）

理由：授業の取り組み方でより生徒が学ぶことができるよう工夫していきたいため。

科目：魅力的なホームページの作り方（男性）

理由：どんな会社か？今調べる窓口はホームページだと思っている。いい感じのホームページの理想を探している。

科目：地域+総合デザイン=ブランド化した成功例と術（男性）

理由：こんなのがあったら聞いてみたい。奥出雲町が生き残る方法です。

科目：ウェブデザイン（男性）

理由：ウェブの重要性がますます高まっていると同時にリアルでの広告などが衰退している危機感を抱いているため。

科目：ヒアリング（男性）

理由：クライアント、ユーザーの本音、本信なくして伝わる企画や提案は生まれないと考えているため。

科目：フォトショップ（イラストレータ等）講習（男性）

理由：独学でしか使い方を覚えていないため、スキルアップしたい。

科目：快適な作業環境のデザイン（男性）

理由：優れた商品は良い作業環境のもとでの作業が生み出してくれるものと思うから。

科目：仕事や勉強に良い空間・色彩環境について（男性）

理由：備品や色を決める際の参考にしたい

科目：映像関係（男性）

理由：映像の分野での講習等が少ないため

問4 再び職につくことを望むケースでそれを阻害している要因はなにか（女性限定の質問）

- ・家族の理解・協力がまず何より必要。
- ・子どもの年齢や家庭環境にあった多様な働き方、働き口があればいいと思う。女性側にも多様な働き方を選択できるスキルが必要になってくると思う。
- ・病気や病後の子どもの世話。
- ・家族の介護
- ・まだまだ男社会。女性は子育てで何度も抜けるので企業として責任ある立場を任せられない面がある（企業側の責任）。
- ・女性とひとくくりにしても、仕事を頑張りたい人と、パートで少しお金を稼げればという人といろいろ。企業側とここの意識が違うから女性が再び職（重要なポジション）につくのは難しい。
- ・日本の企業はフレックス制が少なく、定時があっても「残業は当然」という考え方なので子育てとの両立が難しい。
- ・核家族化が進み、子どもを見る親戚や近所付き合いが希薄。
- ・日本企業＝男性社会
- ・労働時間の制約（家事労働、保育園の時間）
- ・急な病気の時に対応できる家族の協力、職場の理解。
- ・男性の意見だが、その期間勤め先の業態や扱う技術、組織の変化に置き去りにされること。
- ・その時代時代で、すぐに機材が変化していくので、それを学習できる環境が少ない。そうした場合、束縛時間が長くなり、諦めてしまう。

(5) 動画評価のアンケート結果

①国際デザイン・ビューティカレッジ（高知市旭町）

問 2 動画の内容で改良点があると感じる箇所

<色の役割>

- ・ナレーションを実験の時にも入れて欲しい。実験結果がわかりにくかった (sub.8)。
- ・全て必要性がない：この程度、いちいち動画にしたり、テキストで何ページにもわたって解説することか (sub.9)。

<光と色>

- ・文字が小さく、多いような気がする (sub.3)。
- ・説明の字幕が出るときは、音色があつてもいいと思った (sub.5)。
- ・演色性の実験動画；どちらがどの光源を使っているのかが分かりにくい。上に光源名を入れて欲しい (sub.6)。
- ・実験撮影部分：人間としての学識なので、通常授業には不要。なぜここだけ字幕のみなのか、音声解説がいる。マウスで選択する行為を映像で流していたが、ここは一枚の絵でいい (sub.9)。

<混色の基礎>

- ・字が多すぎる。字をもう少し大きくして欲しい (sub.5)。
- ・実験撮影部分：人間としての学識なので、通常授業には不要。なぜここだけ字幕のみなのか、音声解説がいる。マウスで選択する行為を映像で流していたが、ここは一枚の絵でいい (sub.9)。

<配色の考え方>

- ・ファッションで配色を解説する部分 (sub.9)。

<全体を通して>

- ・全て同じ BGM だったので、内容によって帰るのもいいと思った (sub.1)。
- ・対面講座における色の心理効果：イメージプロフィールの絵が小さすぎる (sub.6)。
- ・ナレーション：音声が死んだ声で、非常に眠くなる。BGM が眠気を誘う。BGM を欠けるならば、展開によって曲を変えるなどすべき。進行が単調で鈍重。1.5 倍速で見たくなるほどだった。学生が眠くなるのも当然。全国レベルで売れている予備校講師を参考にして欲しい (sub.9)。
- ・画面が全体的に小さくて見難い (sub.13)。

問 3 面白いと感じた点や興味が持てた内容について

<色の役割>

- ・植物の誘う色、動物の体の話が面白かった (sub.4)。
- ・動物も自分が生きていくために様々な方法で色を利用しているのが面白かった。現在に至るまでの家庭がどのようなものだったのか気になった (sub.5)。
- ・生物学的な部分もあり、身近な生き物を取り上げて面白かった (sub.6)。

- ・フィルムや電球を使った実験 (sub.10)。

<光と色>

- ・光の種類によって、野菜の見え方が違っていて、その原因がわかった (sub.1)。
- ・光の色によってこんなにも見え方が変わるのが驚いた (sub.5)。
- ・光源によるものの見え方の違いは、絵の彩色に応用できると思い、新しい発見だった (sub.6)。
- ・フィルムや電球を使った実験 (sub.10)。
- ・光の色によってその光にあたったものの色も変わるのがすごいと思った。フィルム越しで光を見るのも初めてだった (sub.11)。

<色の知覚的効果>

- ・負の残像で、全く色の付いていない絵に色がついた時には驚いた (sub.1)。
- ・視覚トリックが面白かった (sub.3)。
- ・実際に映像を見て効果を体験でき、楽しめた (sub.5)。
- ・少しだけだったけれど色々な効果や錯覚が見られて楽しかった (sub.8)。

<混色の基礎>

- ・違う色を置くことで透けて見えること (sub.2)。
- ・RGB と CMYK の違い。色の足し算と引き算 (sub.9)。
- ・2 色の色が重なって別の色ができるのが面白かった (sub.11)。

<配色の考え方>

- ・ファッションの配色、デザインの配色が面白かった (sub.3)。
- ・配色はファッションの世界では結構大切なと思った (sub.5)
- ・色相の種類がたくさんあることを初めて知った (sub.11)。
- ・類似色相配色 (sub.13)。

<各テーマ>

- ・実験動画がわかりやすかった。実演もわかりやすかった (sub.6)。
- ・色の配置なども自分で考えるのが楽しかったし、皆の作品を見ると、皆それぞれ個性がでていて面白かった (sub.8)。

問 4(2)問題のレベルについて、特に難しいと感じた問題

- ・配色の考え方における問題 4 が難しかった (sub.2)。
- ・ボールが黒になる問題 (sub.3)。
- ・配色の考え方の問題が後半になるにつれて、少し難しかった (sub.5)。
- ・

問 5 対面講座と動画学習を体験し、その違いについて感じたこと

- ・特になし (sub.1)。
- ・1 日目の対面講座の解説の中で、セパレーションやトーンというまだ習っていない用語が出てきた。予備知識がないとあまり優しくないと感じた (sub.6)。
- ・動画だけではわからない単語があった。実際に説明してくれると、わからないことも聞け

るのでよかったです (sub.8)。

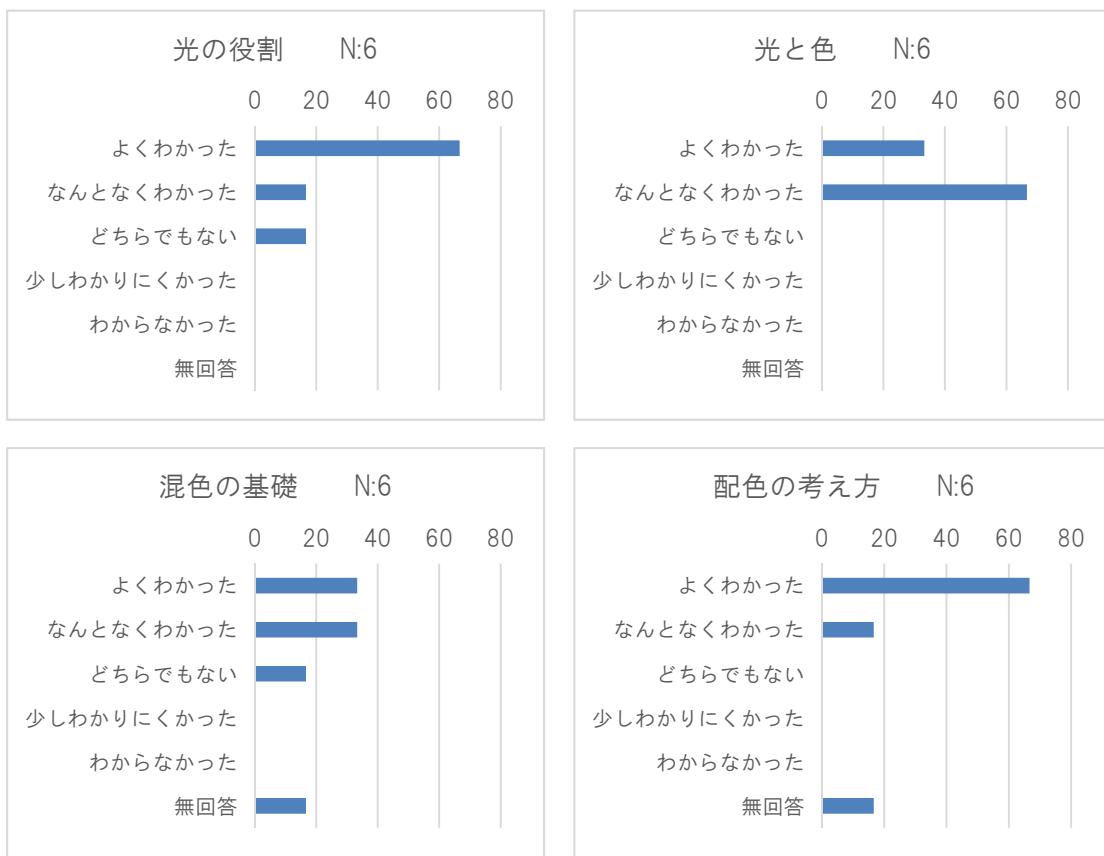
- ・動画はネット配信等にして、授業前の予習として活用。対面は講師の質が問われる所以、動画が優秀だと講師の質に左右されない教育が可能になる (sub.9)。
- ・動画で実験映像を見るのと、実際に対面講座で目の前で実験を見るのとでは感じることが違うと思った。実際に見ることができるのが良いと思った (sub.11)。
- ・動画だけで学ぶよりも、自分で直接作業することで、より理解が深まり楽しく学ぶことができる所以、対面講座の方が勉強になった (sub.12)。

問 6 色彩学を受講した感想

- ・先生の声がすごく聞き取りやすかった。作業が面白く、上手く言った時にはとても嬉しかった (sub.1)。
- ・自分で考えて色を配置していくのは楽しかったしわかりやすかった (sub.2)。
- ・絵を描いた時の配色、ファッショントーンの配色でいつも悩んでいた。トーンを合わせるの、いいなと思ったので、活かしたいと思った (sub.3)。
- ・色彩検定を受けるために勉強をしたことがあるので、復習する気持ちで聞いた。図がたくさん用意されていたので、見ていて面白かった。配色カードで色を選ぶのはなかなか難しいが、きれいな色を見ているだけで楽しめた (sub.4)。
- ・色彩について少し知っていたが、講座を受けてきちんと理解した部分がいくつかあった。動画の実験や実演は色彩を理解する上で重要だと思った (sub.6)。
- ・色彩について詳しく知ることが出来てよかったです。初めて聞く言葉もあったが、動画なども付いていて、とても分かりやすく学ぶことが出来た (sub.7)。
- ・普段何気なく見ている信号の色などにもちゃんと効果が考えられていたことなどしてよかったです。色についてあまり考えたことがなかったが、色の変化で全然印象が変わることがわかったので、これから色を塗ったりするときは考えながら良い作品を作りたいと思った (sub.8)。
- ・対面授業で「光と色」「色の成り立ち」の解説内容が、高校までの物理や生物を思い出させる内容で、最初にやるには学生にとってつらいものがあった (sub.9)。
- ・色というものにそんなに関心がなく今まで得をしていた。これからは色彩とかに注目して勉強したことを活かしていければと思う (sub.10)。
- ・初めて学ぶことばかりでとても興味をもった。実際にフィルムなどを使ったりして、自分の目で見ることも面白かった。自分で色を見て考えるのも楽しかった (sub.11)。
- ・学校ではイラストの勉強をしたが、色彩の勉強をする機会がなく、イラストを描くときに配色など自分の直感だけで決めていた。今回のように色彩を学ぶ機会を得て、色彩について興味が深まった。自分のイラストに活かしていきたいと思う (sub.12)。
- ・演習が楽しかった (sub.13)。

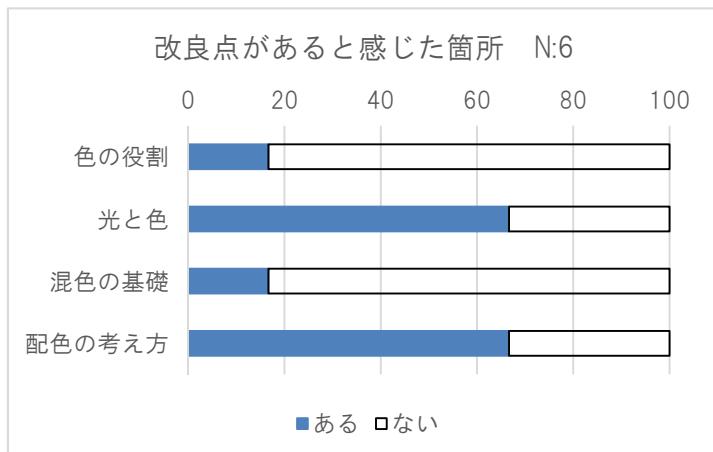
②中国デザイン専門学校（岡山市北区）

問 1. それぞれのテーマを学ぶ意味は動画によってわかりましたか？



「少しあわかりにくい」「あわかりにくい」とした回答者はいない。

問 2. 内容に改良点があると感じる箇所



(1).色の役割

- ・文字や図が小さくて、見にくい (sub.4)。

(2).光と色

- ・問題の回答について：黒についての説明が動画になかったから正確にわからなかった (sub.1)。
- ・動画の長さと静かさ：眠くなる (sub.2)。
- ・文字や図が小さくて、見にくい (sub.4)。
- ・実験をしていたところ：説明が少なすぎてよくわからない (sub.4)。
- ・一部ナレーションがなく、無音の箇所があった。ナレーションがあった方がわかりやすいと思う (sub.5)。
- ・実験のところの解説：右という表現が、モニターから見てなのか、向こうからなのかわからず左右で戸惑った (sub.6)。

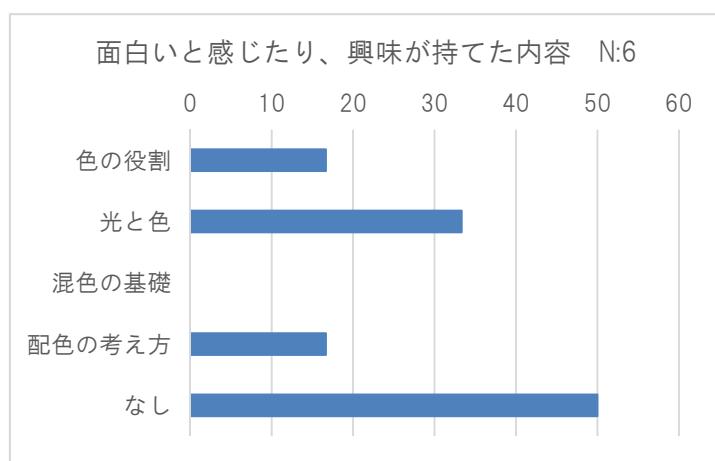
(3).混色の基礎

- ・文字や図が小さくて、見にくい (sub.4)。

(4).配色の考え方

- ・動画全体の背景：背景に色が付いているので、色相について理解がしにくい (sub.1)。
- ・文字や図が小さくて、見にくい (sub.4)。
- ・色相をグループ分けするところ：背景に色がついていて問題の色がわかりにくい (sub.4)。
- ・配色問題の動画背景：色を比べるのに背景にも色がついていて、見にくい点がある (sub.5)。
- ・背景の色：背景にいろいろな色が付いているので、見え方に問題が生じる可能性がある (sub.6)。

問 3.特におもしろいと感じたり、興味が持てた内容



(1).色の役割

- ・人の活動と色彩：相手に伝えたいメッセージ性や抱いてほしいイメージを色で表現している点 (sub.2)。

(2).光と色

- ・光の種類などで色が変わったのは不思議で興味深い (sub.1)。
- ・この動画が一番理屈っぽいが、理解できたらすらすら解けて面白い (sub.1)。
- ・照明によって同じ色が違って見える実験 (sub.6)。

(3).混色の基礎

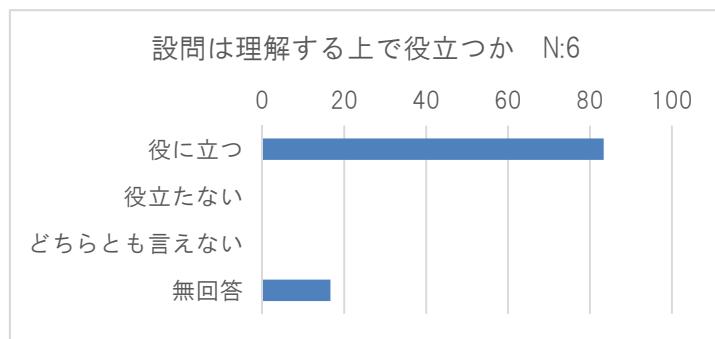
- ・なし

(4).配色の考え方

- ・ファッションのモデルに色相やトーンを当てはめたのはわかりやすい (sub.1)。

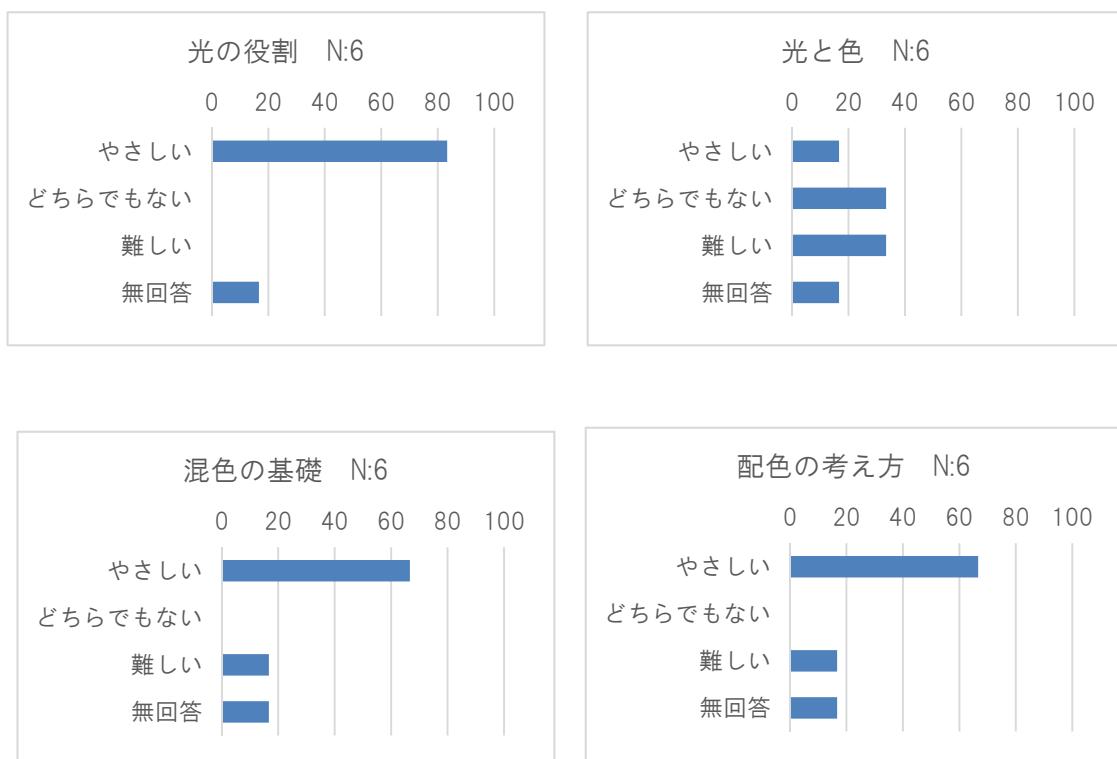
問 4,設定した問題について

(1)このような問題は、テキストの内容を理解する上で役立つと思いますか？



1名を除いて、設問は役に立つと評価。

(2)問題の難易度について



<特に難しいと感じた問題>

- ・光と色：球は光りに照らされて何色に見えるのか (sub.1)。
- ・光と色の波長の部分が難しい。問題自体はこう答えれば良いというのはわかるのだが、根本的に何故そうなるのかの部分がまだ追いつけない (sub.5)。

問 5.対面講座と動画学習の違いについて感じたこと

- ・動画で図や表を見ていたので、対面講座の時に説明と合わせてイメージしやすかった (sub.1)。
- ・動画では、解説が理解できていないまま進んだり、少なかつたりしてわかりにくい。対面講座ではそのところを、丁寧に説明して下さり助かりました (sub.6)。

問 6.色彩を受講した感想

- ・解説と合わせて進めてくれたので、疑問点がすぐ解消できた。カラーチャートを実際に使ったので、パソコンの画面と実物では色が違うのがわかった。人数が少なく、わからなかつ箇所はすぐに説明してもらえた (sub.1)。
- ・今後の色彩士検定に役立つ講座で助かりました。ありがとうございました (sub.2)。

- ・2級は学校では対応していなくて、来ていただけて助かりました。講座も丁寧でわかりやすかった (sub.4)。
- ・今までわからなかつたところを理解することができた。ありがとうございました (sub.5)。
- ・受講する前は、時間も長く、内容も難しそうで不安だったが、わかりやすく教えてもらい、また内容もとても興味深く、楽しかった (sub.6)。

(6) 色彩検定に関する実証講座アンケート結果

色彩士検定における各項目のレベル別内容についての意見

(1) 色の成り立ちー光と色ー

- ・特に問題無いと思う。 (sub.C)
- ・普段は感覚で色を選んでいるので、数値や波長など難しいと感じる部分もありましたが、とても参考になる。 (sub.D)
- ・近々、LEDへの変更が顕著のため、対応してもらえると助かる。実用的な内容がありがたい。 (sub.E)

(2) 色の成り立ちー色覚ー

- ・特になし。 (sub.C)
- ・2級の眼の構造を暗記と捉える学生が多いので、「なぜ?」と思わせる内容があると助かる。 (sub.E)

(3) 混色

- ・混色演習のカラーマッチング技能は3級でどの程度習得できるか難しいと思う。 (sub.C)
- ・色材のところも切っては切れない分野のため、検定の問題とともに色々学んでいきたい。 (sub.D)
- ・DTPなど、実践で必要なので専攻の学生のいる時はピンポイントで教えていた。活用させられたらと思う。材料によっての色材の違いはもっと説明していきたい。 (sub.E)

(4) 色の表示方法

- ・特になし。 (sub.C)
- ・色彩管理の実際につながるように誘導できたらと考えて、見本の実物を提示していた。実践に即していると良いと思う。 (sub.E)

(5) 色の知覚効果

- ・2級のコントラストによる知覚現象はやや難しい。 (sub.C)
- ・心理効果と重複部分で混乱する学生がいる。ある程度絞っても良いかもしない。2級は「オップアート」や

(6) 色の心理効果

- ・色の慣習は3級ではなく、2級できっちり教えた方が良いと思う。 (sub.C)
- ・なかなかイメージを起こして色を見る、考えるというところでツマヅク学生が多いので、一覧のところが参考になった。また、逆に色彩テキストのほうでこちらの解説がつくとイメージしやすいかと思う。 (sub.D)

(7) 色彩調和

- ・色彩調和の原理ではジャッドの名前を入れたほうが良いと思う。 (sub.C)
 - ・配色技法は用語の理解が難しい。 (sub.C)
 - ・秩序の原理による配色形式ではヨハネス・イッテンの理論をまず理解させたほうが良いと思う。 (sub.C)
- (その他)
- ・全くの初心者が3級を受けた感想としては、全項目について基礎となる事項が網羅され

ており、何を知っておくべきかの全体像がつかみやすい内容で良いと思う。そのため、これ以上設問を優しくする必要はないと思う。ボリュームも多すぎることはないと思う。
(sub.A)

- ・混色については、今日の解説していただいた回転盤の意義や絵の具の資機材としての特徴を捉えるという目的がわかつていれば理解が深まってよかった。(受験当時はよくわかつておらず、クイズのようだった。) (sub.A)
- ・導入編テキストの内容とベーシックの内容の中間が 3 級で良いと思う。色彩士検定を受ける学生は専門学校が殆どで、専門的知識がない学生がほぼ全員。3 級を受けても 2 級のハードルが高すぎて意欲をなくす学生もいる。そこを検討してもらいたい。テキストが変われば検定内容も変わるとと思う。 (sub.B)

(7) 最新情報取得講座アンケート結果

問1 仕事への役立ち度

(1)直接仕事で使える内容があったか。

- ・国ごとの好みやカラーコーディネート、配色など (sub.1)
- ・色の嗜好 (sub.2)
- ・写真画像とその解説 (sub.5)
- ・色彩調査の一部の情報 (sub.7)
- ・イメージを表す色、嗜好色等 (sub.10)

(2)仕事の参考になる内容があった

- ・男女ともに好きな色が黒、赤は興味深い (sub.1)
- ・ジャカルタの風俗 (sub.2)
- ・アンケートの数値だけでは見れない、雰囲気・感覚的な点が視覚的に見られて参考になった (sub.3)
- ・好みの色が黒。街の色に緑が多いというのが面白いと思った (sub.4)
- ・嗜好色と嫌悪色 (sub.5)
- ・インドネシアの直感的感想が聞けたので新鮮。タイとは全く違うので文化比較ができる (sub.6)
- ・男女とも共通した嗜好色と嫌悪色 (sub.7)
- ・建物が細かいパーツで塗り分けしているところ (sub.7)
- ・色に対するイメージ、デザインとしてよく使われる形式 (sub.8)
- ・イメージを表す色、嗜好色等 (sub.10)
- ・生活の周りの色 (sub.11)

(3)もう少し踏み込んだ内容がほしいと思うテーマ

- ・HVC のバランス分布等 (sub.1)
- ・自動車 (sub.2)
- ・商品別好みの結果から写真画像との対応 (sub.5)
- ・イメージする色の理由は欲しかった (sub.6)
- ・共同調査のもう少し深い内容（一般に公開できる余白があるとありがたい） (sub.7)
- ・なぜ色が好まれるのか要因が知りたい。文化として若い人が多いが、歴史的な変化はあるのか。あるとしたら何が原因があったのか (sub.8)
- ・文化と色の関連性 (sub.10)
- ・日本、日本語（漢字・ひらがな）に対する認識 (sub.11)
- ・嫌いな色が黄色である理由 (sub.12)

(4)別のテーマの視察情報で聞きたいテーマ

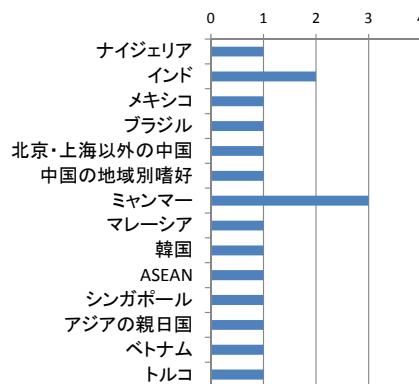
- ・日本と比べてみた時の特徴 (sub.1)
- ・その他の新興国 (sub.2)

- ・建物内装 (sub.5)
- ・国内の好まれる色等の変遷 (sub.7)
- ・ASEAN 国の違いについて (sub.7)
- ・「日本といえば○○」の意識 (sub.11)
- ・タブー色（地域・宗教）のまとめ。文化の長期的タブーと短期的タブー (sub.12)

(5)興味を惹かれた内容

- ・インドネシアの固有性と色の出現率等。日本との差異 (sub.1)
- ・家電以外にも、各製品ごとに様々な写真が見たかった。家電の写真は面白かった (sub.3)

(6) <消費者動向の傾向を知りたい国や地域>



<知りたい内容>

- ・自動車関係
- ・収入と消費などから見る製品価値
- ・生活空間での色使い
- ・オフィス空間の色の違い
- ・流行の優先度、情報の取り入れ方と服以外の種々のトレンド
- ・中流層の至高と上流層との嗜好差
- ・色の好みと文化背景
- ・記号色

資料3. 調査資料<パテント等の知的財産に関する検定>

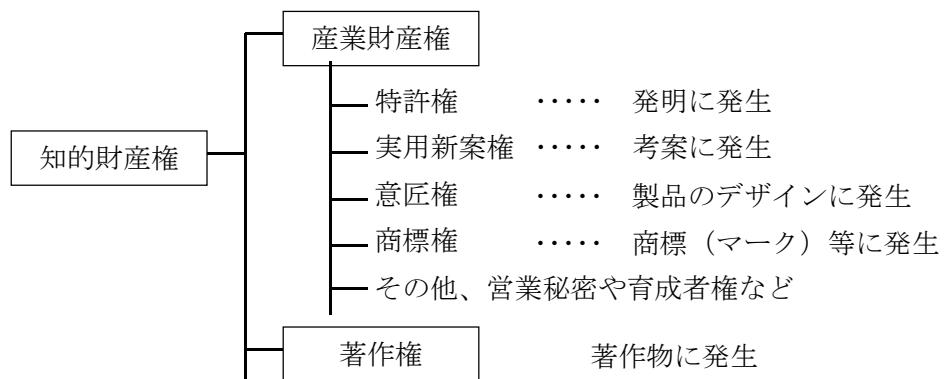
「ものづくり」を進めるためには、商品そのものだけでなく、特許や商標、著作権などのような、アイディアやブランドといった「知的財産」を保護、管理、活用できる能力をもつことも非常に重要といえる。日本は2002年に自ら「知財立国」と呼び、知的財産を重視するような戦略を採用した。物質資源が乏しい日本において、こうした財産を適切に取り扱えることは大きな力を持つ。知的財産権を取得できれば、それは企業や組織にとって大きな資源となるが、反対に、既に知的財産として登録されている事物を使用してしまうと、名誉棄損や権利侵害による損害賠償などといった大きなマイナスが生じてしまうからである。そのため、企業や団体では、このような無形の財産を適切に管理、活用できる人材をもつことが強く求められている。

こうした知的財産に関する出願、管理、活用を行う能力、技能に関わる知識と能力の資格として、現在、以下に示すような検定・試験による資格認定が行われている。それぞれの概要については後述する。

- ・知的財産管理技能検定
- ・知的財産翻訳検定
- ・ビジネス著作権検定
- ・弁理士試験

知的財産権について

知的財産権とは、人の「知的創作活動の結果」として生み出された所産（成果物）等に認められる、その利用に関する権利のことを指す。図に示すように、知的財産権には、著作物そのものに自動的に発生する「著作権」と、特許、実用新案、意匠、商標等に関する、産業上での利用を主に目的とし、出願登録により認められる「産業財産権」とがある。



知的財産権の分類と権利の客体（塩島2012より作成）

そして、各権利に対応するように法が制定されており、その法の理解と適用使用に関して以下に示す検定、試験が行われている。

1) 知的財産管理技能検定

①概要

先に挙げた様々な知的財産を適切に管理、活用できる能力に関する総合的な検定（国家試験）である。企業や団体の中に所属しながら、その組織にその力を発揮、貢献するための検定として位置づけられる。ここで扱う問題は知的財産に関わる全般的な範囲を網羅している。企業の知的財産部や特許部、法務部のようなセクションでは必須の能力であるが、営業やデザイン部門など、その他のあらゆるセクションにおいても必要な知識、能力といえる。

3段階の検定レベルがあり、3級（初步的管理能力を有す）、2級（基本的管理能力を有す）の他、1級では、1級特許専門業務（特許専門分野に関する専門能力を有す）と1級コンテンツ専門業務（コンテンツ分野に関する専門能力を有す）の2分野がある。検定試験は、全ての級において、学科と呼ばれるマークシート回答と、実技と呼ばれる記述回答があり、その両方に合格することで、知的財産管理技能士の資格を取ることができる。

なお、知的財産を扱う資格には同じく国家資格の弁理士があるが、そちらは独占的に行うことができる業務の範囲が明確に法律で定められている、いわゆる業務独占資格である。端的にいえば、弁理士は特許、実用新案、意匠、商標に関する出願手続きを行うことができるが、知的財産管理技能士を取ってもそうした業務を行うことはできない。また、弁理士は、知的財産に関するコンサルティング、ライセンス契約の交渉や仲裁事件の手続きなどまでも行うことができる。弁理士の資格を取った人は特許事務所に入り、独立して自らの事務所を立ち上げる人が多く、（近年は企業内に在籍したまま資格を取る人も増えていますが）、対する知的財産管理技能検定は企業内での能力資格ということができる。そして何より弁理士試験への合格は非常に難関の道であり、合格率は平成23年度で9.1%に過ぎず、合格者の平均受験回数も4.2回である。合格するまでに6回以上の受験をした人が1/4に当たる。

知的財産管理技能士と弁理士

項目	知的財産管理技能士	弁理士
その目的	能力の証明	独占資格の付与
合格後の職業	企業・団体の職員等	特許事務所の所長等
認定の主体	国	国
業務独占 (有資格でないとその業務を行えない)	無	有
名称独占 (有資格でないとそう名乗れない)	有	有
企業・団体との関係	内部	外部

②検定試験の内容

下表に示すように、知的財産権に関する広範囲の内容が網羅されている。なお、専門性が高い1級については末尾の資料に示すに留めた。

●3級

形式	学科試験 (マークシート、3枝択 30問)	実技試験 (記述方式、30問)
時間	45分	45分
合格基準	正答率 70%	正答率 70%
試験範囲	管理業務 ブランド保護 技術保護 コンテンツ保護 デザイン保護 契約 エンフォースメント（法執行） 関連法規	管理業務 ブランド保護 技術保護 コンテンツ保護 デザイン保護 契約 エンフォースメント（法執行）

3級では「特許法」「商標法」「著作権法」からの出題が最も多い、次いで意匠法やエンフォースメントからの出題がある。なお、合格率はスタート当初は9割近かったのがその後低下し、現在では6~8割程度となっている。弁理士を目指している人の受験減少と総受験者数の増加のためと言われている。

●2級

形式	学科試験 (マークシート、4枝択 40問)	実技試験 (記述方式、30問)
時間	60分	45分
合格基準	正答率 80%	正答率 70%
試験範囲	管理業務 戦略 法務 リスクマネジメント 調査 ブランド保護 技術保護 コンテンツ保護 デザイン保護 契約 エンフォースメント（法執行） 関連法規	管理業務 戦略 法務 リスクマネジメント 調査 ブランド保護 技術保護 コンテンツ保護 デザイン保護 契約 エンフォースメント（法執行）

2級においても、「特許法」「商標法」「著作権法」の出題が多い点は同じであるが、合格基準がより高くなり、他の「意匠法」「民法」「パリ条約」の理解も重要になっている。また、知識だけでなく、それを実務に生かすことができる応用力が求められるのが2級の特徴である。合格率は3級とほぼ同じ。

2) 知的財産翻訳検定

①概要

知的財産翻訳の中心に位置する、特許明細書などの知的財産に関する日英の翻訳能力を客観的に測るための検定で、NPO の日本知的財産翻訳協会が実施する民間の検定である。試験は、1 級、2 級、3 級に分かれ、1 級は現在、知財法務実務、電気・電子、機械、化学、バイオテクノロジーの 5 分野から選択するようになっている。3 級は記述（翻訳）と選択問題であり、2 級と 1 級は記述のみである。なお、試験はインターネットにより実施されるが、1 級認定候補者には面接試験があり、その合格をもっての認定となる。試験の実施は毎年 2 回あり、過去 5 年間の各回における平均をみてみると、受験者数は 3 級が 20.4 名、2 級が 28.3 名、1 級は全体で 40.2 名と、その数は多くない。過去 5 年分の合格者数から合格率を求めるとき、3 級が約 67%、2 級が 46%、1 級が 36%となっていた。1 級合格者のうち HP で公表されている方をみると、特許事務所勤務の方やフリーの翻訳者がほとんどを占めている。

②検定試験の内容

3 級

近年、以下のような問題が出題されている。勿論、文章の内容は特許関係のものである。

- ・英文の日本語訳 1 間
- ・英文に対する和訳文の選択 10 間
- ・英文に対する誤った和訳文の選択 10 間
- ・日本文に対する英訳文の選択 10 間
- ・日本文に対する誤った英訳文の選択 10 間

2 級

英文による特許明細書、従来技術、実施形態、明細書の請求項などの和訳

1 級

実際の特許出願、訴訟等に関わる内容について、英文和訳、和文英訳、和文の要旨をまとめた英訳などが出題されている。

3) ビジネス著作権検定

①概要

知的財産権のうち、著作物に発生する「著作権」に特化した検定で、知的財産管理技能検定（国家資格）を行っている知的財産教育協会が監修実施している。民間資格である。

著作権は、自己・企業の著作物を保護するという役割に加え、コンテンツを効果的に活用したいコンテンツ利用者にとっても重要な役割を果たす。新たなビジネスチャンスを開拓するためにも、著作権に関する知識や活用法を理解することは必要といえる。受験者は、企業の法務職、総務職、クリエイター、また就職前の学生など、様々な方々である。受験者数は多く、平成12年度に年間受験者数が10万名を越え、さらに平成23年には14.7万名にまで増加している。のべの受験者数では平成23年度に239万人を越えた。

②検定試験の内容

初級と上級があるが、それぞれの出題範囲（項目）についてはほぼ共通している。試験範囲の領域と項目を下表に示す。なお、初級では各項目の基本的な理解を問う質問が出題されるのに対し、上級では複数の項目が関係するより具体的な事例についての理解を問う質問が出題される。

領域	項目	領域	項目
ビジネスと法	契約、著作権と所有権の相違、知的財産権としての著作権、著作権という言葉の意味	著作隣接権	総論、著作隣接権（実演家の権利、レコード製作者の権利、放送事業者・有線放送事業者の権利、保護期間・制限規定等）
著作物	著作物の要因、著作物の例示など、特殊な著作物	著作権の侵害と救済	著作権の侵害、差止請求、損害賠償請求、刑事罰
著作者人格権	著作者人格権、公表権・氏名表示権・同一性保持権、著作者人格建が侵害された場合の対応	著作権の周辺問題	肖像権・パブリシティ権など、著作権法上の保護が及ばない場合の不法行為責任
著作権	総論、支分権（複製権、上演権及び演奏権、上映権、公衆送信権等、口述権、展示権、頒布権、譲渡権、譲渡権の消尽、貸与権、翻訳権・翻案権等、二次的著作物にかかる原著者の権利）	著作権・著作隣接権に関する国際条約等	酷使条約（ベルヌ条約・万国著作権条約）、外国人が創作した著作物の取り扱い
著作権の制限	総論、著作権の制限（私的使用）、著作権の制限（教育・図書館関係）、著作権の制限（引用・転載）、著作権の制限（非営利無償）、著作権の制限（その他）	著作権ビジネス	ビジネス類型毎の留意点、著作権信託
著作物の保護期間	保護期間の原則、保護期間の例外	著作物の製作を委託・受託する際の留意点	一般的な著作物（Webサイト・ポスターなど）の場合、ソフトウェアの場合
著作権の変動と著作物の利用	権利の変動、著作物の利用	情報社会と情報モラル	情報社会と情報モラル
著作権の登録	著作権の登録		

4) 弁理士試験

①概要

知的財産に関する独占業務を行うために必要な国家資格（弁理士）を得るための、つまり、こうした業務を職業にできる専門家のための試験である。概要是、先に知的財産管理技能士との比較においても示した通り。その業務は広く、特許、実用新案、意匠、商標に関する出願手続の他、知的財産に関するコンサルティングやライセンス契約の交渉、仲裁事件の手続き代理、知的財産権の権利範囲の鑑定、違法輸入品の差止めなどの分野まで広がっている。

弁理士になるには、1) 短答式試験（5月）、2) 論文式試験（7月）、3) 口述試験（10月）の全てに合格する必要があり、最短でも半年を有する。しかも、先にも述べたように合格率が低く、最終の合格までに何度も受験を行うことが多い。

②試験内容

工業所有権に関する4法（特許法、実用新案法、意匠法、商標法）と、工業所有権に関する条約類、そして、著作権法、不正競争防止法などに関する問題が出題される。

以上、4種の検定・試験についてまとめた。知的財産権に関わる広く全般的な知識や技能を保証する、広く一般的な検定試験という観点からは、「知的財産管理技能検定」が最も該当すると考えてよさそうである。ビジネス著作権では知的財産権の中の一部の内容に限定されているし、知的財産翻訳検定は翻訳力の検定であり、その性格は他の検定とはやや異なる。対する弁理士は扱える問題の広さは知的財産管理技能士よりもさらに広く、さらに深く、最も知識や技能に優れることを保証してくれるといえるだろう。しかしながら、これはその道の専門家になるための資格試験である。一般の企業勤務の会社員が勉強して受験をするというものではなく該当するとはいえない。

<参考文献・サイト>

アイピーシー・新橋ゼミ監修 山内博明著者代表

改訂2版 知的財産管理技能検定 2級・3級 完全合格テキスト&問題集 日本能率協会マネジメントセンター 2012

伊藤貴子、須藤晃伸、佐々木通孝 弁理士試験への招待 改訂第4版 法学書院 2012
塩島武徳 ビジネス著作権検定テキスト 初級・上級 改訂著作権法[H24改正]対応版

青月社 2012

知的財産管理技能検定 <http://www.kentei-info-ip-edu.org/>

知的財産翻訳検定 http://www.nipta.org/Exam_J.html

ビジネス著作権検定 <http://www.sikaku.info/>

弁理士試験 http://www.jpo.go.jp/index/benrishi_shiken/index.html

資料 知的財産に関する検定・試験の概要

1.知的財産管理技能検定 <http://www.kentei-info-ip-edu.org/>

【検定名】 知的財産管理技能検定

【資格名】 知的財産管理技能士

【主催団体】一般社団法人 知的財産教育協会

【試験の概要】

国家検定制度である技能検定制度の職種の一つである「知的財産管理」職種にかかる国家試験。知的財産教育協会が民間試験として2004年より実施してきた「知的財産検定」が全面的に移行し、2008年7月に第1回検定が実施された。

【試験日程】

原則として年3回。但し、各回によって、実施する試験の種類や実施地区が異なる。

【受験資格】

原則として、「知的財産管理」職種での仕事の経験（実務経験）が必要であり、必要とされる実務経験年数は、等級により異なる（3級は実務経験は不要）。また、一定の要件を満たす方については、短縮されたり、不要になる場合がある。

【試験の種類と内容】

1級：特許専門業務・コンテンツ専門業務・ブランド専門業務の3種類から選択

2級：管理業務

3級：管理業務

【合格後付与される国家資格】

1級：一級知的財産管理技能士（特許専門業務・コンテンツ専門業務・ブランド専門業務）

2級：二級知的財産管理技能士

3級：三級知的財産管理技能士

【試験の方法】

1級：学科（筆記）と実技（筆記、口頭試問）

2級：学科（筆記）と実技（筆記）

3級：学科（筆記）と実技（筆記）

【合格に必要な技能及びこれに関する知識の程度】

1級：知的財産管理の職種における上級の技能者が通常有すべき技能及びこれに関する知識の程度（知的財産管理に関する業務上の課題の発見と解決を主導することができる技能及びこれに関する専門的な知識の程度）を基準とする。

2級：知的財産管理の職種における中級の技能者が通常有すべき技能及びこれに関する知識の程度（知的財産管理に関する業務上の課題を発見し、大企業においては知的財産

管理の技能及び知識を有する上司の指導の下で、又、中小・ベンチャー企業においては外部専門家等と連携して、その課題を解決でき、一部は自律的に解決できる技能及びこれに関する基本的な知識の程度）を基準とする。

3級：知的財産管理の職種における初級の技能者が通常有すべき技能及びこれに関する知識の程度（知的財産管理に関する業務上の課題を発見し、大企業においては知的財産管理の技能及び知識を有する上司の指導の下で、又、中小・ベンチャー企業においては外部専門家等と連携して、その課題を解決することができる技能及びこれに関する初步的な知識の程度）を基準とする。

【合格基準】

1級 筆記：満点の 60%以上 実技：満点の 80%以上

2級 筆記：満点の 80%以上 実技：満点の 80%以上

3級 筆記：満点の 70%以上 実技：満点の 70%以上

【受験料】

1級：筆記：8,900 円、実技：23,000 円

2級：筆記：7,500 円、実技：7,500 円

3級：筆記：5,500 円、実技：5,500 円

2.知的財産翻訳検定 http://www.nipta.org/Exam_J.html

【検定名】 知的財産翻訳検定

【主催団体】 特定非営利活動法人（NPO）日本知的財産翻訳協会（NIPTA）

【後援団体】 特許庁、日本弁理士会、一般社団法人発明推進協会、一般社団法人知的財産研究所、一般社団法人経済産業調査会、株式会社ダイヤモンド社、イカリス出版株式会社

【試験の概要】

特定非営利活動法人（NPO）日本知的財産翻訳協会（NIPTA）が 2004 年 12 月より実施した特許翻訳試験で、知的財産翻訳の中心である特許明細書などの知的財産に関する翻訳能力を客観的に測るための検定試験。また、全国どこからでも受験が可能なインターネット上の検定専用サイトによるオンライン試験である（1級の面接以外）。

【試験日程】

年 2 回。

【受験資格】

資格経験問わず、誰でも受験可能。

【試験の種類と内容】

1級（知財法務実務、電気・電子、機械工学、化学、バイオテクノロジーの 5 種類から選

択、2級、3級

【試験の方法】

- 1級：記述と面接
- 2級：記述
- 3級：記述と選択式

【合格に必要な技能及び試験の内容】

- 1級：知的財産分野における専門職業翻訳者として推薦できるレベルで、知財法務実務については、特許法務・実務についての理解力、翻訳力を問う出題、その他の種類については技術理解力、特許明細書翻訳力を問う問題が出題される。
- 2級：特許明細書翻訳の基本を理解し実務に堪える力があると認められるレベルで、一般的な技術内容（技術分野選択なし）、特許明細書翻訳力を問う問題が出題される。
- 3級：入門者・初心者レベルで。知財英語についての基礎知識の有無を問う問題が出題される。

【受験料】

- 1級：15,000円
- 2級：10,000円
- 3級：5,000円

3.ビジネス著作権検定 <http://www.sikaku.info/>

【検定名】 ビジネス著作権検定

【主催団体】 サーティファイ著作権検定委員会 ※監修：知的財産教育協会

【試験の概要】

ビジネス実務、日常生活においてますます必要とされる著作権に関する知識および関連する知識について、その基礎的な理解、具体的な裁判例・ビジネス実務における慣例を基準とする事例判断での応用力をそれぞれ測定する。「知的財産管理技能検定」の、1級（コンテンツ専門業務）と2級（特許専門業務）における学科試験、並びに2級の受験資格として認定されている。

【試験日程】

年3回実施。

【受験資格】

学歴、年齢等に制限はなし。

【試験の種類と認定基準】

初級：著作物とは何か、著作権とはどのような権利かを知っている。利用者として、他人の著作権を侵害せず正しく著作物を利用できる。

上級：著作権に関する知識を活用し、著作権利用に関する問題点を発見し、解決できる。
契約、司法制度、条約に関する知識を活用し、専門家の助力を得ながら著作権に関する実務を展開することができる。

【試験の方法】

初級：筆記試験（マークシート）

上級：筆記試験（マークシート）

【合格に必要な技能及びこれに関する知識の程度】

初級：ビジネス実務、日常生活において必要とされる、(1)著作権に関する基礎的な知識、
(2)著作権法および関連する法令に関する基礎的知識、(3)インターネットに関する著作権および情報モラルについての基礎的知識について出題される。

上級：ビジネス実務、日常生活において必要とされる、(1)著作権に関する基礎的な知識、
(2)著作権法および関連する法令に関する基礎的知識、(3)インターネットに関する著作権および情報モラルについての基礎的知識、および応用力について出題される。
なお、この応用力については、事例での問題点発見と解決能力について問う内容となる

【「知的財産管理技能検定」の受検資格】

平成 22 年 11 月 14 日に実施される「第 7 回知的財産管理技能検定」より、ビジネス著作権検定の上級合格が、知的財産管理技能検定 1 級 学科試験、知的財産管理技能検定 2 級 学科試験・実技試験の受検資格となる。

【合格基準】

初級：満点の 65%以上

上級：満点の 70%以上

【受験料】

初級：4,800 円

上級：7,000 円

4.弁理士試験 http://www.jpo.go.jp/index/benrishi_shiken/index.html

【試験名】 弁理士試験

【資格名】 弁理士

【主催団体】 工業所有権審議会（経済産業省特許庁が所管する審議会）

【試験の概要】

弁理士とは、弁理士法で規定された産業財産権などに関する業務を行う国家資格を持つ人達であり、技術的な創作や工業デザイン、業務上の信用を、特許権、意匠権、商標権等の形で権利化するための特許庁への出願手続代理や、それらを取消又は無効とするための審判請求手続・異議申立て手続の代理業務を中心業務とする。この試験では、必要な学識及びその応用能力を有するかどうかを判定することを目的とした試験であり、弁理士試験に合格し、実務修習を修了した人は、「弁理士となる資格」が得られる。

【試験日程】

年 1 回

【受験資格】

学歴、年齢、国籍等による制限は一切なし。

【試験の内容】

- ・ 短答式筆記試験

試験科目：工業所有権（特許、実用新案、意匠、商標）に関する法令、工業所有権に関する条約、著作権法、

不正競争防止法

出題形式：マークシート方式

試験免除：①過去 2 年間の短答式筆記試験合格者

②過去 2 年間に工業所有権に関する科目的単位を修得し大学院を終了した人

※工業所有権に関する法令、工業所有権に関する条約の試験科目が免除される。

③特許庁において審判又は審査の事務に 5 年以上従事した人

※工業所有権に関する法令、工業所有権に関する条約の試験科目が免除される。

- ・ 論文式筆記試験

<必須科目>

試験科目：工業所有権（特許・実用新案、意匠、商標）に関する法令

出題形式：論文式

試験免除：①過去 2 年間の論文筆記試験（必須科目）合格者

②特許庁において審判又は審査の事務に 5 年以上従事した人

<選択科目>

試験科目：理工 I（工学）、理工 II（数学・物理）、理工 III（化学）、理工 IV（生物）、
理工 V（情報）、法律（弁理士の業務に関する法律）の 6 科目のうち、1 科目
を選択

出題形式：論文式

試験免除：①論文式筆記試験（選択科目）合格者 ※年数制限なし

②「科目」に関する研究により学校教育法第 104 条に規定する修士又は博士の学位を有する人のうち、学位授与に関わる論文審査に合格した方

③「科目」に関する研究により学校教育法第 104 条第 1 項に規定する文部科学大臣が定める学位を有する方のうち、専門職大学院が修了要件として定める一定の単位を修得し、かつ当該専門職大学院が修了要件として定める論文

の審査に合格した方

④他の公的資格者

技術士、一級建築士、第一種電気主任技術者、第二種電気主任技術者、薬剤師、情報処理技術者、電気通信主任技術者、司法試験合格者、司法書士、行政書士

・口述試験

試験科目：工業所有権（特許・実用新案、意匠、商標）に関する法令

出題形式：面接方式

試験免除：特許庁において審判又は審査の事務に5年以上従事した方

※筆記試験に合格した人でなければ口述試験を受験することはできない、また、短答式に合格した人でなければ論文式を受験することはできない。

合格に必要な技能及びこれに関する知識の程度

1級：知的財産管理の職種における上級の技能者が通常有すべき技能及びこれに関する知識の程度（知的財産管理に関する業務上の課題の発見と解決を主導することができる技能及びこれに関する専門的な知識の程度）を基準とする。

2級：知的財産管理の職種における中級の技能者が通常有すべき技能及びこれに関する知識の程度（知的財産管理に関する業務上の課題を発見し、大企業においては知的財産管理の技能及び知識を有する上司の指導の下で、又、中小・ベンチャー企業においては外部専門家等と連携して、その課題を解決でき、一部は自律的に解決できる技能及びこれに関する基本的な知識の程度）を基準とする。

3級：知的財産管理の職種における初級の技能者が通常有すべき技能及びこれに関する知識の程度（知的財産管理に関する業務上の課題を発見し、大企業においては知的財産管理の技能及び知識を有する上司の指導の下で、又、中小・ベンチャー企業においては外部専門家等と連携して、その課題を解決することができる技能及びこれに関する初歩的な知識の程度）を基準とする。

受験料

12,000円

資料 4

色彩テキスト

1.色の役割.....	資料 95
1-1.誘う植物.....	資料 95
1-2.動物の体色.....	資料 96
1-3.人の活動と色彩.....	資料 97
2.光と色.....	資料 99
3.混色の基礎.....	資料 108
4.配色の考え方.....	資料 117

1. 色の役割

1-1. 誘う植物

植物は鳥や昆虫の力を借りて種を遠くにまいり受粉したりします。そのために、鳥や昆虫を引き付ける外見をしていますが、これは長い時間をかけて変化したものです。

鳥に運ばれる実は、これまで緑だったものが、時期がくると成熟して周りの緑から明確に区別できるように色付きます。(図 1)

また、昆虫に受粉の手助けをしてもらう植物は色づいた花を咲かせて、昆虫をおびき寄せます。効率的に受粉するために、だんだん特定の昆虫をおびき寄せるように、形や色を変えていました。ある種類の蘭は、メス蜂にそっくりな花をつけます。(図 1)

おびき寄せた昆虫をさらに花芯へと導く工夫をした花もあります。(図 2)

蜜を吸う鳥に対しては、くちばしに合わせた花弁の形をしています。(図 3)

中には、昆虫を餌食にする植物も擬態(他のものに姿を似せた様子)で昆虫をおびき寄せます。蠅を餌食にするウツボカズラは腐りかけた肉の臭いと色で蠅をおびき寄せます。(図 4)



図 1



1-2.動物の体色

動物や昆虫の体色は、環境に適応して生きていくために様々な工夫を凝らしています。

<保護色>

天敵から身を守るために、周りの環境から区別できないような体色の生物がいます。これを保護色といいます。(図 5)



葉っぱの上のバッタ



樹木の幹を背景にしたフクロウ



岩の上のカサゴ

図 5 保護色や迷彩色

<合図>

ひな鳥はクチバシが鮮やかな黄色をしていますが、親鳥が餌を口に入れやすいためです。

<威嚇>

敵に襲われた時、相手を威嚇する行動に出る場合があります。羽を休めているときに突如背後から襲われそうになったメガネ蛾は、羽を開きます。羽の下から現れるのは巨大な二つの眼の形です。

(図 6)

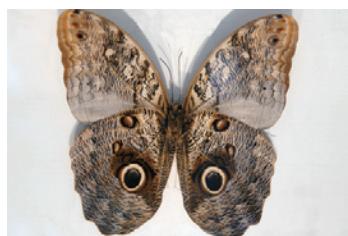


図 6 後ろから敵が近付くと羽を広げ二つの目の模様を出す。敵は驚いて逃げていく。

<求愛>

孔雀のオスは、メスに対して求愛するとき、羽をいっぱいに広げて自分の華美な体色を鼓舞し、メスを引き付けます。(図 7)

<警告>

攻撃性が弱いため身体に毒を持つ生物は、一目で分かる特徴のある体色をもつものがいます。一度仲間が餌食になってしまっても、毒を持つ種であることをアピールできるため、学習した敵は次から襲わなくなるためです。



図 7 クジャクのオスの求愛行動

そのため毒のない種が、この外見をまねこともあります。(図 8)

1・3.人の活動と色彩

人は、色を様々なシーンで活用します。未開の部族では、同じ部族であるという所属意識を持つため、同じようなデザインの身体塗色を施したり、またその部族の身分を身体塗色で表したりする例もあります。

鳥が熟れた実を色と香りで判断することは前述しましたが、人も同様で、赤い実を緑の中から検出して採取します。(図 9)

物の状態が色に表れるために、色で判断することができるためですが、パンの焼き色を見本と比較して、不合格品を撥ねることも、ある工場では行われています。(図 10)

安全のために色を活用することも行われています。検出性の優れた赤や黄色は停止・防火(赤)、注意・警告(黄色)などの意味に記号として使うように J I S で定められています。(図 11)

また色は、識別のための記号として使われることもあります。青は進め、赤は止まれの意味で信号に用いられていますが(図 12)、鉄道の路線図を色で識別する活用法もみられます。(図 13)

日常の中で色は、物を特定するのによく使われますが、「その青いハサミを取って」という具合に色で特定のものを指示するケースもよくあります。(図 14)

また色にはイメージを伝える働きもあります。蛇口に青と赤のマークが付いていれば、青を水、赤をお湯と即座に判断します。トイレの人型のマークがピンクであれば女性用、青であれば男性用と判断されます。前述したがこのような色のイメージを利用して、J I S は安全のために使うサインなどの色を規定しています。赤は防火・禁止・停止、オレンジは危険、黄色は警告、緑は安全状態です。(図 15)



図 8 派手な外見の毒カエル



図 9 身が熟れると見つけやすい。



図 10 パンの焼き色を検査するカラースケール



鮮やかな暖色系の色は
目を誘いやすく
背景色と差があると
検出性は高い

図 11



信号
識別性の高い色の組み
合わせに意味を付加し
た典型的な事例

図 12

色の役割はこれだけではありません。求められるイメージや調和感を色によって実現し、心理的な充足感を提供することもできます。(図 16)

また伝えたいイメージを色によって表現することもできます。(図 17 参照)

● 心地良さの提供

求められるイメージや調和感を実現し心理的な充足感を提供



図 16 インテリア・カラーコーディネートによるイメージ演出

伝えたいイメージを色によって表現

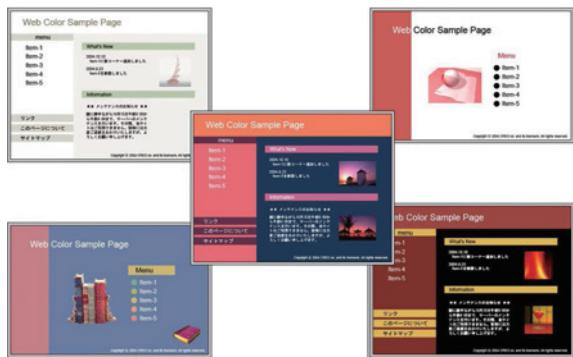


図 17 ホームページのカラーデザインによるイメージ演出



図 13 東京の地下鉄路線図(拡大)

「青いハサミを下さい」



図 14 色でものを特定

● カラーイメージの伝達機能



図 15 カラーイメージの伝達機能

2. 光と色

私たちの身の周りの色は、暗闇では見ることができません。光によって初めて色を見るすることができます。

なぜなら、もともと光には様々な色が含まれているからです。(正確にいうと、私たちが様々な色を感じるためのエネルギーが光の中に含まれているからです。)

外では太陽が、室内では蛍光灯や電球などの人工照明がものを見るための光源になります。最近では LED の光源が普及してきました。

さて、その光ですが、昼間の太陽と夕方の太陽では色が異なっていることに気が付きます。それに伴って、ものの色も異なって見え、景色の雰囲気までもが変って感じられます。



昼間の景色



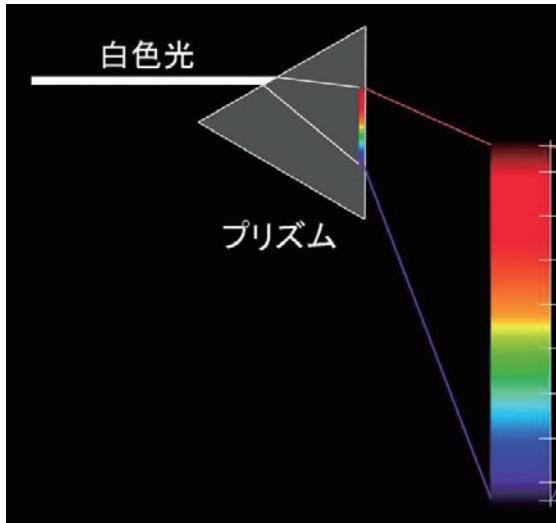
夕方の景色

私たちの身の周りを照らす太陽などの照明光は、様々な色の光が含まれていますが、普通はそれらの色が混じり合って白っぽい光や黄色っぽい光に見えます。様々な色光が混じり合ってできた光を複合光といい、複合光のもとになる一つ一つの色光を単色光といいます。

その混じり合った光(複合光)を単色光に分ける方法があります。

混じり合った光を、透明のプリズムや回折格子を通過させることによって、光は色ごとに分かれます。

虹も大気中の水蒸気の粒によって、光が色ごとに分かれたものです。



図は白い光がプリズムによって分かれる様子を説明したものです。

白色光には、赤、オレンジ、黄色、黄緑、緑、青緑、青、青紫などの色が含まれているのが分かります。

昼間の太陽は、すべての色の成分をほぼ均等に含み、それらの色が混じり合うと白い色に見えます。それは雲の明るい部分を見ればわかります。雲は当たった光をそのまま反射する性質を持っているので、太陽の光の色は雲を見れば分かります。

(太陽を直接見ると、目に大きな障害がありますので、絶対に避けて下さい。) 夕焼けの雲の色をみると明るい部分は黄色に見えます。夕方の太陽の光が黄色になっているからです。



昼間の太陽に含まれる色を下のグラフで見ると、どの色もほぼ同じ程度に含まれているのが分かります。



夕方の太陽に含まれる色を下のグラフでみると、赤・オレンジ・黄色が青、青緑に比べて多いことが分かります。この割合で光の色を混ぜると上のような色に見えるのです。



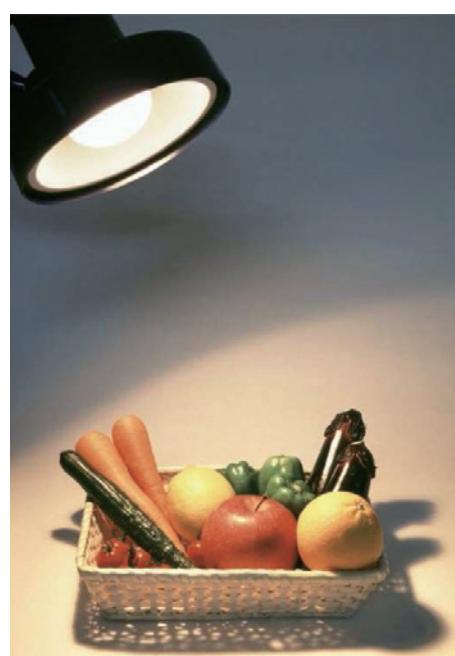
つまり、昼間と夕方で太陽の色が違うのは、光に含まれる色の成分が異なるからです。

オフィスでは白い光が、レストランでは黄みがかった電球色の光がよく使われています。光の色が私たちに与える効果を考えてのことです。

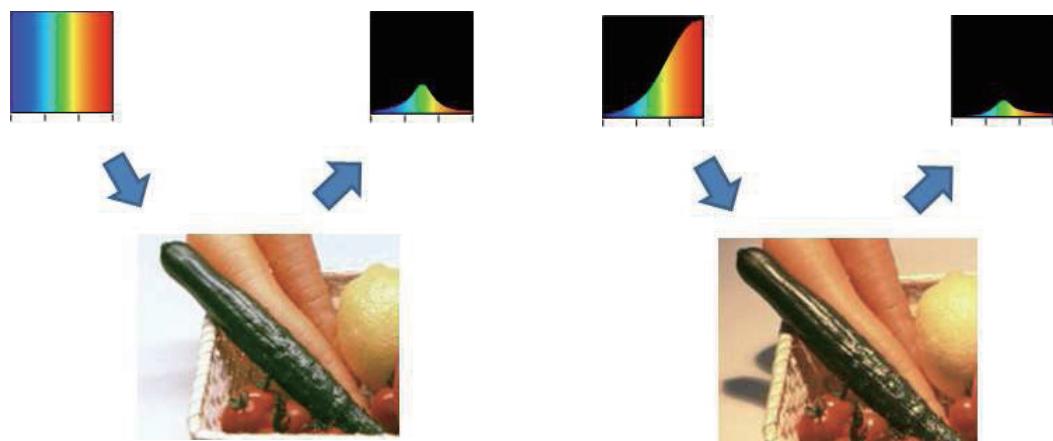
白い光は活動する環境として向いていますが、リラックスしたい空間には電球色の照明が向いています。



光の色によって、雰囲気だけでなく物の色も変わって見えます。2種類の光源で野菜の色を見てみましょう。



リンゴの赤が電球では明るく、蛍光灯ではやや暗く見えます。
逆に、キュウリは電球のほうが暗く見えています。



すべての色を含んだ白い光を受けて、
キュウリは緑成分の光を主に反射し、
緑に見えます。

青や緑の成分がもともと少ない電
球色で照明すると、キュウリはかな
り暗い緑に見えます。

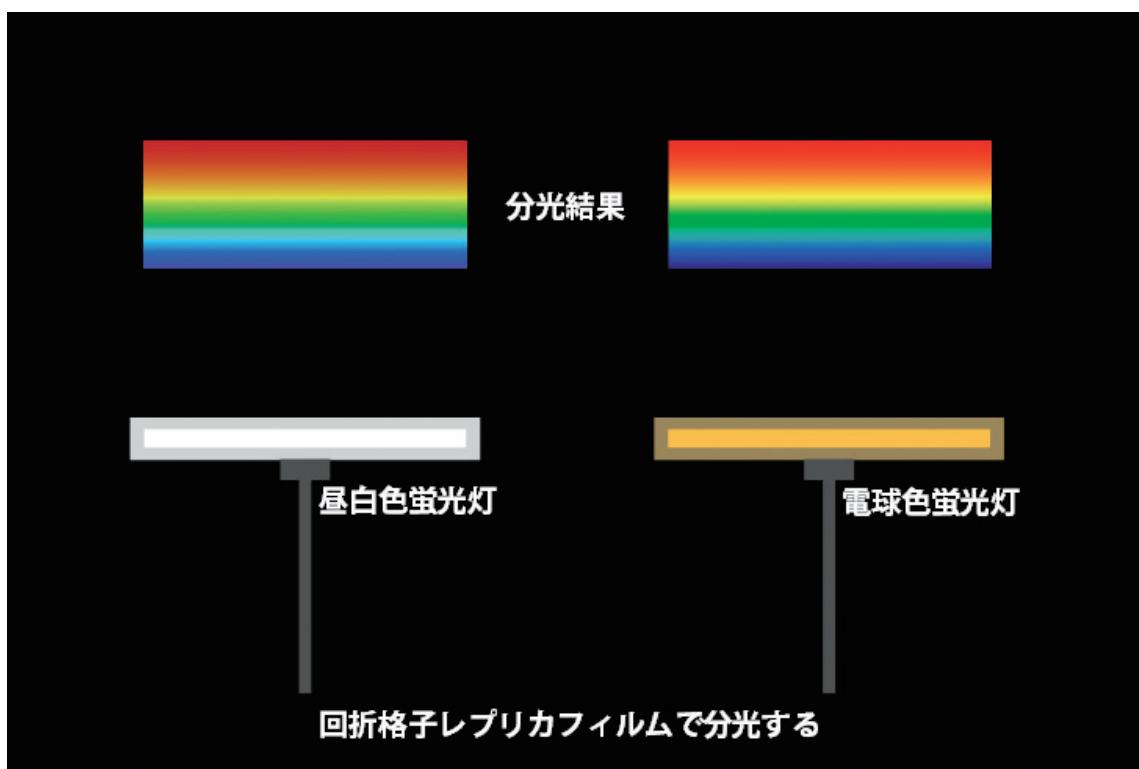
それでは実際に、二つの光源を回折格子のレプリカフィルムを通して見て、成分の違いを比べてみましょう。

回折格子のレプリカフィルムを目の前にかざし、二種類の蛍光灯を見てみましょう。

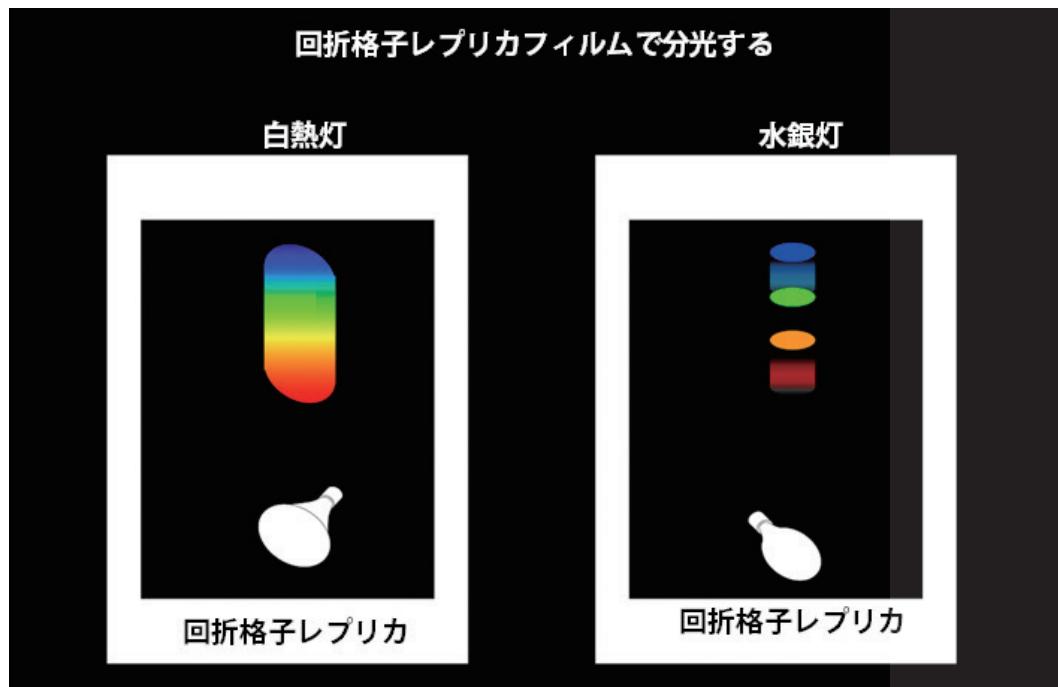
一つは、昼白色の蛍光灯で昼の光に近いもので、もう一つは電球色の蛍光灯で夕日の光に近いものです。

含まれている色の強弱を比較してください。

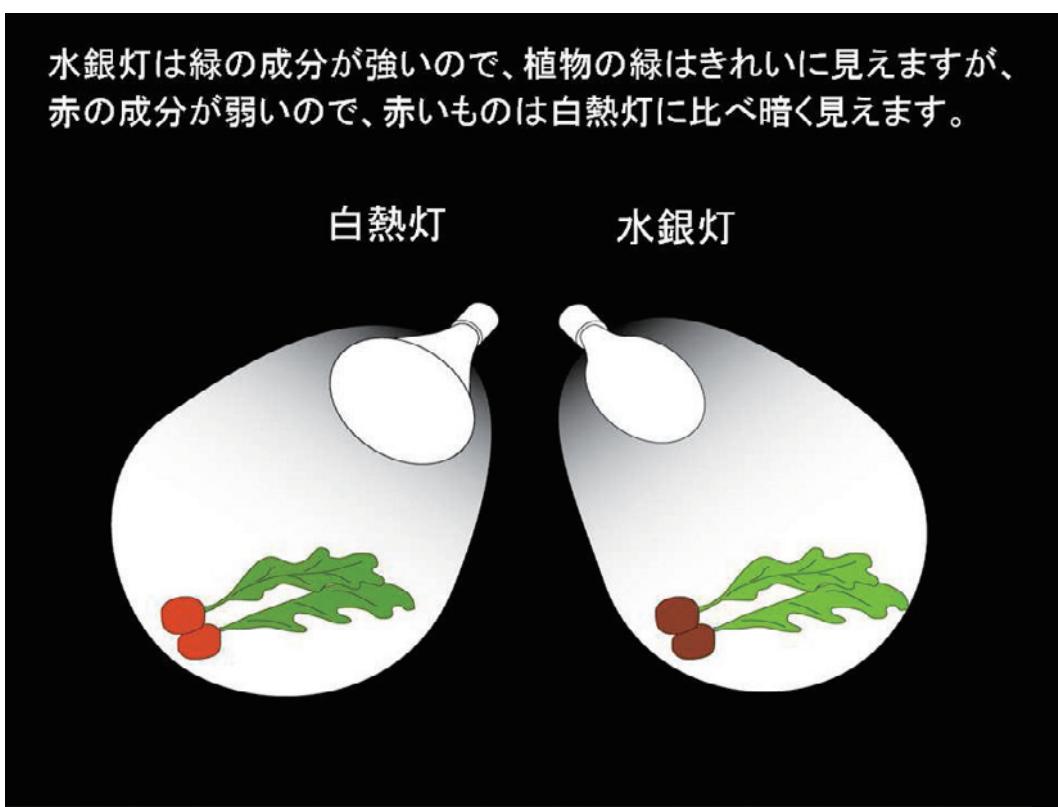
電球色は、赤が強く、青が弱いのが分かります。



つぎに、同じような白色光ですが成分が大きく異なる二種類の光源を見てみましょう。水銀灯は連続した色光ではなく、離れた色光を出しているのが分かります。一見同じように見える光ですが成分が違うので、照らされた物によってはその色が大きく異なって見える場合があります。



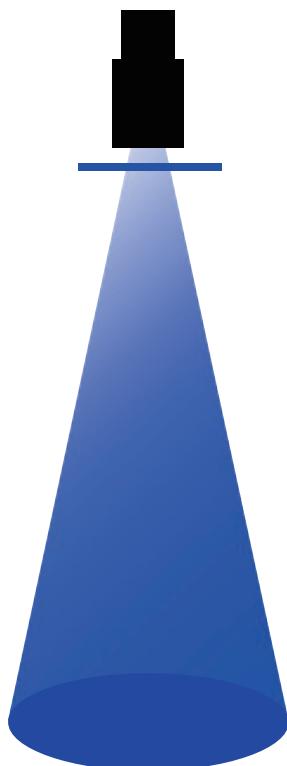
水銀灯は緑の成分が強いので、植物の緑はきれいに見えますが、赤の成分が弱いので、赤いものは白熱灯に比べ暗く見えます。



それではここで問題です。

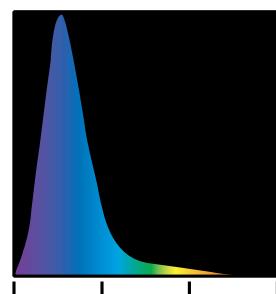
問題 1.

青い光で、赤いボールを見ると何色に見えるでしょうか？

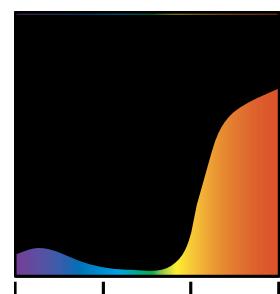


答え

濃い青の光に、赤の光はほとんど含まれていません。



赤いボールは青い光をほとんど反射しません。



したがって濃い青の光の下では、赤いボールは黒のボールに見えます。



問題 2

マグロの切り身が、きれいな赤に見えるのは、白色の照明？白熱灯(電球色) の照明？



答え

白熱灯の照明です。

赤の成分を多く含んだ白熱灯のほうが赤がきれいに見えます。

白熱灯(シミュレーション)



昼光色蛍光灯(シミュレーション)



3. 混色の基礎

混色とは、2つ以上の色を混ぜて、別の色をつくることです。

私たちの身の回りの環境を形成している工業製品などの色は、ほとんどが混色の結果です。製品によって使う色材が異なり、それぞれの色材によって混色方法もその結果も異なります。また情報を伝える印刷物とタブレットなどのデジタルツールでは色の再現方法(混色法)は異なりますが、デザインに関わる者は両者の違いを心得ていなければなりません。

ここでは、すべての混色に関わる基礎理論を解説します。

◇材料によって色々な混色があります。

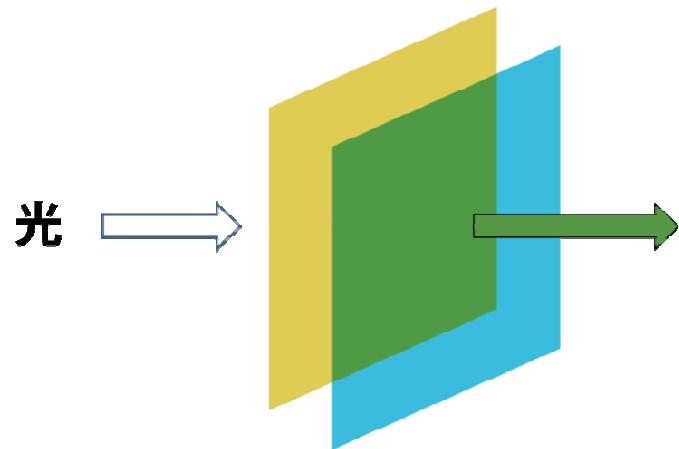
<絵の具の混色>



<色光の混色>



<色フィルムの混色>



◇色の材料によって様々な混色がありますが、「混色の原理」は2つしかありません。

<混色の原理 1. 加法混色>

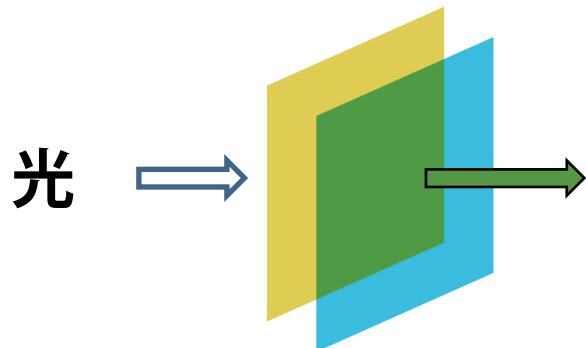
色光が重なって混色する方法です。



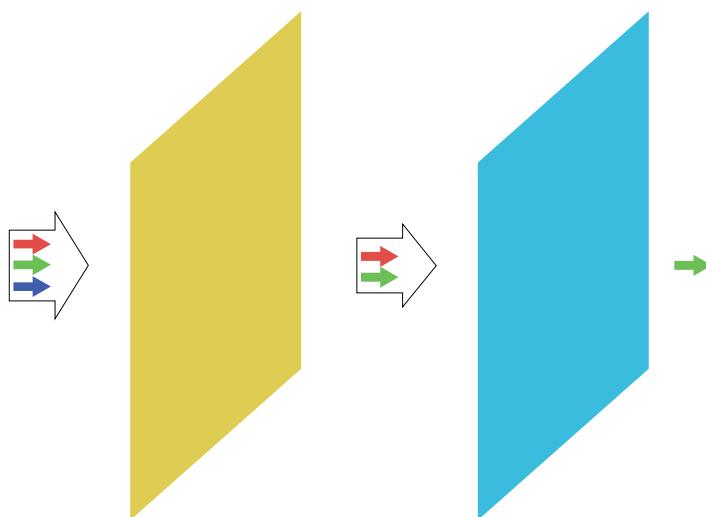
重なったところは、元の2色
より明るくなるので、光の足
し算(加法)の混色といわれて
います。

<混色の原理2. 減法混色>

色フィルムを重ねて混色する方法です。



光が色フィルムを通過すると光の一部がフィルムに吸収され、重なったところは、元の2色より暗くなるので、光の引き算(減法)の混色といわれています。

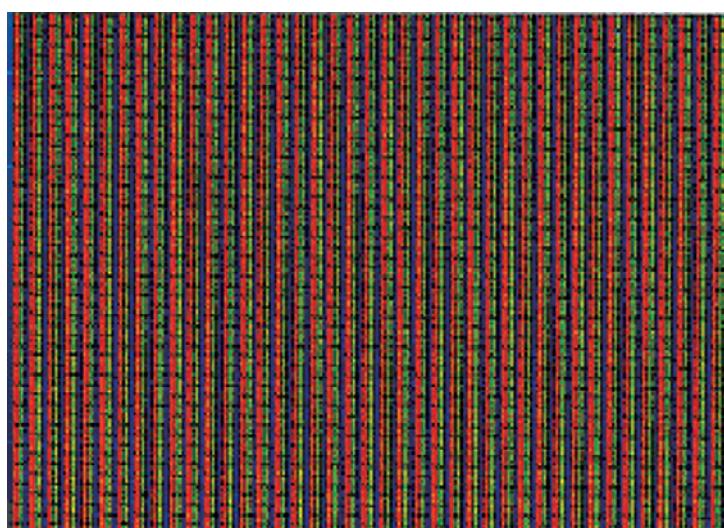


黄のフィルムは青い光を吸収します。
緑みの青(シアン)は赤を吸収します。

◇<混色の原理1. 加法混色>を使った例は、コンピュータのモニターや、スマホ、タブレットのディスプレイ装置です。

加法混色の原色はR(赤)・G(緑)・B(青)なのでデジタルのディスプレイ装置は、R G Bの混色で表示されます。

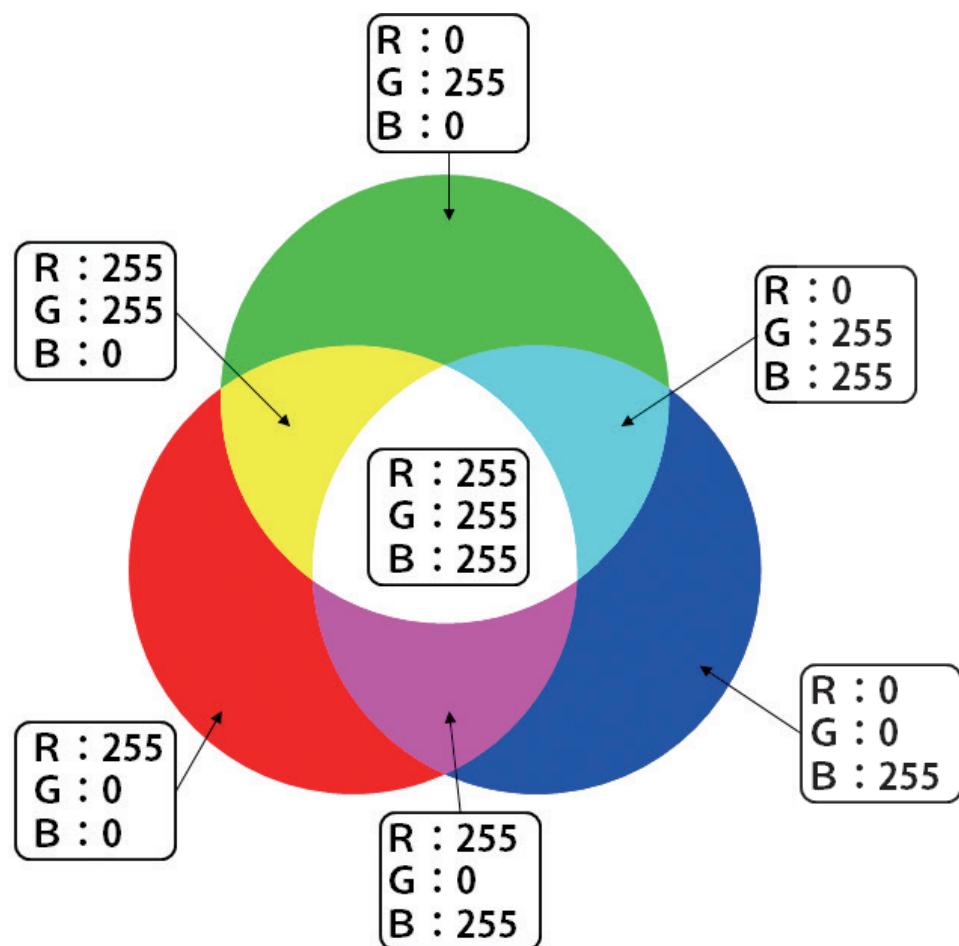
右図のように細かい色の点が集まった画像を離れてみると混色して見えますが、これを並置加法混色といいます。



<ディスプレイ画面の拡大>

デジタルのディスプレイ表示は、R G Bそれぞれの含有量は 0 から 255 の数値で表されています。

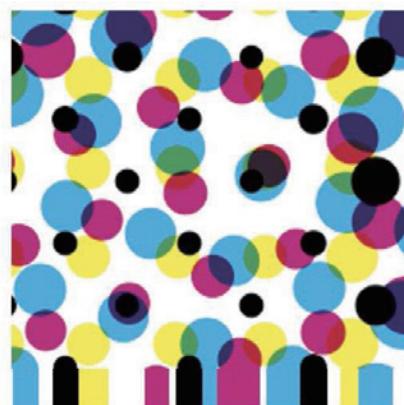
下図は代表的な色の RGB 値を表したものです。



◇<混色の原理2. 減法混色>を使った例は、オフセットのカラー印刷です。

減法混色の原色はC(シアン、緑みの青)・M(マゼンタ、赤紫)・Y(イエロー、黄)です。

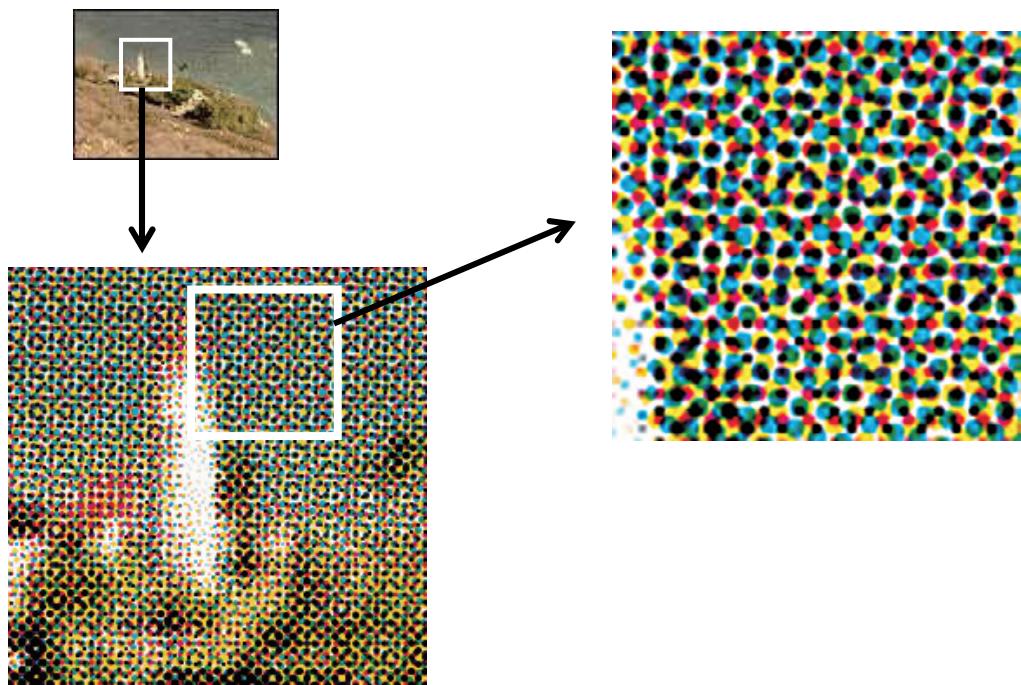
オフセットのフルカラー印刷はCMYの3原色とK(墨)の4色を使います。



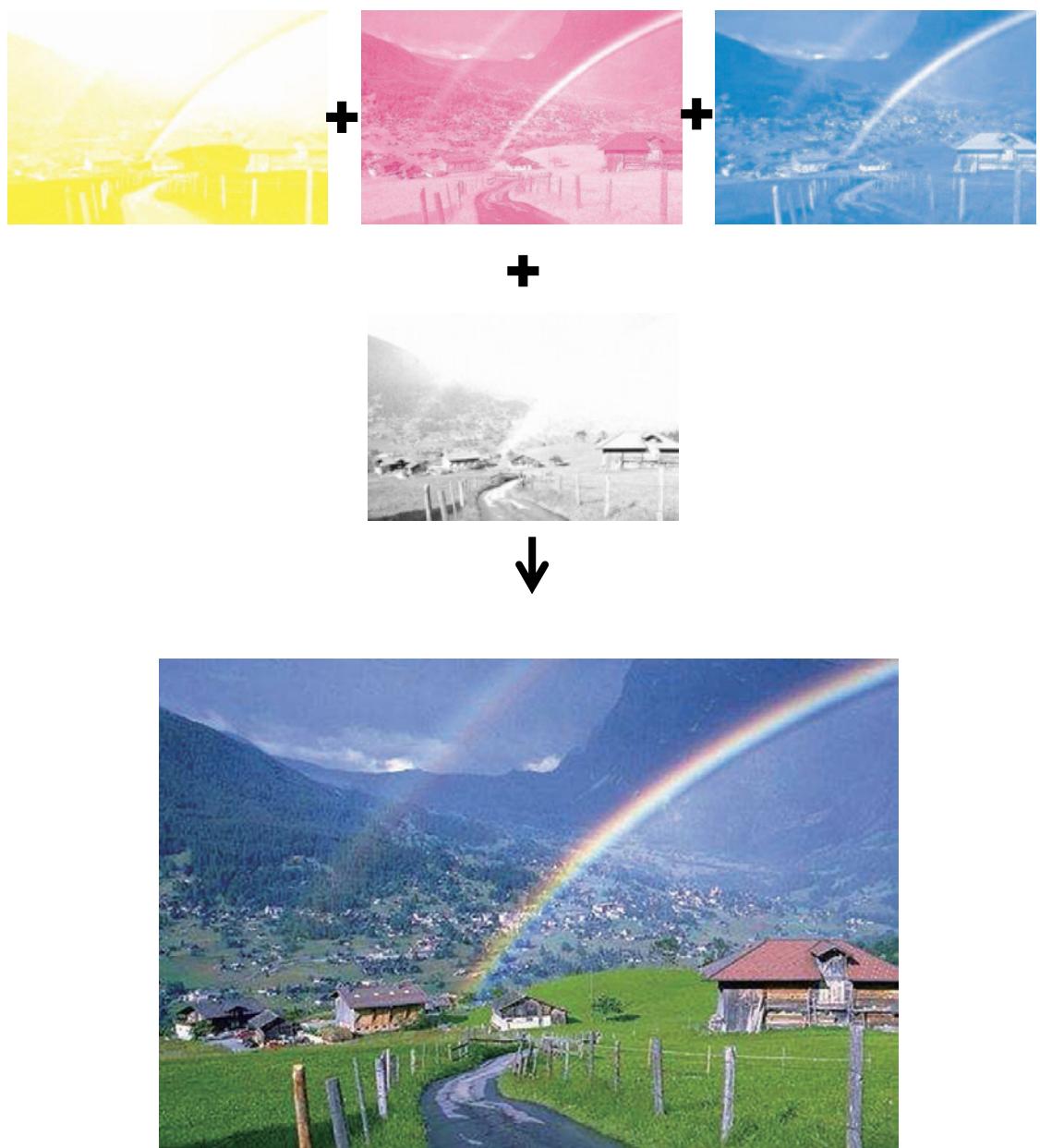
網点拡大



カラー印刷を拡大して見ると、CMYKの4色で刷られているのが分かります。



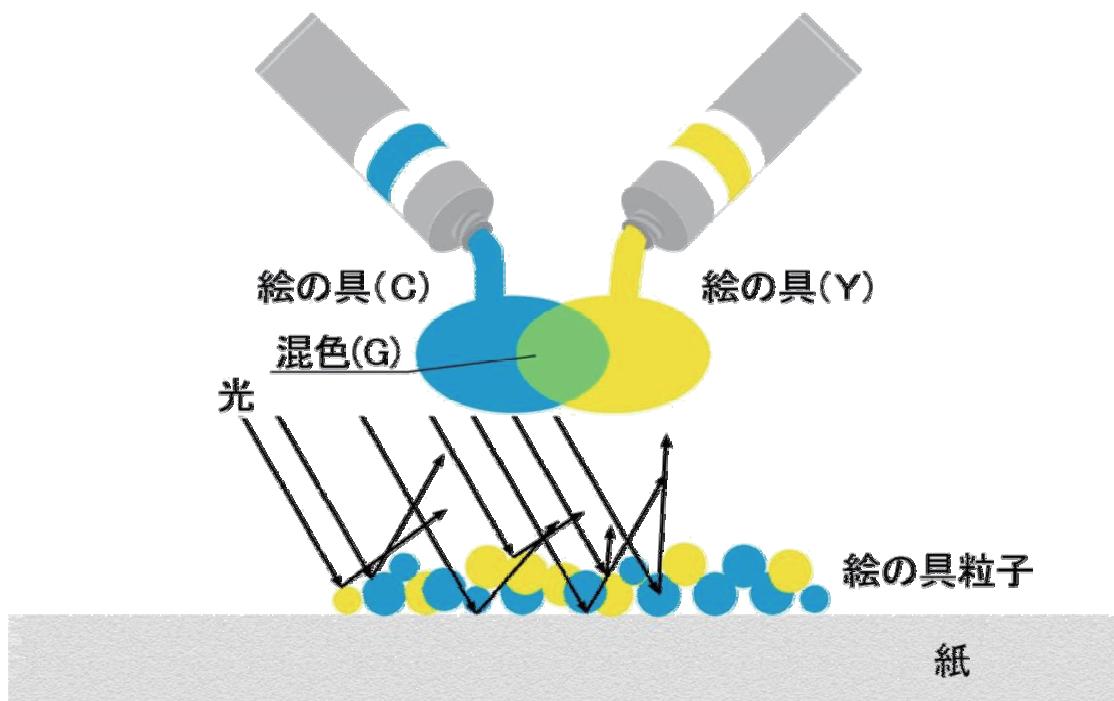
Y版、M版、C版そしてK版を重ねて刷るとフルカラー印刷ができます。



◇その他の混色

塗料や絵の具などの他の混色では、混ぜ合わせた塗料や絵の具の粒子が付着した状態を拡大して見ると、粒子のなかを通過した光は紙で反射し、再度粒子を通して出ていきますが、このような場合は減法混色が起こります。また並んだ細かい粒子は少し離れてみると混色して見えますがこれは並置加法混色となります。

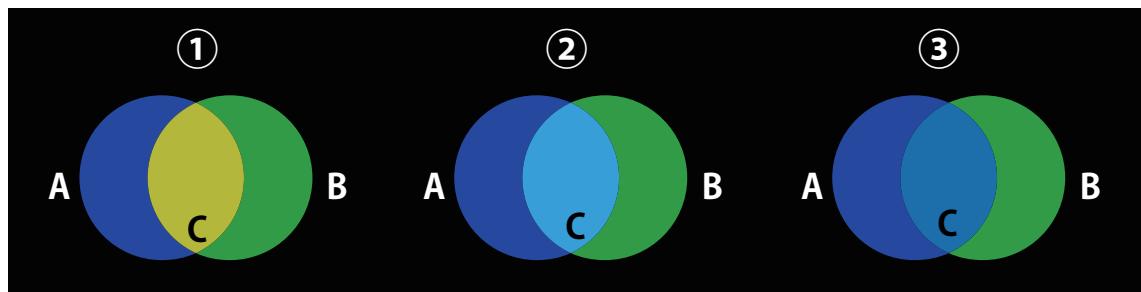
このように材料によって様々な混色がありますが、いずれにしても加法混色か減法混色、また二つの混色が同時に起きています。



問題 1

2色のスポットライトA・Bをスクリーンで重ねました。

重ねた色Cとして正しいのはどれでしょう？

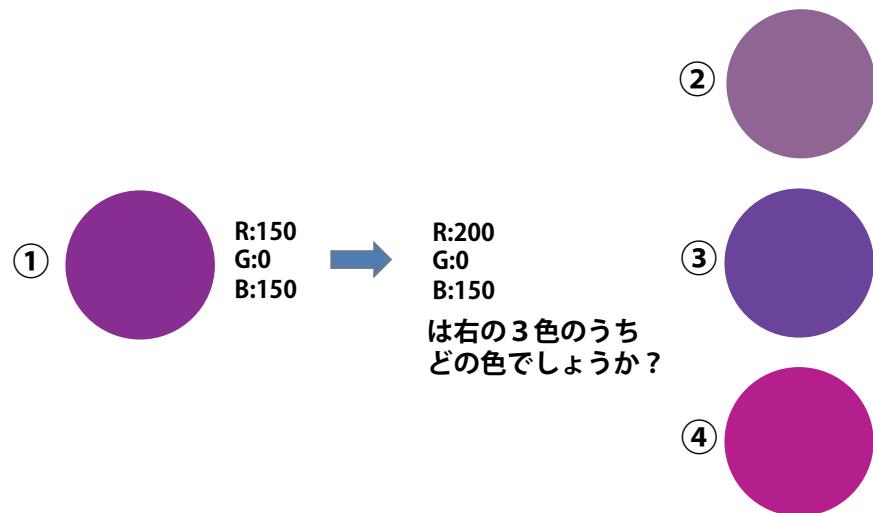


問題 2

R G Bの混色で色を作りました。

①の混合比は R:150 , G:0 , B:150 です。

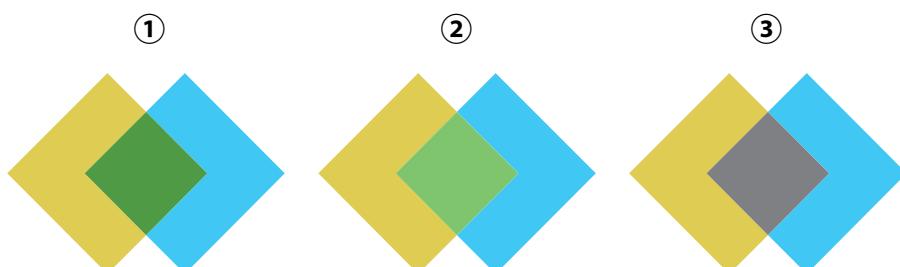
それでは R:200 , G:0 , B:150 の色は②③④のうちどれでしょうか？



問題 3

ライトボックスの上で、色フィルムを重ねました。

重なったところに表れる色として正しいの何番でしょうか？

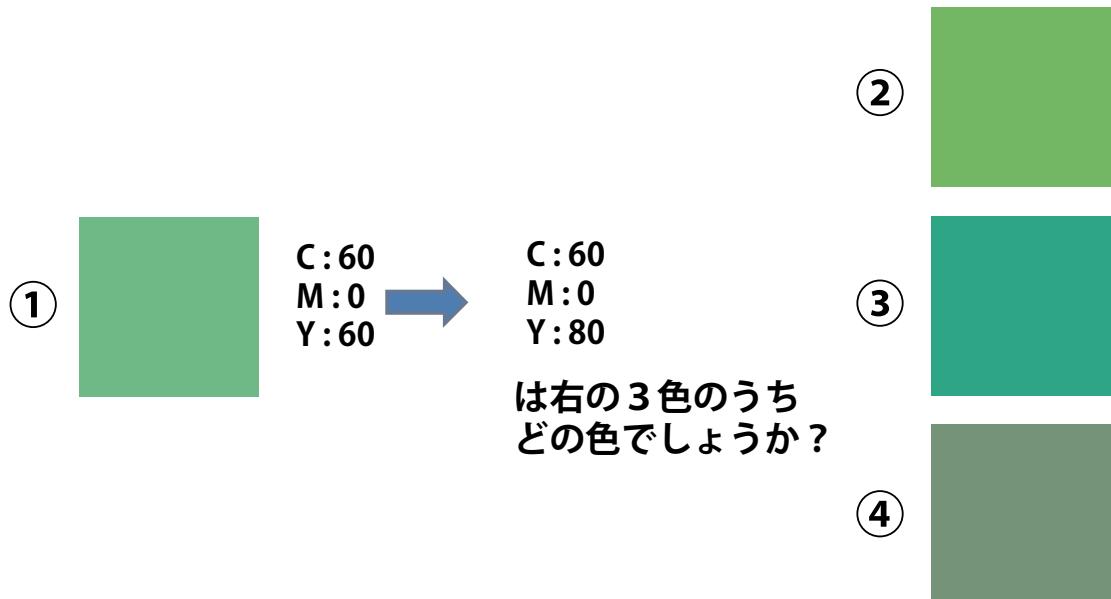


問題4

CMYの混色で色を作りました。

①の混合比は C:60 , M:0 , Y:60 です。

それでは C:60 , M:0 , Y:80 の色は②③④のうちどれでしょう？



答え

問題1 ②

問題2 ④

問題3 ①

問題4 ②

4. 配色の考え方

2色以上の色を組み合わることを配色といいます。

良い配色となるように色の組み合わせを選択するときの最も基本的な考え方には大きく2つあります。

- ①統一的な印象を持たせること、
- ②適度な変化を付けること

この二つの方法を使って、個々の色が全体としてバランスが取れるように色を選定していくことが配色のコツになります。

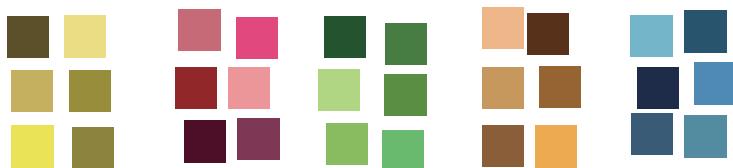
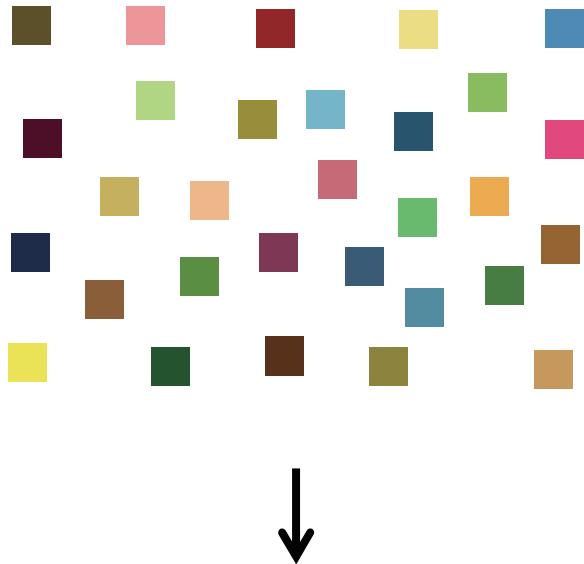
そのための第一段階は、複数の色の共通する要素を目で見て理解することです。

共通する要素をもつ色を選定できるようになった後では、個々の色のコントラストに着目して全体のバランスが取れるようにまとめていくことになります。

それではまず、色の共通性についてみてみましょう。

下に様々な色がありますが、これを色あい別にまとめてみましょう。

色あいとは、赤、青、緑などの違いを指す言葉で、色相（しきそう）ともいいます。色あい別にまとめると、赤の仲間、青の仲間というようなグループにまとめるということです。



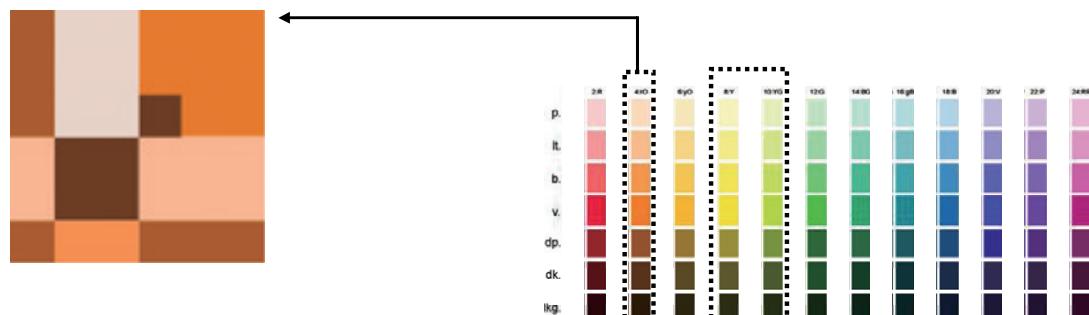
それでは、同じ色相や類似した色相グループの配色を見てみましょう。

右のカラーチャートで同じ縦系列に並んだ色は同じ色相です。

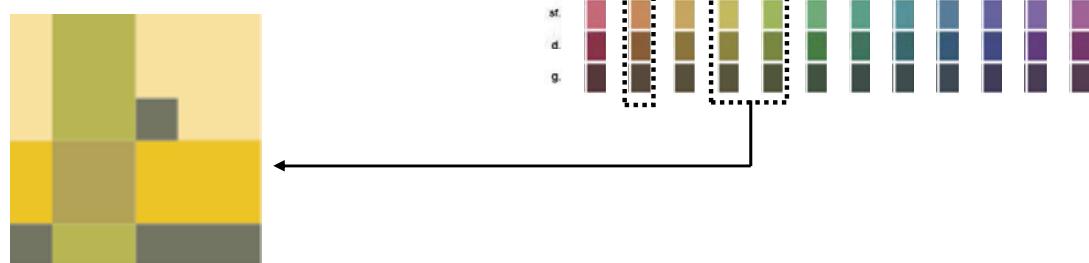
左上の正方形はオレンジの同一色相の組み合わせで、

左下は類似色相（黄色と黄緑）の組み合わせでできています。

◆同一色相配色



◆類似色相配色



それでは問題です。

問題 1

以下の 9 色を類似した 3 種類の色相のグループに分けて下さい。



答え

黄色のグループ



①



⑥



⑧

緑のグループ



②



④



⑨

赤のグループ



③

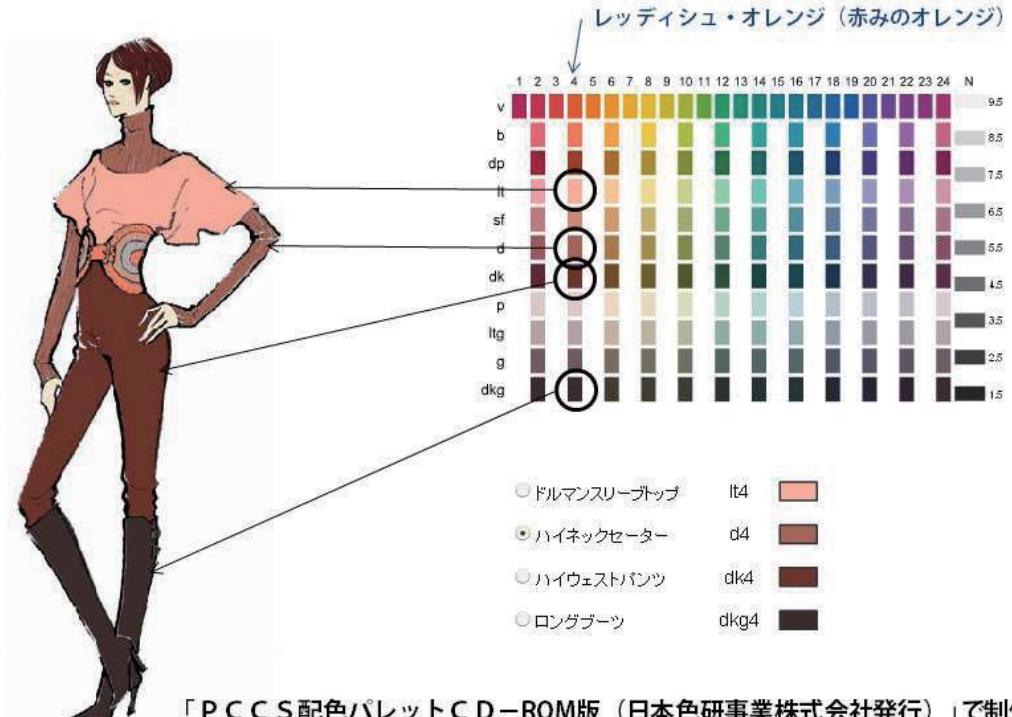


⑤



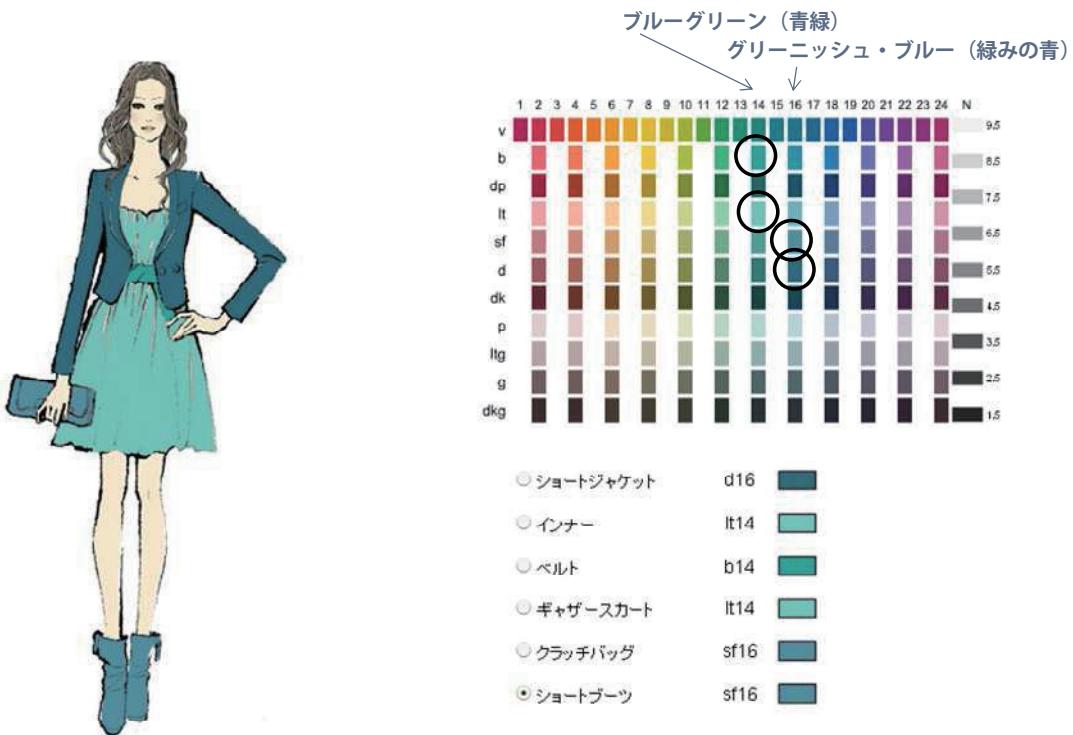
⑦

つぎに、同一色相配色をファッショントーンの配色で見てみましょう。



「P C C S 配色パレット CD-ROM版（日本色研事業株式会社発行）」で制作

類似色相配色をファッションの配色で見てみましょう。



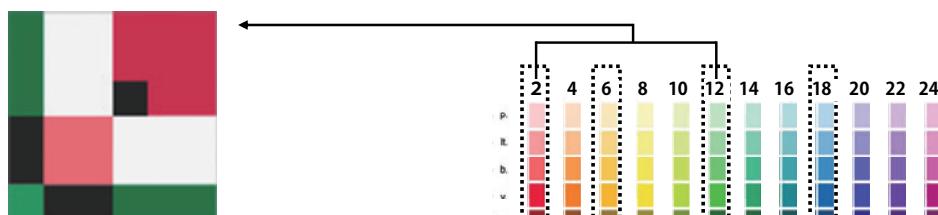
「P C C S 配色パレット CD-ROM版 (日本色研事業株式会社発行)」で制作

次に対照的な色相の配色を見てみましょう。

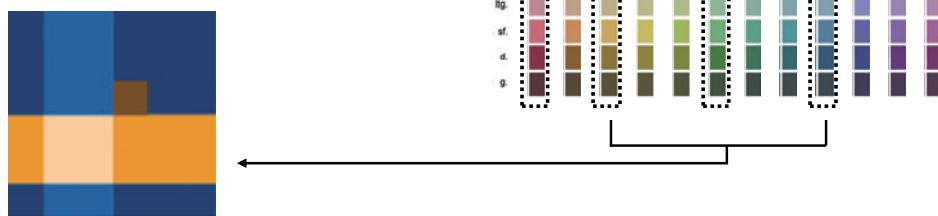
対照色相は赤と緑のように色相のコントラストが大きい配色です。

チャートの上に色相番号が付いていますが、数値の差が 8~12 の範囲にある色同士が対照色相の関係にあります。(色相は循環するので 24 と 2 の差は 2 になります。)

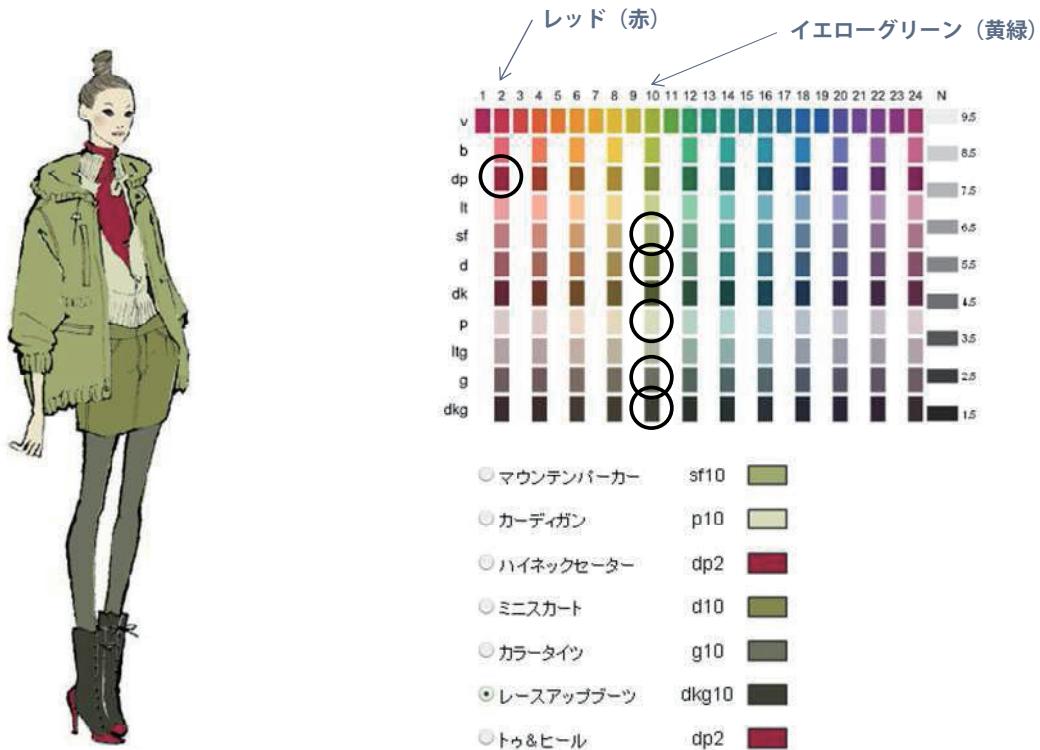
◆対照色相配色（色相差10）



◆対照色相配色（色相差12）



次に、対照色相を使ってアクセントカラーとして配色したファッショングの事例を見てみましょう。



「PCCS配色パレットCD-ROM版（日本色研事業株式会社発行）」で制作

問題 2

下のファッショングの配色で同一類似色相配色は何番でしょうか。



「PCCS配色パレットCD-ROM版（日本色研株式会社発行）」で制作

答え ①

さて次に、色相とは別の仲間を見てみましょう。

下にある様々な色を見比べると、薄い色、鮮やかな色、暗い色というように、色の調子やニュアンスでまとめることができそうです。

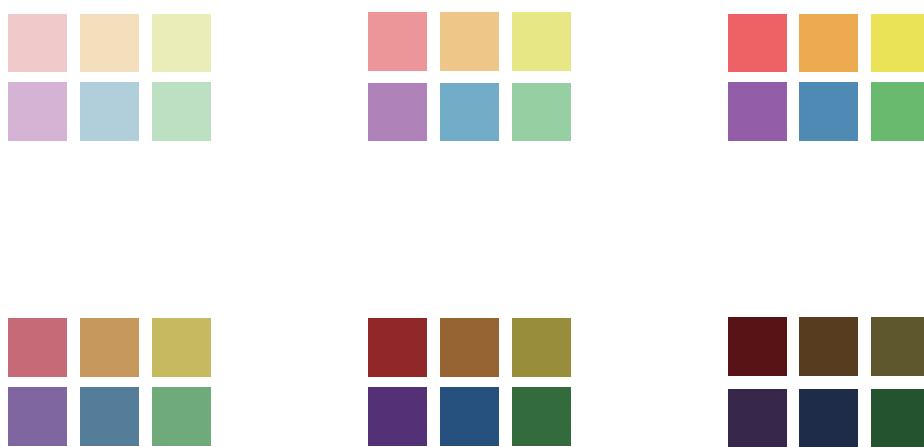
似た調子の色をグループにしてみましょう。



多くの色を、このように 6 種類のグループに分けることができました。

このような色の調子のことをトーンといいます。

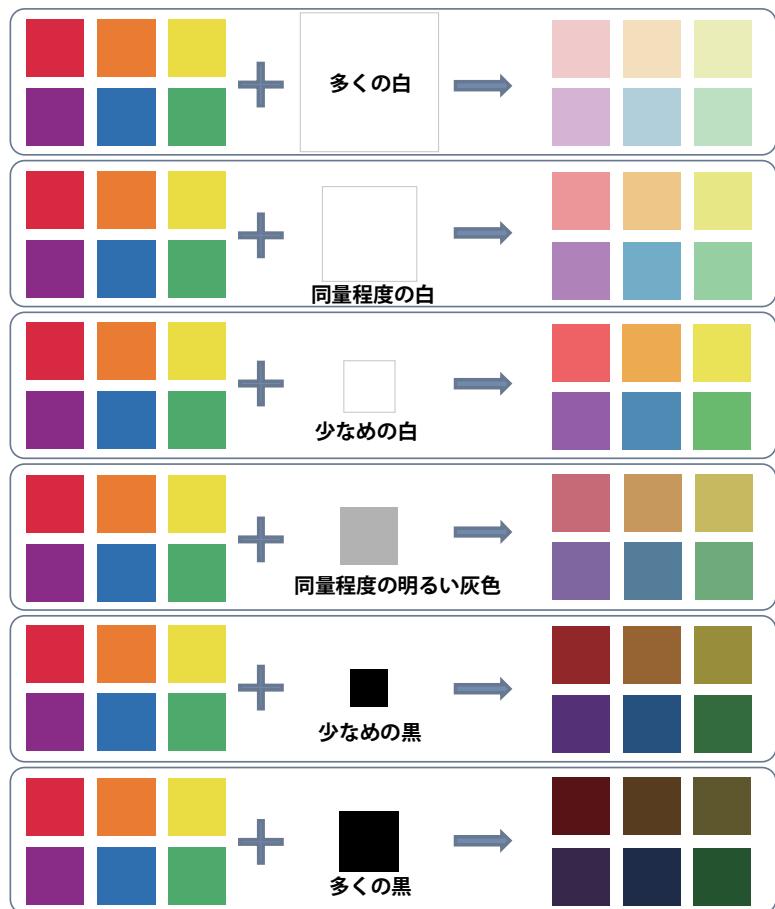
同じグループの色はトーンが同じ色です。



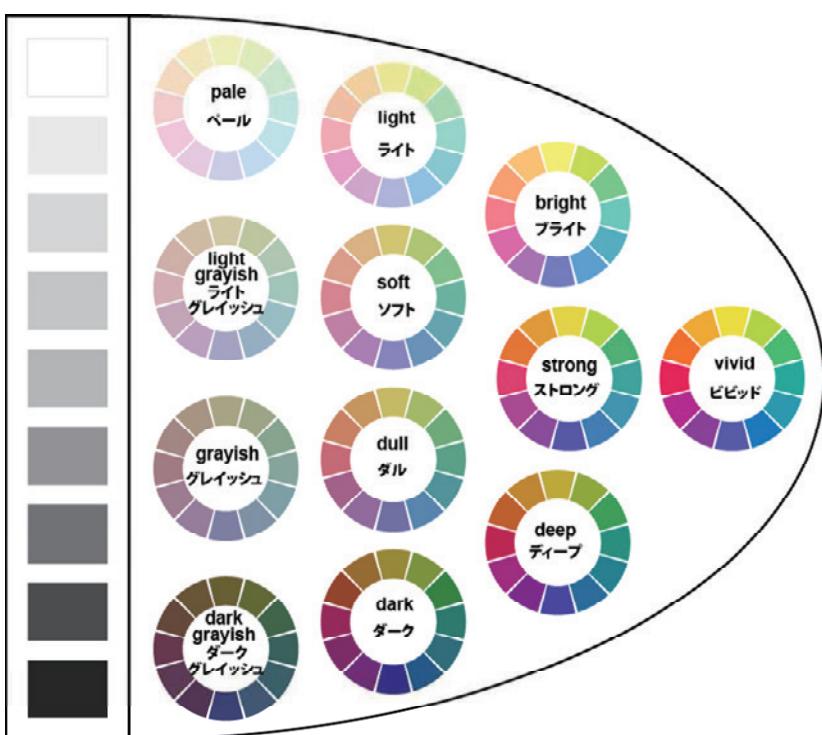
同じトーンの色は、純色に同じ無彩色が同じ分量で混合された印象です。

例えば、一番上の薄いトーン(ペールトーンといいます)は、各純色に多くの白を同じ分量で混ぜてできた色に見えます。

下から2番目のトーン(ディープトーン)は黒を少し混ぜた印象です。



各トーンの位置図をみると、白・黒・純色の混合比と各トーンのイメージの関係が視覚的に理解できます。



それでは問題です。

問題 3

以下の9色を3種類のトーンのグループに分けて下さい。



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨

答え

ペールトーンの
グループ



②

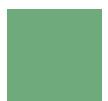


⑥



⑦

ソフトトーンの
グループ



①



⑤



⑨

ディープトーン
のグループ



③



④



⑧

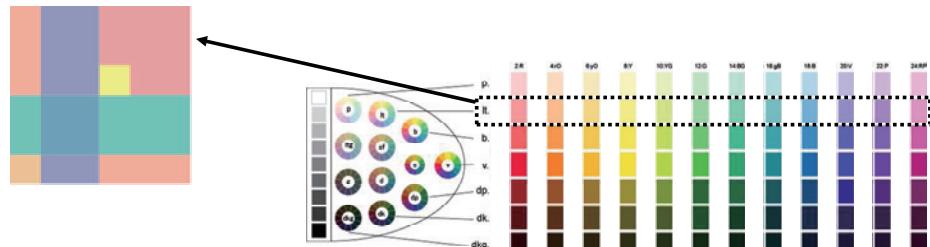
それでは、同じトーンや類似したトーングループの配色を見てみましょう。

右のカラーチャートで同じヨコ系列に並んだ色は同じトーンです。

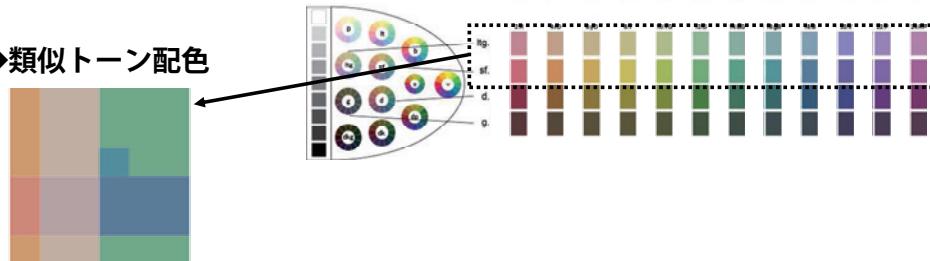
上の正方形はライトトーンの同一トーンの組み合わせで、

下は類似トーン（ライトグレイッシュとソフト）の組み合わせでできています。

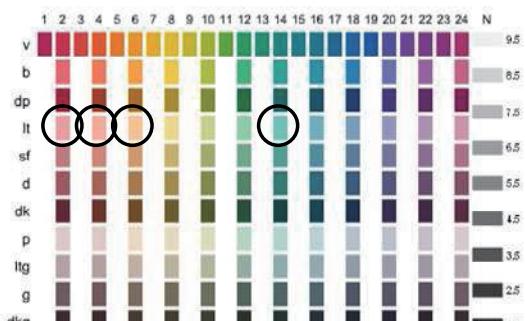
◆同一トーン配色



◆類似トーン配色

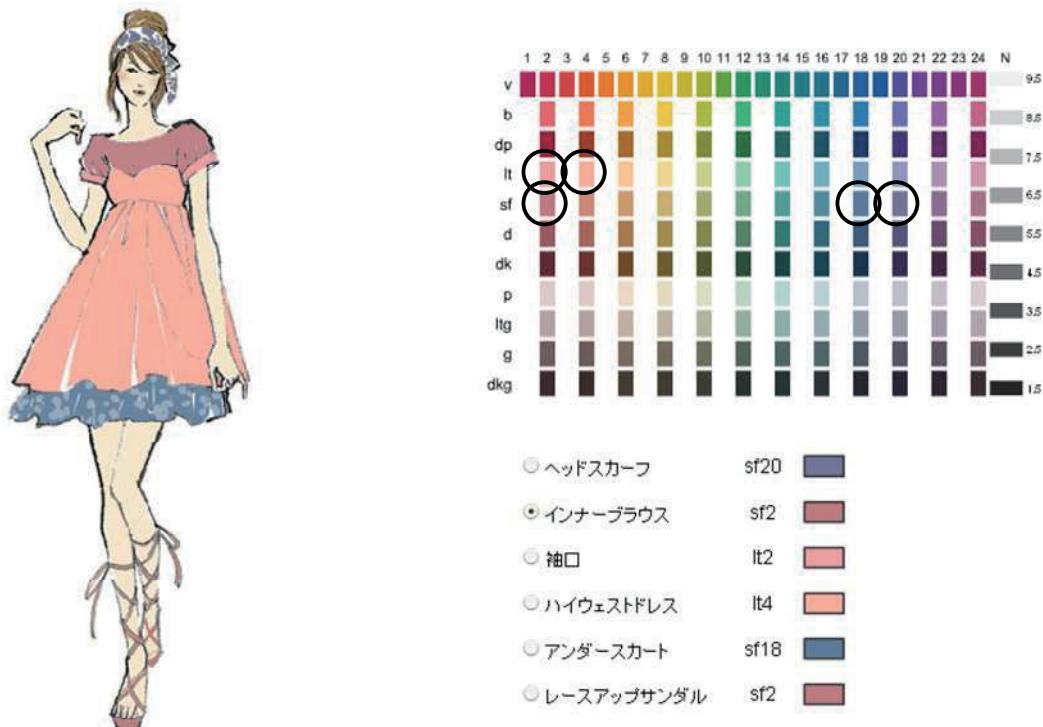


同一トーン配色をファッションの配色で見てみましょう。



「PCCS 配色パレット CD-ROM 版(日本色研株式会社発行)で制作

類似トーン配色をファッションの配色で見てみましょう。

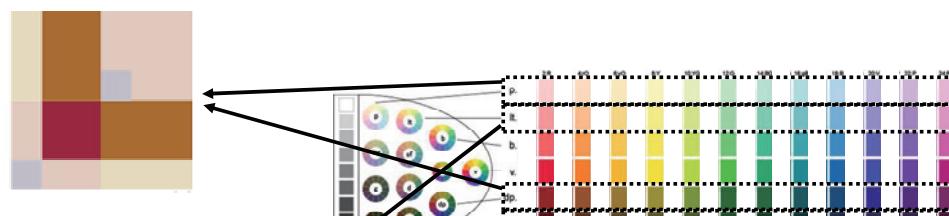


「PCCS 配色パレット CD-ROM 版(日本色研株式会社発行)で制作

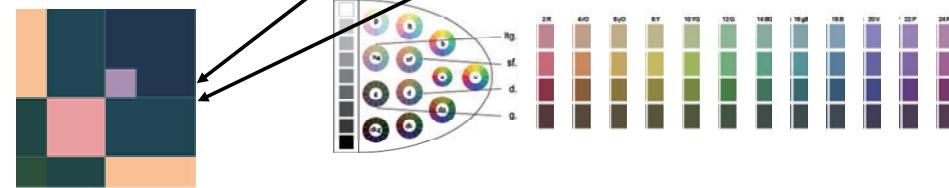
次に対照的なトーンの配色を見てみましょう。

対照トーンはペールトーンとディープトーン、またライトトーンとダークトーンのようにトーン位置図で対照的な位置にあるトーンどうしを組み合わせた配色です。

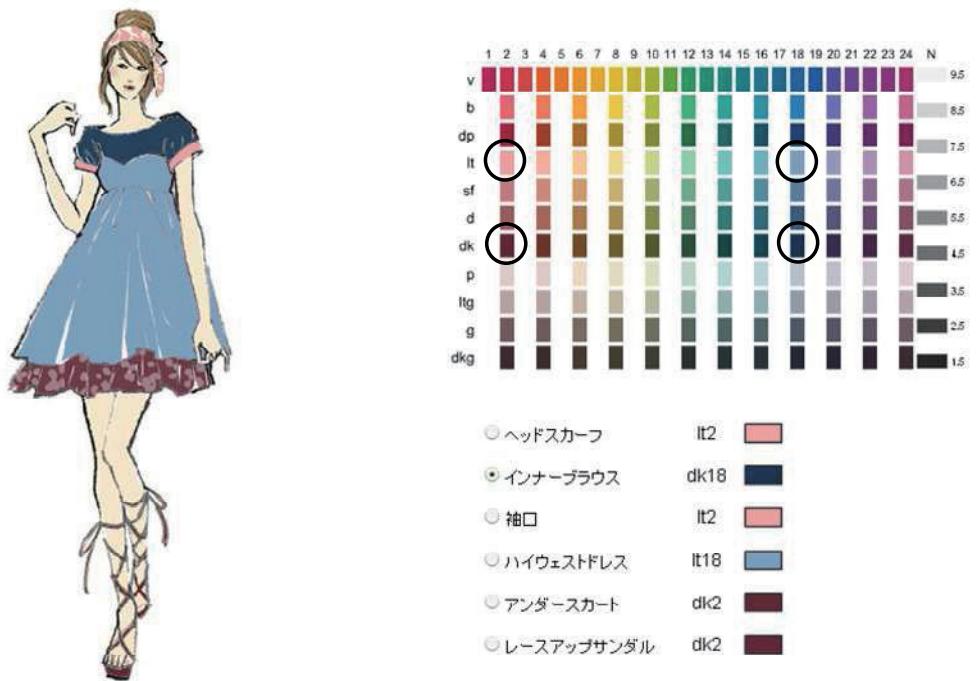
◆対照トーン配色



◆対照トーン配色



対照トーン配色をファッションの配色で見てみましょう。



「PCCS 配色パレット CD-ROM 版(日本色研株式会社発行)で制作

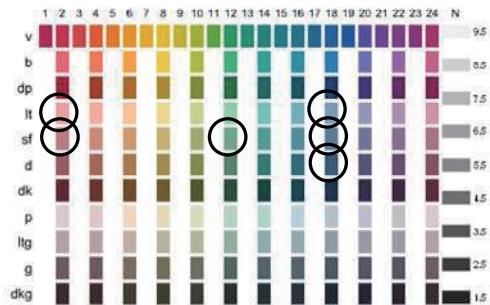
問題 4

下のファッションの配色で同一トーン配色は何番でしょうか。



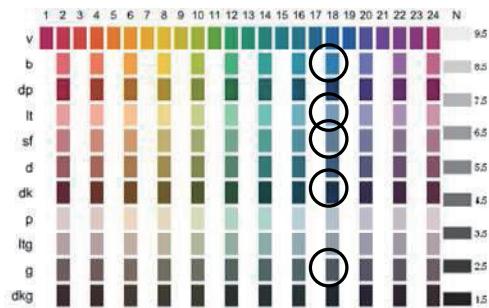
答え

問題4 ① ×



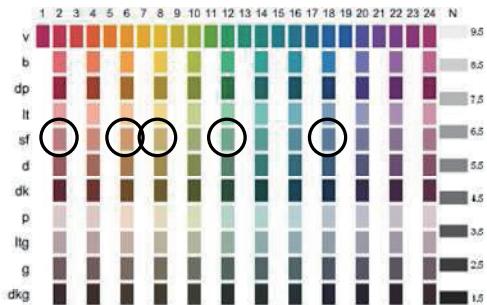
- | | | |
|-----------------|------|--------------------|
| ● ショートスリーブジャケット | sf18 | [Blue square] |
| ● Tシャツ | lt2 | [Pink square] |
| ● ネックレス | sf12 | [Teal square] |
| ● ストレートパンツ | sf2 | [Brown square] |
| ● バッグ | lt18 | [Blue square] |
| ● サンダル | d18 | [Dark Blue square] |

問題4 ② ×



- | | | |
|-----------------|------|--------------------|
| ● ショートスリーブジャケット | sf18 | [Blue square] |
| ● Tシャツ | lt18 | [Blue square] |
| ● ネックレス | b18 | [Dark Blue square] |
| ● ストレートパンツ | dk18 | [Black square] |
| ● バッグ | lt18 | [Blue square] |
| ● サンダル | g18 | [Dark Grey square] |

問題4 ③ ○



- ショートスリーブジャケット sf18
- Tシャツ sf6
- ネックレス sf12
- ストレートパンツ sf2
- バッグ sf8
- サンダル sf2

平成 26 年度成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業
クリエイティブ分野(デザイン)の
中核的専門人材養成におけるモデルカリキュラムの開発と評価

報告書

発 行	平成 27 年 2 月 20 日
発行者	学校法人第一平田学園 中国デザイン専門学校 〒700-0842 岡山市北区船頭町 12 TEL.086-225-0791
印 刷	株式会社 暖丘舎 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-11-1-606